

第Ⅰ章 はじめに

第1節 調査体制

発掘調査（平成7年度）

調査主体 西合志町教育委員会

調査責任者 本田 孝 （元教育長）

調査事務局 坂本 武夫 （元社会教育課課長）

九重 光雄 （元社会教育課課長補佐）

徳永 誠也 （元社会教育係係長）

宮野 孝子 （元社会教育係主幹）

調査担当者 浦田 信智 （元社会教育課技師）

整理報告書作成（令和3年度）

調査主体 合志市教育委員会

調査責任者 中島 栄治 （教育長）

調査事務局 岩男 竜彦 （教育部部長）

飯開 輝久雄（生涯学習課課長）

山隈 和徳 （生涯学習課課長補佐）

境 真奈美 （生涯学習課主幹）

調査担当者 米村 大 （生涯学習課文化財担当主査）

前田 純子 （生涯学習課文化財担当主事）

調査指導者 木村 龍生 （熊本県教育庁文化課）

調査協力者 神 啓崇 （福岡市埋蔵文化財センター）

第2節 調査の経過

2月第1週（1～2日） 2～5号墓前庭部掘削

2月第2週（5～9日） 1～5号墓前庭部掘削、1～5号墓玄室掘削、1・2・4号墓遺物出土状況撮影、5号墓玄室写真撮影、2号墓実測図作成、地形測量

2月第3週（13～16日） 3・4・5号墓前庭部掘削、1・2・4号墓遺構実測図作成、5号墓玄室遺物出土状況撮影、6号墓調査前撮影、4号墓玄室撮影

2月第4週（19～23日） 3・5・6号墓前庭部、玄室、羨道部掘削、3～5号墓遺構実測図作成、1・2号墓完掘状況撮影、3号墓羨道部・玄室遺物出土状況撮影、4号墓完掘状況撮影、5号墓前庭部遺物出土状況撮影、5号墓遺物取り上げ

2月第5週（26～29日） 1～3・6号墓前庭部、玄室掘削、3・6・5号墓前庭部遺物出土状況実測図作成、5号墓玄室完掘状況・前庭部遺物出土状況撮影、3・6号墓玄室撮影、3号墓遺物出土状況撮影

3月第1週（1日） 3号墓前庭部遺物出土状況実測図作成、5号墓前庭部遺物取り上げ、5・6号墓前庭部掘削

3月第2週（4～8日） 3・5号墓前庭部遺物取り上げ、3・5・6号墓前庭部遺物出土状況撮影、6号墓玄室実測図作成、3・6号墓前庭部遺物出土状況撮影、3・5号墓玄室完掘状況撮影、横穴群空中写真撮影、1・3・4・5号墓土嚢による養生、5号墓玄室埋め戻し、6号墓遺物取り上げ

3月第3週（12～14日） 6号墓前庭部・羨道部完掘状況撮影・羨門写真撮影、1・2・6号墓玄室土嚢による養生、地形測量

第Ⅱ章 遺跡の環境

第1節 遺跡の位置と環境

合志台地は、阿蘇外輪山の西側斜面下であり、阿蘇火砕流を基盤とする洪積世段丘である。この台地は、透水性が強く、雨水は地下に浸透することから、起伏の少ない傾斜の緩やかな地形である。菊池川水系である合志川は阿蘇外輪山の鞍岳を源とし、その合志川に流れ込む支流は台地を侵食する谷地形を形成している。本横穴は、この台地の北西に位置する。

台地上で営まれる農業は現在、水利が発達し水田化されるが、近年まで畑作地帯であった。水田化できるのは、わずかな谷地形に限られ、ほとんどは、火山灰より形成された肥沃ではない土地であった。そのため畑作主体の生業が営まれていたと考えられる。

荻迫横穴群は、合志川の支流である塩浸川左岸台地斜面にある阿蘇溶結凝灰岩の崖面を利用し、横穴が築造されている。周辺には、同じ塩浸川左岸に立地する立割横穴群、塚口横穴群があり、その西側台地上に黒松古墳群が位置している。本横穴群の対岸には、生坪古墳、発掘調査が行われた石立石棺、石立遺跡、八反原遺跡、八反田遺跡、迫原遺跡などの多くの古墳が展開する台地がある（第1図）。本横穴群は現在、埋め戻され看板が立っているのみであるが同じ崖面西側に横穴の残欠1基をみることができる。

縄文時代

本市では旧石器時代の遺跡は発見されていない。御手洗遺跡は、縄文時代後期「御手洗式土器」の標式遺跡である。二子山石器製作遺跡（国指定史跡）では、玄武岩質安山岩を母岩として打製石器を製作した痕跡が良好に遺存する。これまでは、金峰山系の安山岩と考えられてきたが、西原村の権現原に分布する高マグネシア安山岩（HMA）と極めて類似した特徴をもつことが指摘されている。須屋城跡発掘調査では、曽畑式土器に先行する野口式と考えられる土器群が出土している。

弥生時代

平成元年から3年にかけて行なわれた生坪地区農業基盤整備事業に伴う発掘調査では、弥生時代後期の竪穴建物が複数の遺跡において確認された。各遺跡の軒数は、石立遺跡4軒、八反田遺跡15軒、八反畑遺跡5軒、八反原遺跡53軒である。八反原遺跡の竪穴建物からは、内行花文鏡が出土している。須屋付近でも弥生時代の集落が確認されており、宿の山遺跡では竪穴建物が検出され、また、宿の山遺跡、梨ノ木遺跡からは中期の甕棺が出土している。

塩浸川下流域の高木原台地には、3重の円弧を描く溝が検出された石立遺跡や、全長約70mの溝が検出された八反畑遺跡などがあり、環濠集落の可能性が考えられている。

古墳時代

合志川流域には多くの古墳が存在している。八反田遺跡、八反畑遺跡、石立遺跡、迫原遺跡、八反原遺跡が本市で調査され、昭和63年に上生上ノ原遺跡が県文化課によって発掘調査された。

八反原遺跡は、方形周溝墓10基、円墳19基が検出されている。4世紀後半～末頃の方形周溝墓から5世紀前半以降の円墳へ推移する。八反原遺跡2・3号墳や上生上ノ原遺跡では、九州でも初期の馬具（轡）が出土した。^{註1)} また、上生上ノ原遺跡では三角板鋌留短甲が出土している。八反原遺跡の6基の周溝からは、殉葬馬の可能性が高い馬骨が馬具とともに出土した。以上のように、黒松古墳群や生坪古墳のある合志川中流域左岸の台地周辺には、朝鮮半島の渡来文化が認められ、中央政権との強い結び付きを示している。^{註2)} 沖田遺跡では上生上ノ原遺跡と同様、古墳時代前期の竪穴建物が3軒検出された。

山本郡の分立した合志郡の範囲（合志・西合志・泗水・旭志・菊陽・大津町）には、前方後円墳が分布しておらず、この地域の特色が挙げられる。

古代

貞観元（859）年合志郡から山本郡が分立し肥後国は 14 郡になる（『日本三代実録』巻 2）。『和名類聚抄』によれば合志郡は合志郷、小川郷、山道郷、鳥嶋郷、口益郷、鳥取郷の 6 郷からなり比定地は諸説あり定まっていない。郡衙の推定地は小合志、高木原・千束遺跡、上鶴頭遺跡、住吉日吉神社が挙げられるが不明な点が多い。八反田遺跡、八反畑遺跡、八反原遺跡、迫原遺跡の発掘調査では、合計 163 軒の竪穴建物が確認されている。出土遺物は、墨書土器や刻書土器をはじめその他の遺物の年代から 7 世紀後半から 9 世紀前半に及ぶ。

千束遺跡では発掘調査の結果、方形に巡る溝、掘立柱建物、臓骨器、円面硯、輸入陶磁器が出土している。

熊本県教育委員会による出口遺跡、揚土遺跡、峠遺跡の発掘調査において墨書土器が多数出土している。八反田 A・B 遺跡、八反畑遺跡、迫原遺跡、八反原遺跡においても墨書土器が認められ、7 世紀後半～9 世紀後半の遺物が出土しており、8 世紀後半～9 世紀前半の遺物が主体である。^{註 3)}

中世

古代の律令体制は 10 世紀初頭には崩壊し、国司が徴税請負人となり地方政治を一任された。国司は郡司や有力農民に租税を請け負わせる方式を採った結果、次第に成長した開発領主は国司と対立を深め中央の貴族や社寺に土地を寄進することで領地の支配権を確立していく。この地域に関して「天満宮託宣記」に正暦 3（992）年「合志荘」が大宰府安楽寺領となるとある。また、「東大寺諸荘園文書目録」に久安 4（1142）年、観世音寺に係する荘園である「竹迫別符」をみることができる。

竹迫氏は 12 世紀末に合志郡地頭職として中原親能の四男中原師員が下向すると「肥後国誌」にある。また、竹迫氏は豊後の大友、肥後の鹿子木、三池氏と同族関係として家系図にある。さらに「妙正寺文書」では、貞和年間の 14 世紀半ばに鹿子木貞基から種継に代わり、竹迫を名乗るともあり、定説をみない。

合志氏は菊池系合志、中原系合志、佐々木系合志の 3 系統に別れるようであるが系譜を追える史料は確認できない。

合志郡半郡の地頭職となった佐々木系合志は南北朝時代に北朝方として菊池氏と対峙し、武勇の優れた合志幸隆は大友氏とともに菊池城を攻め一時、陥落させる。天正 13（1585）年合志氏は島津氏に降伏し、高重は薩摩羽月で殺害され、親為は幽閉後帰路の途中八代郡大野で死去したとされる。天正 15（1587）年豊臣秀吉の九州平定が行われる。

須屋氏については、南北朝期の興国 3（1342）年、菊池氏の武士起請文に須屋刑部という名がみられ、菊池氏の支配下にあったことがわかる。16 世紀に合志氏が竹迫城跡に拠点を移し、家臣の財産を整理したと考えられる厳照寺文書「社寺方并侍中坪付写」には、須屋新九郎という人物がみられることから合志氏の家臣であったことが窺える。

平成 17 年合志小学校新築事業に伴う陣ノ内遺跡発掘調査では、14 世紀～16 世紀の複数の堀が検出され、館跡の区画が存在したことが判明した。報告書では、文献調査なども合わせ竹迫氏の館跡から合志氏の菩提寺である清寿院跡に変わる遺跡との位置付けを行っている。また、文献調査において竹迫城絵図の描かれた背景なども判明した。中世において稲作に適さない台地の生業に関して、大山氏は、肥後の大宰府天満宮の「御燈油料所」を旧合志郡内の「富納」、「片俣」にあったことを確認し、荏胡麻の栽培を背景とした油の生産が合志氏の経済力を支える一部であったことを指摘している。^{註 4)}

須屋城跡では、発掘調査の結果、現存していた L 字状の土塁の外側に幅約 3 m、深さ約 2 m の堀が南北方向に 56 m、また、東西に並行する長さ 90 m の 2 条の堀が確認された。これらの堀は、城域を T 字状に区画する。土塁の出土遺物からは、14 世紀～15 世紀頃に築造された可能性が高い。^{註 5)}

註

註 1) 桃崎 祐輔 2007 「馬具からみた中期古墳の編年」『九州島における中期古墳の再検討』九州前方後円墳研究会

註 2) 杉井 健 2010 「肥後地域における首長墓系譜変動の画期と古墳時代」『九州における首長墓系譜の再検討』九州前方後円墳研究会

註 3) 浦田 信智 1995 「第 7 章 山本郡の独立」『西合志町史』

註 4) 大山智美 2008 「戦国期国衆の存在形態—肥後国合志氏を素材として—」熊本史学第 89・90・91 合併号

註 5) 浦田 信智 2013 「須屋城跡」合志市文化財調査報告書 第 2 集

第1表 合志市遺跡一覧表

番号	県道跡番号	名 称	時代	種別	所在地	備考
1	405-001	中林古墳	古墳	古墳	栄・中林	円墳2基、うち1基は勢将塚と呼ばれている。
2	405-002	中林遺跡	縄文	包蔵地	栄・中林	御領式土器
3	405-003	中林西原	弥生	包蔵地	栄・西原	千束遺跡 県調査平成3年、円面縄出土
4	405-004	後川辺	古墳	包蔵地	栄・後川辺	権現原、南原、西原遺跡、県調査 昭和63年、野辺田式土器
5	405-005	ヤンボン塚古墳	古墳	古墳	栄・村園	円墳
6	405-006	千束城跡	中世	城	栄・城山	
7	405-007	千経塚遺跡	弥生・他	包蔵地	上庄・千経塚	県調査 昭和61年
8	405-008	野付遺跡	縄文・他	包蔵地	福原・野付	押型文、黒髪式甕棺
9	405-009	疾音寺跡	中世	寺社	竹迫・屋敷	古塔、一字一石経塔
10	405-010	陣の内遺跡	弥生・他	集落	幾久富・陣の内	甕棺、環濠集落
11	405-011	宮の前遺跡	弥生	包蔵地	上庄・宮の前	須玖式・黒髪式土器・土師器
12	405-012	小園遺跡	縄文～弥生	包蔵地	豊岡・小園	御領式土器、石器・弥生土器
13	405-013	竹迫城跡	中世	城	上庄・城山	中世城
14	405-014	木瀬遺跡	弥生	包蔵地	上庄・木瀬	竪穴式住居跡、S字文鏡、重弧文式土器・石包丁
15	405-015	虚空蔵横穴	古墳	古墳	上庄・東谷	近世の岩窟？
16	405-016	御手洗遺跡	縄文・他	包蔵地	幾久富・乙丸	縄文後期・御手洗式土器・土師器
17	405-017	原口新城跡	中世	城	豊岡・宮の前	県調査
18	405-018	桑鶴遺跡	縄文～弥生	包蔵地	福原・出分	昭和50年園場整備、盛土で残す
19	405-019	八久保遺跡	縄文	包蔵地	竹迫・八久保	阿高式・御領式
20	405-020	竹迫宇土遺跡	縄文	包蔵地	竹迫・宇土	県調査、三方田式、弥生中期
21	405-021	群山遺跡	古代・中世	包蔵地	豊岡・群山	骨蔵器
22	405-022	飯高山遺跡	弥生	包蔵地	楢原・飯高	埴輪・飯高
23	405-023	御領遺跡	縄文・他	包蔵地	竹迫・福原	土偶・御領式土器、甕棺よりゴホウラ製貝輪
24	405-024	轟遺跡	弥生	包蔵地	竹迫・福原	押型文、黒髪式土器
25	405-025	豊岡宮本横穴群	古墳	古墳	豊岡・宮本	12基、平成16年調査
26	405-026	国泰寺跡	中世	寺社	上庄	
27	407-001	上生遺跡	弥生	埋葬	上生・北野	
28	407-002	城遺跡	古墳	包蔵地	上生・城敷	野辺田式土器、『日本書紀』誌石の本地
29	407-003	沖田遺跡	縄文・他	包蔵地	野々島・沖田	丸木船、御領式・野辺田式、土師器・石器
30	407-004	黒松岡原遺跡	縄文	集落	合生・黒松	表面に土器細片散布・石斧出土
31	407-005	黒松萩の迫遺跡	弥生	包蔵地	合生・萩の迫	
32	407-006	北野甕棺遺跡	弥生	埋葬	上生・北野	
33	407-007	聖寿寺跡	中世	寺社	上生・城	
34	407-008	上原遺跡	縄文～奈良	包蔵地	上生・上原	
35	407-009	城塚遺跡	縄文～古代	包蔵地	上生・城敷	
36	407-010	積雪城跡	中世	城	上生・城敷	
37	407-011	城敷古墳	古墳	古墳	上生・城敷	
38	407-012	アミダミ遺跡	縄文～古代	包蔵地	野々島・前畑	
39	407-013	延寿寺遺跡	縄文～古代	包蔵地	野々島・古閑	
40	407-014	巡畑遺跡	縄文～古代	包蔵地	野々島・巡畑	
41	407-015	永田支石墓	弥生	埋葬	野々島・永田	支石墓
42	407-016	永田石棺	古墳	埋葬	野々島・永田	
43	407-017	瀬田古墳	古墳	古墳	野々島・瀬田	
44	407-018	塩浸石棺	古墳	埋葬	上生・塩浸	
45	407-019	笹塚遺跡	弥生・古墳	包蔵地	上生・笹塚	市指定 笹塚古墳
46	407-020	永田遺跡	弥生・古墳	包蔵地	野々島・永田	
47	407-021	向原遺跡	弥生・古代	包蔵地	上生・向原	
48	407-022	アナンド遺跡	弥生	包蔵地	上生・池尻	
49	407-023	岡原遺跡	縄文～古代	包蔵地	合生・岡原	
50	407-024	古閑原遺跡	弥生・古墳	包蔵地	野々島・古閑	
51	407-025	城豊棺群	弥生	埋葬	上生・城	
52	407-026	中尾遺跡	縄文～古墳	包蔵地	野々島・中尾	縄文・弥生・古墳期土器片
53	407-027	黒松古墳群	古墳	古墳	合生・萩の迫	
54	407-028	生坪古墳群	古墳	古墳	合生・生坪	市指定 生坪塚山古墳
55	407-029	八反田遺跡	弥生	埋葬	合生・八反田	旧西合志町調査、甕棺・壺・柑・石斧
56	407-030	立割横穴群	古墳	古墳	合生・立割	横穴数基から成る
57	407-031	小合志古墳	古墳	古墳	合生・小合志	円墳、巨石横穴石室消滅、副葬品多数
58	407-032	弘生原遺跡	弥生・古墳	城	合生・弘生	弥生野辺田式、土師器・須恵器土器
59	407-033	迫原ハヤマ古墳	古墳	古墳	合生・迫原	円墳、箱式石棺、鉄鍬・文字ある土師器
60	407-034	江良遺跡	古墳	集落	合生・江良	野辺田式、土師器・須恵器片多数出土
61	407-035	迫原長塚古墳	古墳	古墳	合生・迫原	箱式石棺
62	407-036	高木原遺跡	縄文～奈良	包蔵地	合生・高木	縄文後期、奈良時代、出土品大量
63	407-037	合志郡家跡推定地	古代	包蔵地	合生・玉蓮寺	
64	407-038	玉蓮寺跡	中世	寺社	合生・玉蓮寺	
65	407-039	弘生城跡	中世	城	合生・弘生	
66	407-040	塚口横穴群	古墳	古墳	合生・塚口	
67	407-041	八反原遺跡	弥生・古墳	集落	合生・弘生	旧西合志町
68	407-042	野々島遺跡	弥生・他	包蔵地	野々島・北	畑地、弥生・野辺田式土器・土師器
69	407-043	八反畑遺跡	縄文～弥生	包蔵地	野々島・八反畑	旧西合志町調査、縄文～弥生土器、中央小校庭
70	407-044	フタゴ塚古墳	古墳	古墳	野々島・天神免	円墳
71	407-045	枇杷田遺跡	縄文	包蔵地	野々島・中原	縄文早期
72	407-046	西合志中学校敷地遺跡	縄文・古墳	包蔵地	野々島・中原	御領式土器・古式勾玉・野辺田式・須恵器
73	407-047	野々島土塁跡	中世	包蔵地	野々島・八通丸	八通丸
74	407-048	花園遺跡	弥生～古代	包蔵地	野々島・花園原敷	
75	407-049	野田原遺跡	弥生・古墳	包蔵地	野々島・芝原	
76	407-050	駄飼場遺跡	古代	包蔵地	野々島・駄飼場	
77	407-051	弁天山磐座遺跡	古代	祭祀	野々島・野々島	
78	407-052	薬薬寺跡	中世	寺社	野々島・外園	
79	407-053	花園土塁跡	中世	包蔵地	野々島・花園原敷	
80	407-054	二子山石器製作遺跡	縄文	包蔵地	野々島・天神免	石器各種・原石
81	407-055	中原支石墓	弥生	埋葬	野々島・中原	
82	407-056	丸の内遺跡	縄文	包蔵地	野々島・丸内	
83	407-057	笹山遺跡	縄文	包蔵地	御代志・大池	
84	407-058	小合志原遺跡	縄文	包蔵地	合生・辻久保	
85	407-059	辻久保遺跡	縄文	包蔵地	合生・辻久保	
86	407-060	若原石棺	古墳	埋葬	野々島・若原	石棺群あり
87	407-061	中野遺跡	縄文～古代	包蔵地	野々島・中野	
88	407-062	木原野遺跡A・B	縄文	包蔵地	野々島・沖野	石鏃
89	407-063	福の山遺跡	弥生	埋葬	須屋・福の山	弥生合口甕棺・土師器片一括
90	407-064	梨の木遺跡	縄文	包蔵地	須屋・梨ノ木	
91	407-065	向島遺跡	縄文	包蔵地	須屋・向島	
92	407-066	須屋城跡	縄文・古墳・古代・中世	城	須屋・下屋敷	合志市調査 中世城跡
93	407-067	妙泉寺跡	中世	寺社	須屋・福の山	骨蔵器出土
94	407-068	ヌレ親曾古墳	古墳	古墳	合生・鬼塚	
95	407-069	巡畑遺跡	弥生・古墳	包蔵地	野々島・巡畑	
96	407-070	船入遺跡	縄文・中世	館	須屋・船入	県調査 平成13年
97	407-071	狭迫横穴群	古墳	古墳	合生・狭迫	旧西合志町調査
98	405-027	豆ヶ原遺跡群	縄文	包蔵地	上庄・豆ヶ原	県調査 平成元年
99	405-028	土窪遺跡	古代	包蔵地	上庄・土窪	県調査 平成元年
100	405-029	榎山遺跡	古代	包蔵地	上庄・榎山	骨蔵器
101	405-030	峠遺跡	古代	集落	上庄・峠	県調査 平成3年 墨書土器
102	405-031	田口遺跡	古代	集落	上庄・出口	県調査 平成3年 墨書土器
103	405-032	塚土遺跡	古代	集落	上庄・塚土	県調査 平成3年 墨書土器
104	405-033	中野遺跡	縄文	包蔵地	上庄・中野	縄文晩期
105	405-034	天神本遺跡	古代	埋葬	豊岡・天神本	不詳発見 骨蔵器より火葬骨・唐式鏡出土
106	405-035	今町遺跡	中世	埋葬	幾久富・今町	旧合志町役場跡、現町営住宅付近
107	405-036	寺崎城跡	中世	城	上庄・寺崎	中世城跡の可能性
108	407-028-1	生坪塚山古墳	古墳	古墳	合生・漆崎	
109		蛇ノ尾城跡	弥生・中世	包蔵地	上庄・東谷	竪穴式住居跡、中世城の可能性
110		虚空蔵さん	中世	祭祀	上庄・東谷	
111		竹迫城惣構え跡	中世	城	上庄・竹迫	

第Ⅲ章 調査とその成果

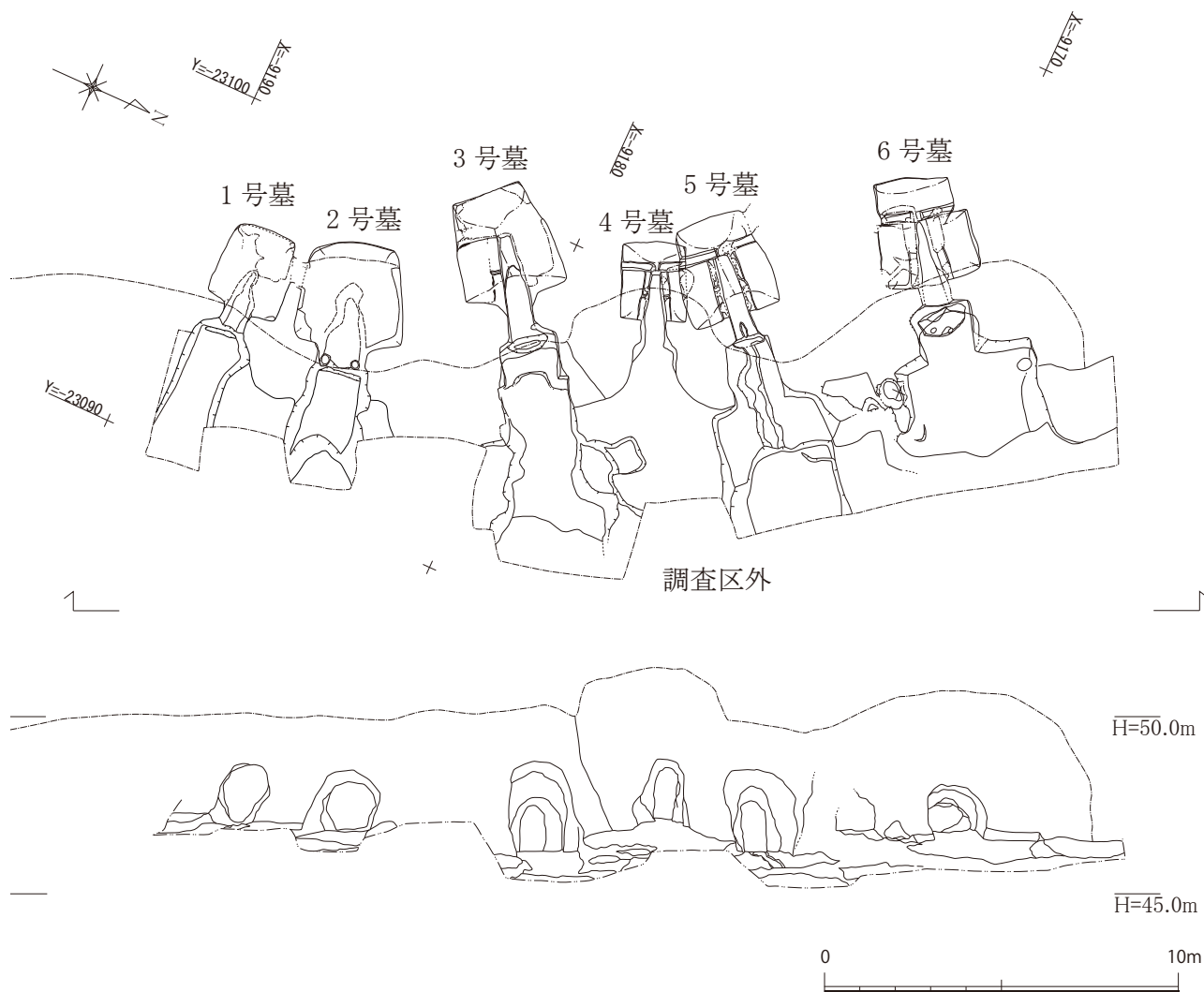
第 1 節 遺跡の概要

荻迫横穴群は、合志市大字合生に所在する。塩浸川左岸台地の斜面に位置し、周辺には黒松古墳群をはじめ塚口横穴群や立割横穴群が存在する。さらに、塩浸川対岸の台地上には、生坪塚山古墳、八反原遺跡など、多くの古墳が集中する地域である。

本横穴群は、立割地区農業基盤整備事業に伴う発掘調査が、西合志町教育委員会により平成 8 年 2 月から 3 月にかけて実施された。発掘調査の結果、6 基の横穴が確認された。6 号墓のみ閉塞石が残存していたが、開口しており、6 基全て、発見時において既に開口していた。

調査の結果、6 基は、開口していたものの盗掘は免れたとみられる。6 基は、複数の段を形成するものではなく、ほぼ一列に並ぶ配置であった。墓室の位置にほぼ高低差はなく、開口方向は概ね北東である。

1・2・3 号墓の墓室は、残存状態が不良であった。1・2 号墓は戦時中に防空壕として利用されていたためか側壁の穴が空き、繋がっていた。日誌に、2 号墓は、昭和 4 年に井上氏等によって調査が行われ、その際に屍床部を掘り下げられた記載があった。3 号墓は、天井部の一部に、崩落が認められ、屍床部は排水溝 1 条のみを残し、仕切りは残存していなかった。残存状況の悪い 1・2・3 号墓に対し、4・5・6 号墓は比較的、残存状況が良好であった。特に、



第 2 図 荻迫横穴群遺構配置図 (S = 1/200)

5号墓の玄室からは赤色顔料が確認された。人骨に関しては、ほぼ確認できなかったが、6号墓の通路部から奥歯が1本出土している。墓室の構造や規模は異なり、第IV章まとめにおいて若干の検討を行った。

前庭部は、埋没していた状況にあったが、玄室内の堆積状況は、1・2号墓の屍床面に約3cmの堆積が認められ、3号墓の玄室通路は、埋没していた。また、4号墓の羨門から玄室通路にかけて埋没し、屍床面に約3cmの堆積が確認された。5号墓は、玄室内に約50cm、屍床面に約5～10cmの土砂が堆積していた。6号墓では、玄室通路がほぼ埋没し、屍床面において約3～5cmの堆積であった。

前庭部から羨道部にかけては、須恵器・土師器等の多量の土器類、馬具・刀子等の鉄製品、耳環等が出土した。3・5号墓の玄室からは、馬具や刀子等の鉄製品、土製丸玉・ガラス製小玉等の玉類、耳環等の副葬品が出土した。これらの出土状態の類型から第IV章まとめでは葬送儀礼について検討を行っている。

第2節 遺構の名称

当該地域における横穴の特徴である玄室方形の平面プラン・コ字形屍床配置は「肥後型」と規定され、横穴式石室の影響が指摘される。^{註1)}

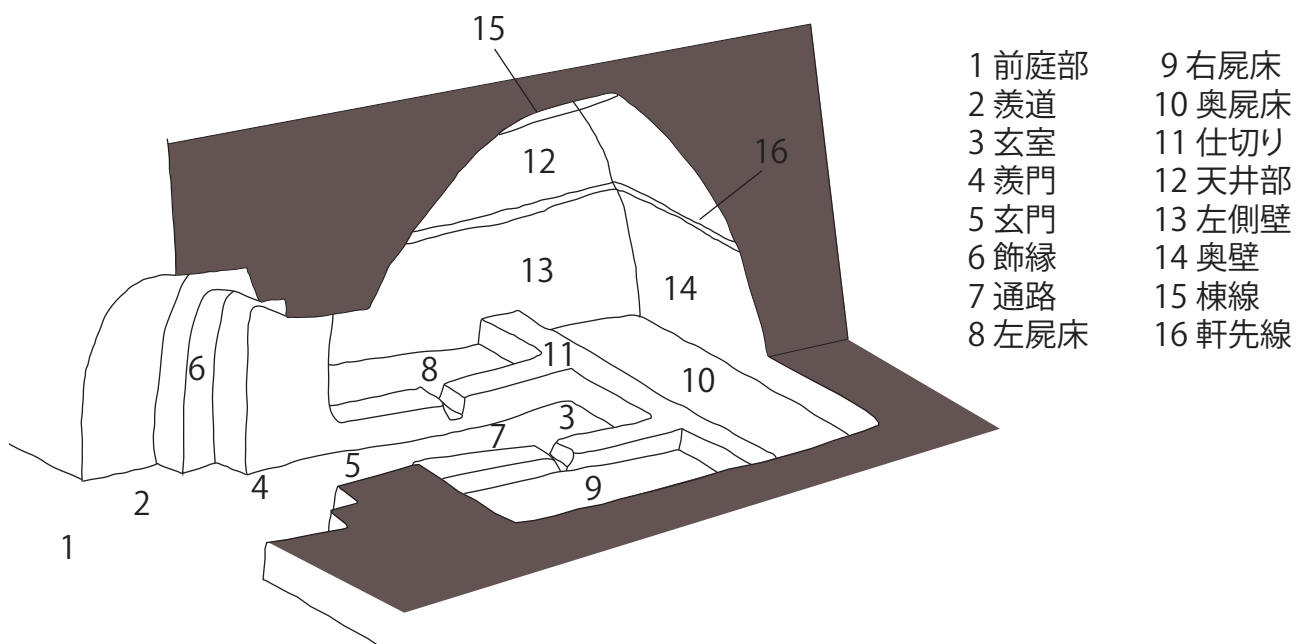
前庭部は墓の入口部前方に設けられた空間で葬送儀礼などを行ったと考えられている。

^{註2)} この前庭部は地域によって構造が異なることから名称は定まっていない。「つつじヶ丘横穴群」報告書において当該地域の横穴は前庭部と羨門とのアーチ状の天井に覆われた空間が存在し、これを「羨門」と呼称する点が他地域と異なることから、他地域で呼ばれる「羨道」は当該地域の羨門～玄門にあたりとし「羨門～玄門通路」と呼称したいとあり、本報告書もこれに倣いたい。屍床部の名称は羨門の入口側から左右屍床と奥屍床と呼ぶ。本報告書では、利用する部分名称について第3図を参照されたい。

註

註1) 小田富士夫 1975 「九州の横穴墓序説」『九州考古学研究 古墳時代編』

註2) 池上悟 1984 「横穴墓」『考古学ライブラリー』



(松本健郎・西住欣一郎 1989『北上原古墳・瀬戸口横穴群』を転載)

第3図 横穴の部分名称

第3節 調査の成果

1 号墓

規模・構造（第4図）

前庭部は、残存する奥行 3.10m、最大幅 1.85m を測る。平面形は、右壁面が屈曲するのに対し、左壁面が直線的である。羨門は、幅 1.04m、崩落により高さ不明である。羨門～玄門通路は、奥行 0.51m を測り、幅は、羨門側 1.06m、玄門側 0.84m、高さは、羨門側約 2.16 m、玄門側 1.74m である。羨門～玄門通路の横断面は崩落により上部が不明であるが縦長の半円形であったと推測される。閉塞石は検出されなかったが、閉塞石の掘方と推定される部分に奥行 0.18m、幅 0.89m、深さ 0.13 m の落ち込みが認められた。玄門は、幅 0.86m、高さ 1.50m である。羨門～玄門通路及び玄室通路は残存状況が悪いが、僅かに残る痕跡から規模を推定でき、奥行 1.73m、幅 0.44m である。基底面は緩やかに傾斜する。

玄室の主軸方向は、N88° E で東に開口する。規模は奥行 2.80m、幅 2.64m を測り、平面形は長方形に近い形状を呈する。天井部は一部崩落し、隅線及び棟線は不明瞭であるが、四隅に残る棟線から切り妻の屋根型ではないかと推測される。残存する痕跡から、天井横断面はドーム形であったと考えられ、天井高は推定 1.6 m を測る。天井奥壁の縦断面は、直立に近い角度で短く立ち上がり、天井部へ緩やかに続く。左右の壁面も直立に近い角度で立ち上がる。屍床部は、残存状況が悪く、規模は不明である。

2 号墓

規模・構造（第5図）

前庭部は、残存する奥行 2.64m、幅 1.86m を測る。羨門は、幅 0.86m、崩落により高さ不明である。羨門～玄門通路は、奥行 0.62m、幅は、羨門側 1.40m、玄門側 1.50m、高さは、羨門の崩落により不明で、玄門側 1.32m である。羨門～玄門通路の横断面は縦長の方形である。羨門付近の玄室側において柱穴 2 基が両隅に認められ、閉塞石の掘方を検出した。

玄室の主軸方向は、N75° E で北東に開口する。規模は奥行 3.02m、幅 2.90m を測り、平面形は台形を呈する。天井部の隅線及び棟線は不明瞭であるが、四隅に残る棟線から切り妻の屋根型に近い形状であったと推測される。天井横断面はアーチ状を呈し、天井高は 1.78m を測る。天井奥壁の縦断面は、直立に近い角度で立ち上がり、天井部へ緩やかに続く。左右の壁面も直立に近い角度で立ち上がる。玄室通路は残存状況が不良で、推定される奥行 1.88m、幅 1.02m で奥屍床へ向かい窄まる。通路基底面は、比較的緩やかに傾斜する。屍床部は、残存状況が悪く、規模は不明である。

3 号墓

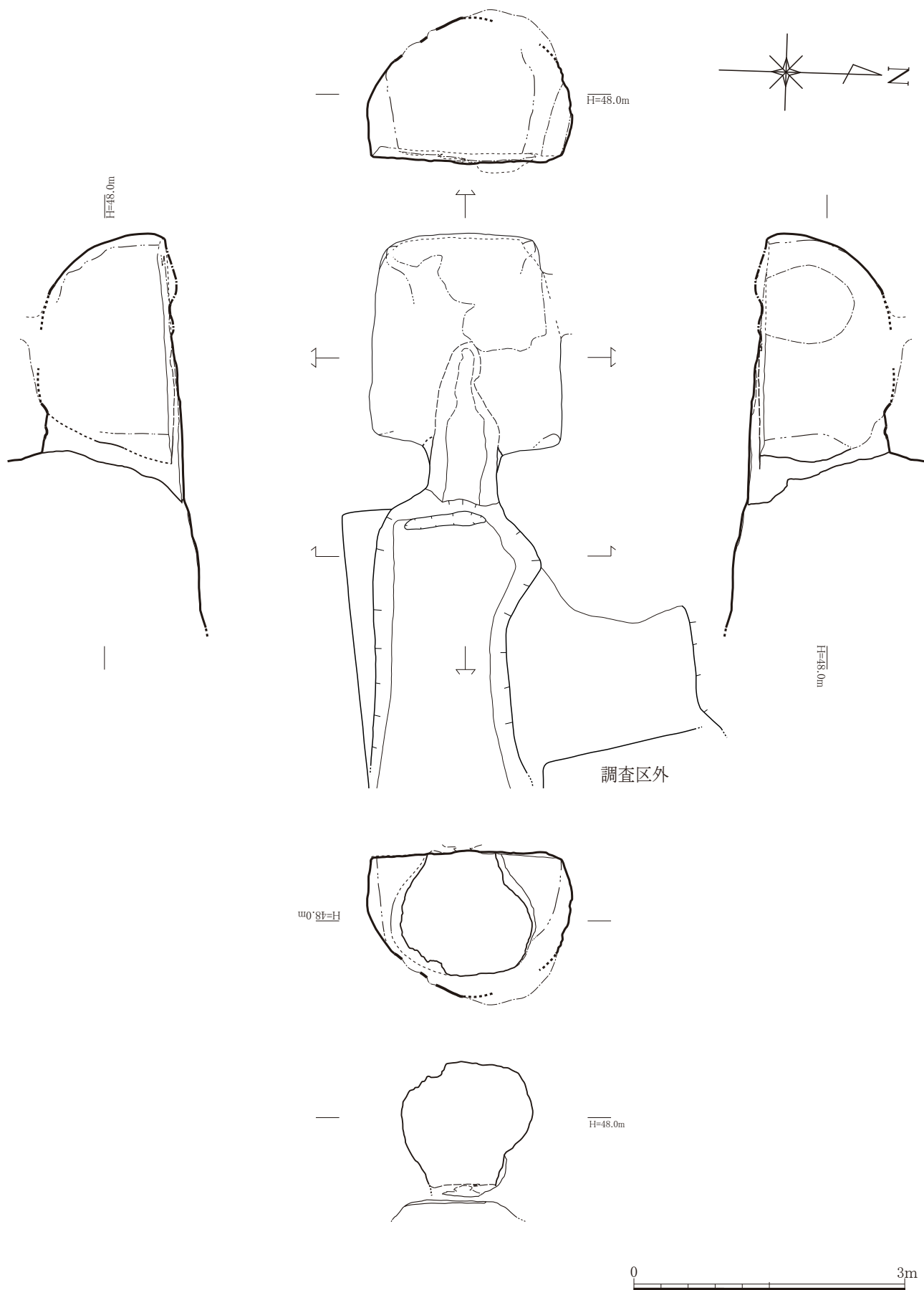
規模・構造（第6図）

前庭部は台形を呈し、手前側の右壁面下端は、羨道に向かう途中で屈曲することから幅広い空間が存在する。羨道側の左右に柵状施設を伴い、右側の施設は上下 2 段に平坦面が認められる。上段は奥行 0.82m、幅 0.70m、下段は奥行 1.66m、幅 0.82m、前庭部基底面からの高さは 0.30 ～ 0.59m を測る。左側の柵状施設は、奥行 2.48 m、幅 0.92 ～ 1.06m、前庭部基底面からの高さは 0.28 ～ 0.50m を測る。

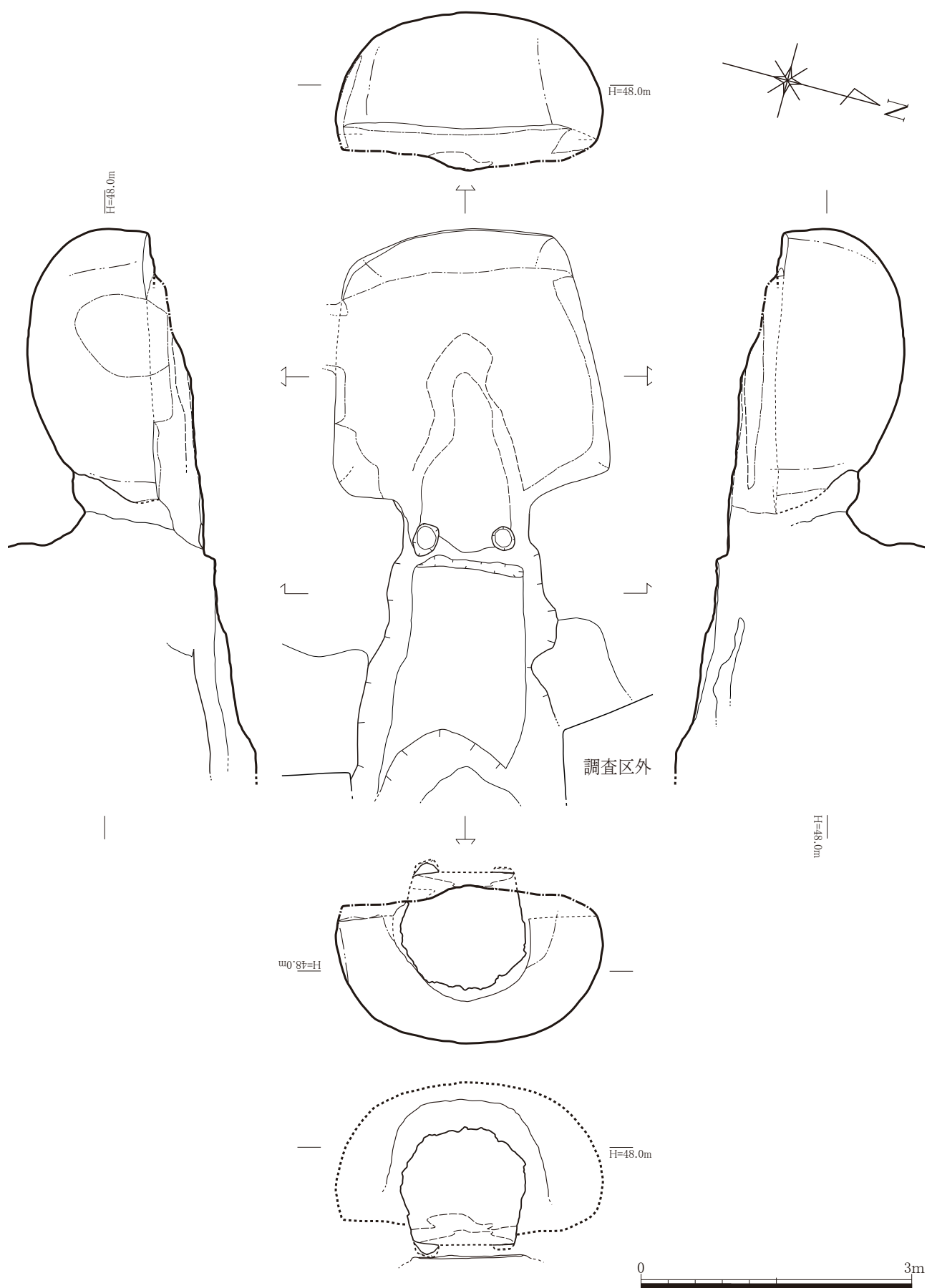
飾縁は、横断面は半楕円形である。規模は、幅約 1.6 ～ 2.0m、前庭部側の高さは、2.45 m を測る。羨道の奥行は 2.75m である。羨門は、幅 0.94 m、高さは 1.65 m である。羨道の平面は、羨門から前庭部にかけて両壁面が途中で外側に開き、飾縁を形成する。

羨門～玄門通路の奥行きは、1.20 m、高さは、1.59m を測る。羨門～玄門通路の横断面は、縦長の半円形である。閉塞石の掘方と推定される部分において奥行 0.44 m、幅 1.19 m、深さ 0.04 m の落ち込みが認められた。

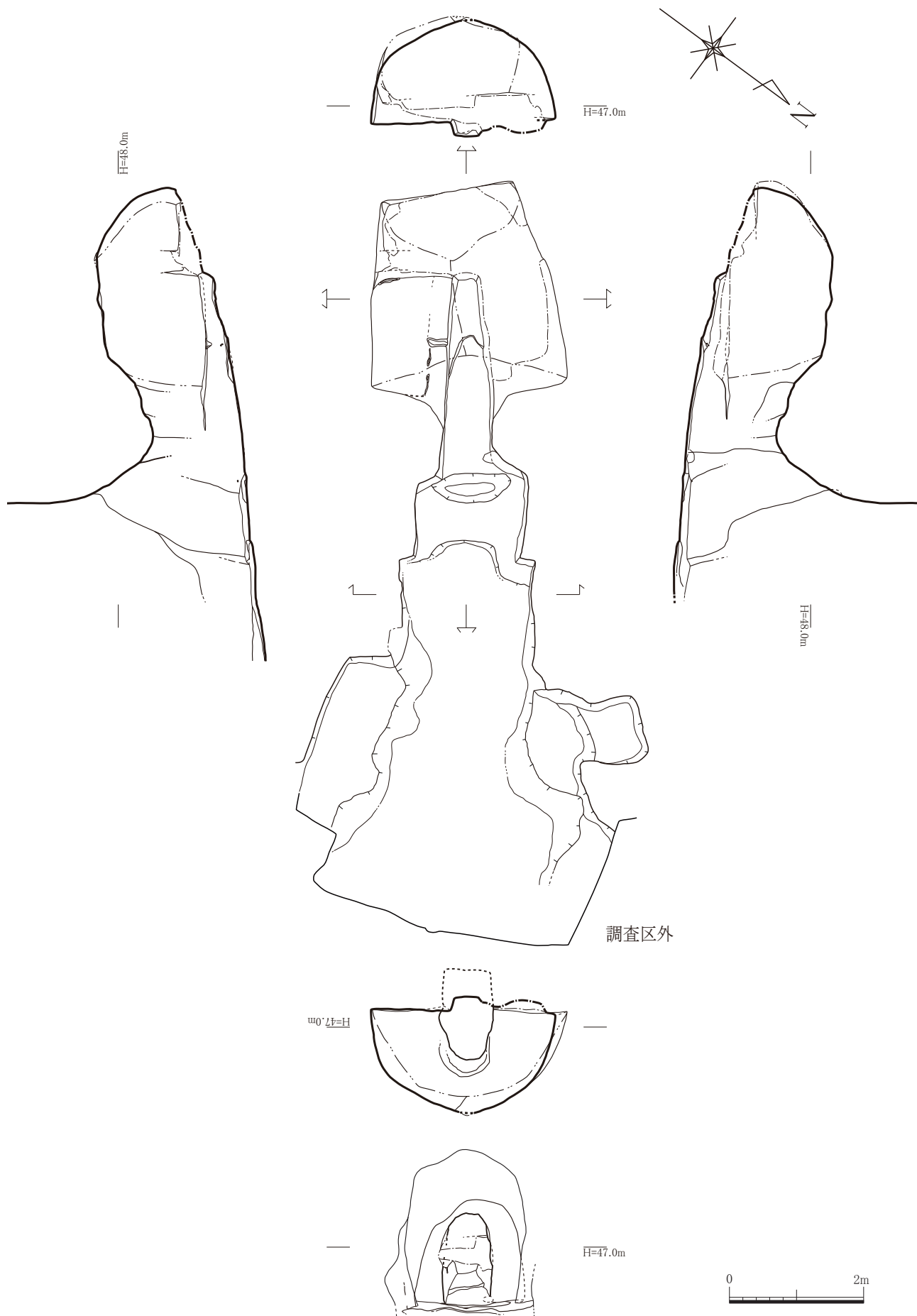
玄室の平面形は、台形状を呈し、規模は奥行 3.1m、玄門側の幅 2.90m、奥壁側の幅 1.95 m を測る。主軸方向は、N53° E で北東に開口する。天井の形態は切妻の屋根型に近く、棟線は、玄室主軸よりややずれる。天井高は 1.70 ～ 1.85m を測る。天井部の棟線及び隅線は比較的明瞭で、天井奥壁の縦断面は内傾しており、天井横断面はアーチ



第4図 1号墓 (S = 1/60)



第5図 2号墓 (S = 1/60)



第6図 3号墓 (S = 1/80)

形を呈する。

屍床部は残存状況が悪く、奥屍床の左側壁端に僅かに残存する仕切りと通路部左屍床の排水溝 1 条のみが残存しており、推定される左屍床の規模は、奥行 1.89m、幅 0.80m である。通路部は上下 2 段になっており、緩やかに傾斜し、通路基底面から残存する仕切り上端面までの高さは、0.22 ～ 0.46m を測る。

出土状況（第 7 図）

前庭部右側柵状施設の上段平坦面からは、須恵器 5 点がまとまって出土した。器種は、坏蓋（No. 150）、俵壺形の器形の土師器（No. 152）、坏身（No. 153）、台付小型壺（No. 151・154）である。これらは、基底面から僅かに浮いた状態で出土した。完形の坏身は、内面が上を向いた正置の状態であり、その坏身直上から俵壺形の器形の土師器が横に倒れた横位の状態で出土した。半分が残存する坏蓋は、内面を下に伏せた正置の状態であった。また、完形の台付小型壺は、右に傾いた状態で出土した。

左側柵状施設からは、坏蓋（No. 30・31・76）が 3 点、壺の口縁（No. 29）が 1 点の計 4 点が出土した。これらは、基底面から約 20cm 浮いた状態で出土し、坏蓋 3 点は内面が上を向いた逆位であった。左右柵状施設の出土状況は、原位置を留めているものと考えられるが、祭祀行為のどの段階を示しているかは、判断が困難である。

前庭部基底面から約 5 ～ 30cm 上の位置に多くの遺物が散在する状況が認められるなか、中央部出土の坏身（No. 34・91・92）、高坏（No. 89）からなる一群を想定した。その他にもまとまりを抽出する作業を試みたが、推測は困難であった。遺物の器形は、坏の蓋と身が多く、蓋と身の割合はほぼ同じである。坏身（No. 112・100）、坏蓋（No. 115・111）の出土状況は、逆位であるのに対し、坏身（No. 35・68・82・91・92・116・144）、坏蓋（No. 85・93）は、正置である。逆位の遺物が出土した範囲は、手前側の幅広い右壁面に存在する空間に収まる傾向がみられた。この空間には、甕（No. 130）、壺（No. 127）、甕の破片とみられる No. 40、94 など大形の共用器が出土した。さらに甕（No. 130）が割れた状態で出土しており、破碎行為の可能性がある。高坏（No. 89・136）、甕（No. 123）、平瓶（No. 39）の出土状況は、横位であった。

羨道下段の左壁面隅において坏身（No. 54）、提瓶（No. 55・57）、甕（No. 56）が出土し、その状況は、再配置の可能性を示す。甕は、逆位での出土であって、前庭部の甕（No. 123）と共通する。

鉄製品の出土状況は、玄室の通路から前庭部にかけて散在する。馬具である鐙のセット関係と考えられる 3 セットの 6 点（羨門～玄門通路 No. 22 と前庭部 No. 142、羨門～玄門通路 No. 21 と前庭部 No. 97、羨道部 No. 52 と前庭部 No. 120）は、離れた位置から出土しており、散在する状況を示している。また、羨門に位置する閉塞石の掘方から鉄製品（No. 24 ～ 26）が出土した。古代から中世の遺物として土師器の皿、坏、高台付坏（No. 8・9）が出土しており、追善供養が行われていたことが考えられる。

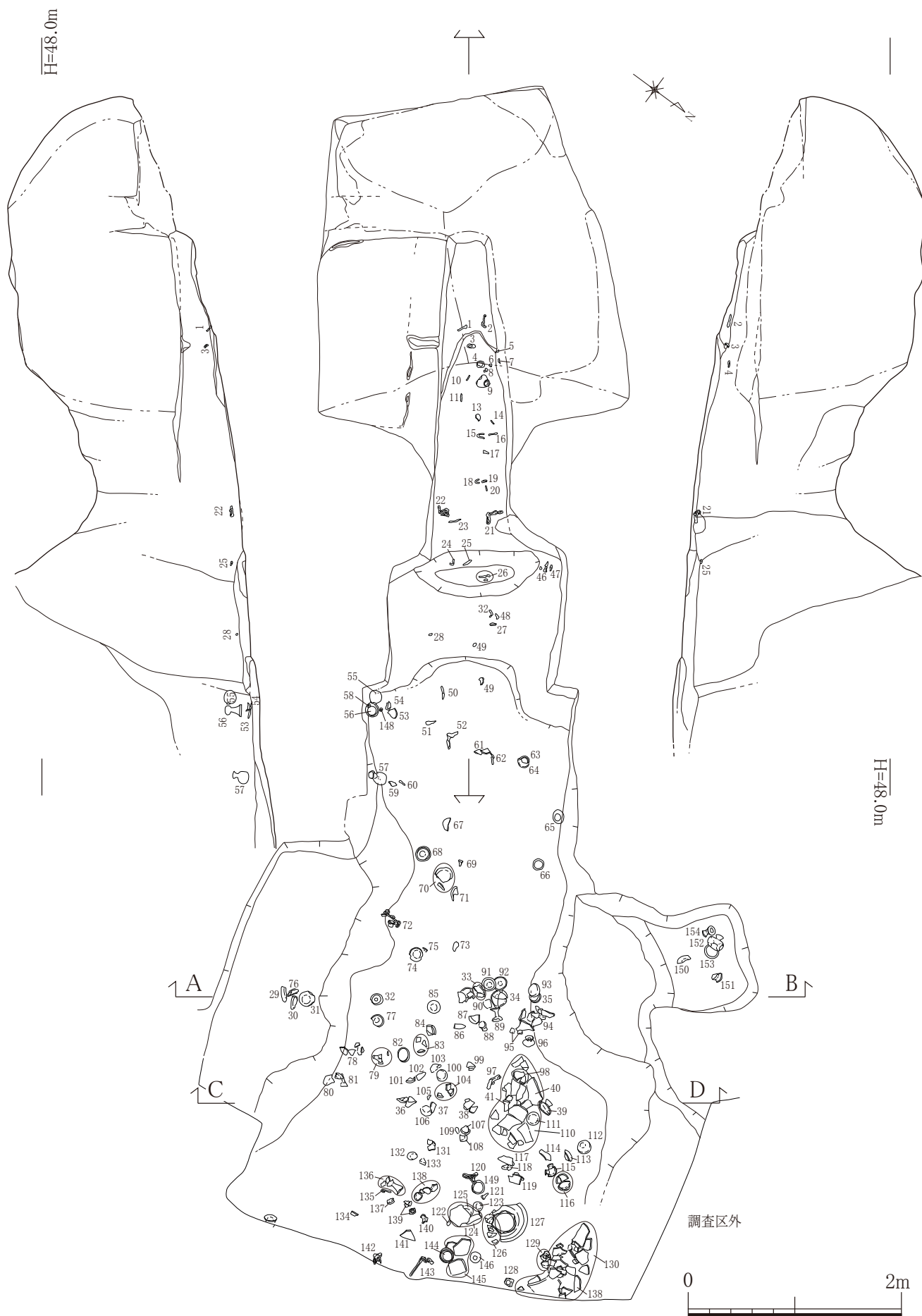
接合関係について離れた位置関係にあるのは、甕（No. 123・79）、坏身（No. 61・71）、甕の口縁～頸部（No. 36・通路）、坏蓋（3 号墓一括・6 号墓一括）、坏身（3 号墓一括・4 号墓一括）が挙げられる。次に近距離の位置関係は、坏身（No. 83・101）、坏身（No. 104・108）、坏蓋（No. 85・130）、坏蓋（No. 131・132）、坏身（No. 137・139）、坏蓋（No. 86・87）、提瓶（No. 88・95）などであった。

4 号墓

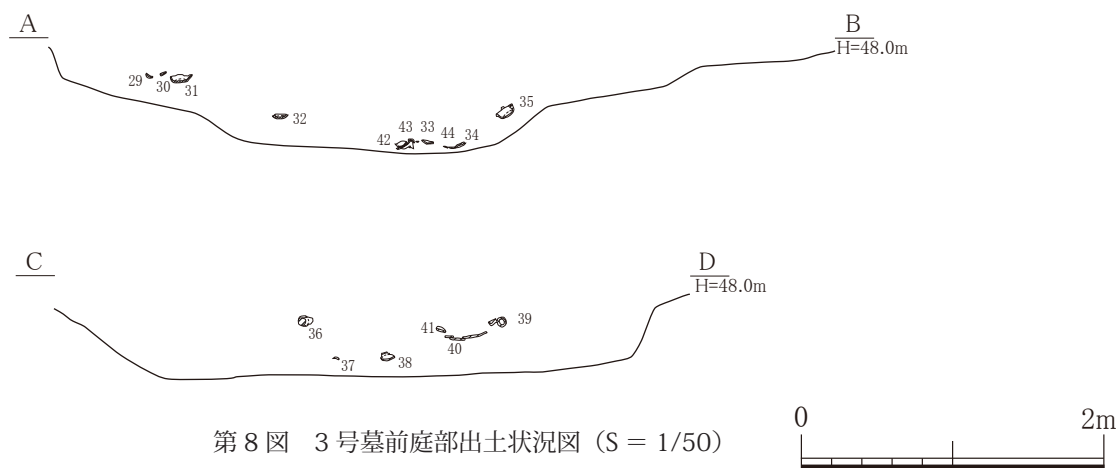
規模・構造（第 9 図）

前庭部の規模は、奥行約 1.6 m、幅 1.25 m を測る。羨門～玄門通路は、奥行約 0.6m、幅 0.70m を測る。羨門は、幅 0.80m、高さは、天井の崩落により不明である。羨門の横断面は縦長の円形である。閉塞石の掘方は検出されなかった。玄門は、幅 0.70 m、高さ 1.45m である。基底面は、玄門付近を境に傾斜が急になり下がる。

玄室の主軸方向は、N66° E で北東に開口する。平面は長方形を呈し、規模は奥行 2.22m、幅 1.82m を測り、本横穴群において小規模である。天井部の崩落により隅線及び棟線は不明瞭であるが、四隅に残る棟線から切り妻の屋根型に近い形状であったと推測される。天井横断面はアーチ形を呈し、天井高は 1.46m を測る。天井奥壁の縦断面は、やや内傾し短く立ち上がり、天井部へ緩やかに続く。左右の壁面も直立に近い角度で立ち上がり、一部が崩落する。通路部は幅約 0.3 ～ 0.7 m と狭く、奥行 1.28m を測り、奥屍床の方向へ窄まる。通路基底面から奥屍床仕切り上端



第7図 3号墓出土状況図 (S = 1/50)



第 8 図 3 号墓前庭部出土状況図 (S = 1/50)

部までの高さは、0.45 m である。

屍床部仕切りは、残存状況が比較的良好で、左右屍床、奥屍床に排水溝が設けられる。屍床面の高さは、奥屍床が最も高く、次いで、右屍床、左屍床の順となる。奥屍床の仕切り上端面は、両端が緩やかに上がる。右屍床奥行 1.44m、幅 0.50m、左屍床奥行 1.36 m、幅 0.66 m、奥屍床奥行 1.78m、幅 0.62 m を測る。

5 号墓

規模・構造 (第 10 図)

前庭部は僅かに台形状を呈し、奥行 3.84m、最大幅 3.48m である。前庭部から羨道にかけて排水溝が設けられ、その規模は、奥行 3.25m、最大幅 0.74m、深さ 0.02 ~ 0.07 m を測る。排水溝北東端の位置で前庭部の基底面は、段が設けられる。この下段右上に柵状施設が認められ、奥行 0.52 m、幅 0.90 m、基底面からの高さは 0.18 m を測る。

飾縁は、比較的良好な残存状況で、横断面は、縦長の半円形で、幅 1.20 ~ 1.70 m、高さ 2.40m、である。羨道は、奥行き 1.86 m を測り、基底面は、ほぼ平坦である。羨門～玄門通路は、奥行 0.70m、幅は、羨門側 0.71m、玄門側 0.60m、高さは、羨門側 1.74m、玄門側 1.30m を測る。羨門～玄門通路の横断面は縦長の半円形である。

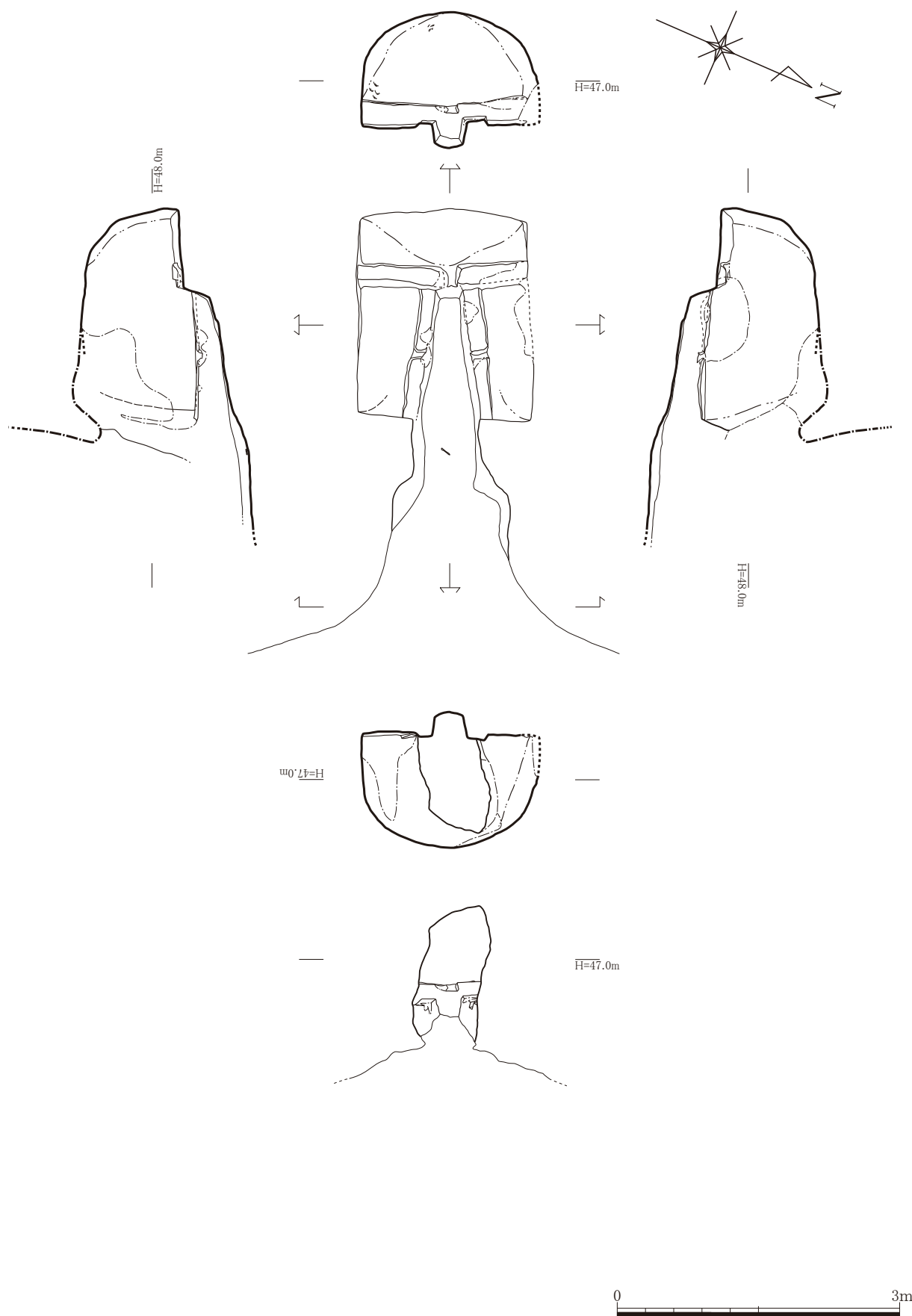
閉塞石の掘方と推定される部分に奥行 0.25m、幅 0.89m、深さ 0.16 m の落ち込みが認められた。また、閉塞石の掘方に連続して付随する玄門側の排水溝は、奥行 0.46 m、幅 0.20 m、深さ 0.08 m を測る。玄門は、最大幅 0.64m、高さ 1.29m を測る。

玄室の主軸方向は、N50° E で北東に開口する。平面は台形状を呈し、規模は奥行き 2.95m、幅 2.64m を測る。天井の形態は家形に近いが、左側天井部と右側天井奥壁に一部、崩落が認められる。棟線は、玄室主軸から左へ僅かにずれており、天井高は 1.66m を測る。天井部の棟線及び隅線は明瞭で、天井奥壁の縦断面は、緩やかに内傾しており、天井横断面はアーチ形を呈し、左右壁面は垂直に近い角度で立ち上がる。奥屍床天井部壁面及び奥屍床仕切り中央付近に一部、赤色顔料が残存していた。通路部は幅 0.35 ~ 0.53 m と狭く、通路基底面から残存する奥屍床左側仕切り上端面までの高さは、0.62m である。床面の傾斜は、玄門付近を境にして傾斜がややきつくなる。屍床部は、比較的良好な残存状況だが、奥屍床右側及び左右屍床の仕切りの一部は、残存状況が不良である。奥屍床仕切り上端面の両端は緩やかに上がる。屍床面の高さは、奥屍床が最も高く、次いで、左屍床、右屍床という順になっており、奥屍床奥行 2.04 m、幅 0.90 m、左屍床奥行 1.79m、幅 0.90m、右屍床奥行 1.79m、幅 0.82 m を測る。

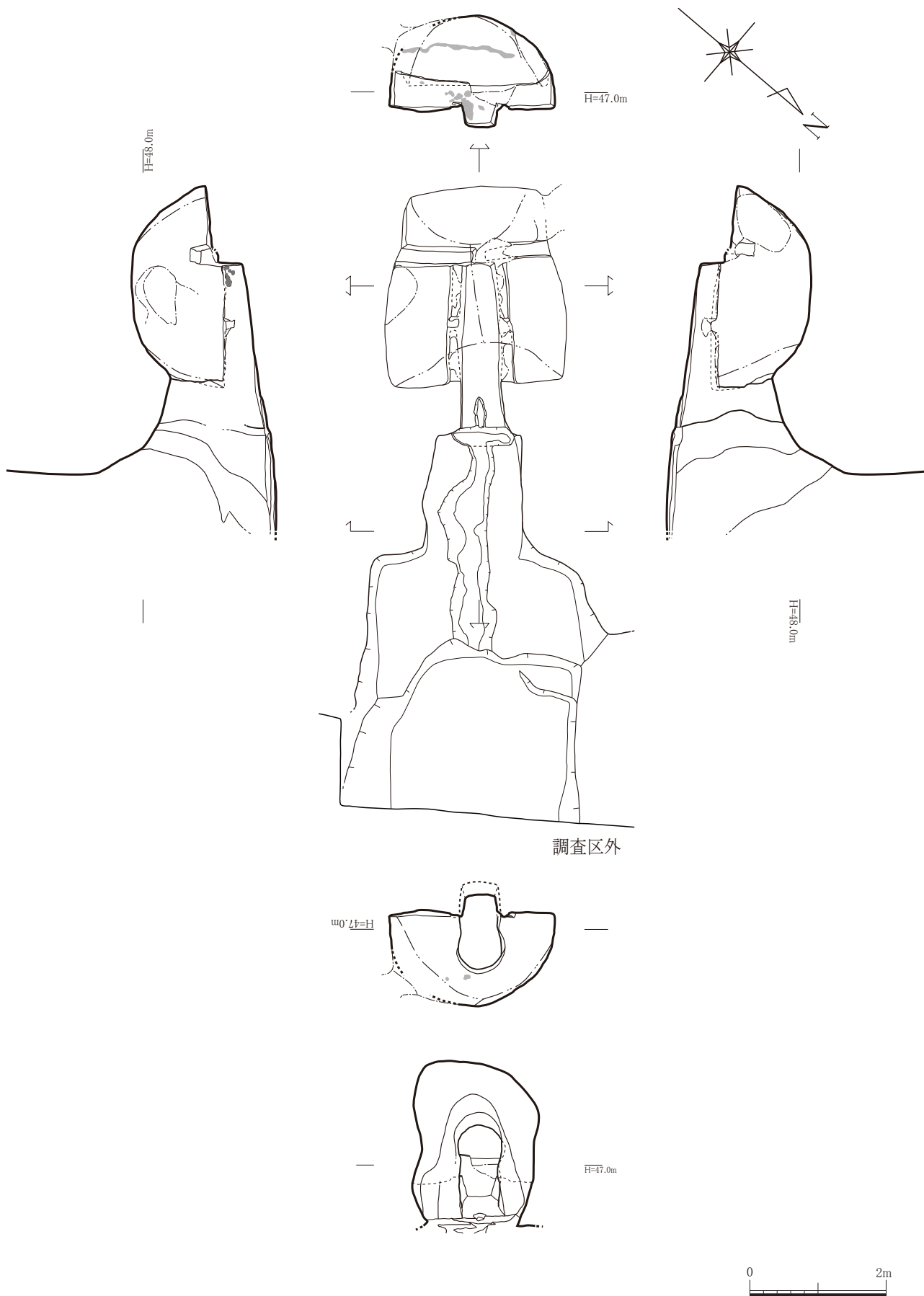
出土状況 (第 11 図)

前庭部から多量の遺物が出土した。遺物は、土器 88 点、鉄製品 6 点、耳環 3 点が出土している。遺物は、前庭部左壁面側に集中する。遺物の器形は、坏身と坏蓋が最も多い。

前庭部左壁面南西側において坏身 (No. 26) を中心とした一群と坏身 (No. 32) を中心とした一群が認められた。前



第9図 4号墓 (S = 1/60)



第 10 図 5 号墓 (S = 1/80)

者は、坏身 14 点、坏蓋 7 点、壺 2 点、甕 1 点、高坏 3 点があるのに対して後者は、坏身 6 点、坏蓋 4 点、壺 1 点、高坏 2 点である。この二群は、前庭部の上段に位置する。前者の一群は、断面（A－B）において出土レベルが、左壁面より中央にかけてやや下方向に傾斜する。甕（No. 59）の直上より出土した坏身（土師器 No. 58）は正置さらに、坏身（No. 57）、坏蓋（No. 48・92）も正置であった。これらに対して、坏身（No. 26・27）は、逆位であった。後者の一群は、下段の壁面にかけて広がるが、断面（C－D）において遺物の出土レベルは、揃うことから下段が埋没した後によりまとめて置かれたことが分かる。また、坏身（No. 29・30・32・94・95）、坏蓋（No. 31・33）は、重なった状態で出土しており、再配置の可能性が考えられる。これらの坏は、坏身が正置であるのに対し、坏蓋 1 点のみは、逆位の状態であった。

前庭部左壁面北東側の断面（E－F）は、下段にあたり埋没後に置かれた状況が認められ、坏身（No. 44）と坏蓋（No. 43・45）が逆位であった。前庭部下段左壁面の下端からは、甕（No. 73）1 点と高坏（No. 74）3 点がまとまって出土した。前庭部の右側棚状施設付近からは、甕（No. 96～98）3 点が横位の状態で出土した。

玄室の右屍床からは耳環 1 点、鉄製品 19 点の計 20 点と唯一、須恵器の甕口縁部破片（一括）1 点が出土した。鉄製品は、長頸鏃が主で、轡の引手 2 点、素環状鏡板 1 点、刀子 1 点であった。

6 号墓

規模・構造（第 12 図）

前庭部は、北東側の調査区外に延び、長方形を呈し外側にわずかに開く形状である。その規模は、奥行 2.90m、最大幅 4.38m である。北東側左壁面に僅かな屈曲が認められる箇所の上には棚状施設が存在する。

飾縁は、頂部に崩落がみられるものの、比較的良好で原形を留めていた。規模は、奥行 1.83 m、幅 1.80 m、高さ 1.30 m である。横断面は、半円形である。羨道は、奥行 1.28 m、幅は前庭部側 1.68 m、羨門側 1.72 m を測る。

羨道部と前庭部の基底面は、ほぼ平坦である。羨門は、幅 0.82 m、高さ 0.80 m を測る。羨門～玄門通路は、奥行 0.50m、幅は、羨門側 0.84m、玄門側 0.85m、高さは、羨門側 0.81m、玄門側 0.90m を測る。羨門～玄門通路の横断面は縦長の半円形である。閉塞石は、前庭部側へ斜めに倒れた状態であった。閉塞石は、幅 1.36 m、高さ 0.86 m、厚さ 0.18 m で幅の広い安山岩製の板石である。閉塞石の位置する玄門付近の基底面に 0.08 m の段差があり、閉塞石の設置を目的とした段差の可能性が考えられる。

玄室の主軸方向は、N52° E で北東に開口する。平面は、奥屍床側が狭く、やや左寄りの特徴を有し、縦位に長い台形状を呈する。規模は、奥行 3.12m、幅は玄門側 2.75 m、奥壁側 2.10m を測る。天井部の崩落により隅線及び棟線は不明瞭であるが、四隅に残る棟線から切り妻の屋根型ではないかと推測される。天井横断面はアーチ形を呈し、天井高は 1.56m を測る。天井奥壁の縦断面は、直立に近い角度で短く立ち上がり、天井部へ緩やかに続く。左右の壁面も直立に近い角度で立ち上がる。天井部や壁面は、ノミの痕跡が残らない程、丁寧に仕上げているのに対し、屍床仕切りや、屍床面、通路には、ノミの痕跡が残存する。通路は、玄門側で 0.55 m、奥屍床側 0.28 m と狭く、奥屍床へ向かい窄まる。通路基底面から残存する奥屍床左上端面までの高さは、0.90m を測る。屍床部は、残存状況が悪いなか、奥屍床の仕切りが比較的良好に残存し、仕切り上端面の両端が緩やかに上がる。左右屍床の仕切りは、一部が残存するのみである。残存する部分から屍床部の規模が推定でき、右屍床奥行 1.82m、幅 0.86m、左屍床奥行 1.95 m、幅 0.79 m、奥屍床奥行 2.10m、幅 1.00 m である。屍床面は、奥屍床が最も高くなっており、次いで、右屍床、左屍床の順となる。

出土状況（第 13 図）

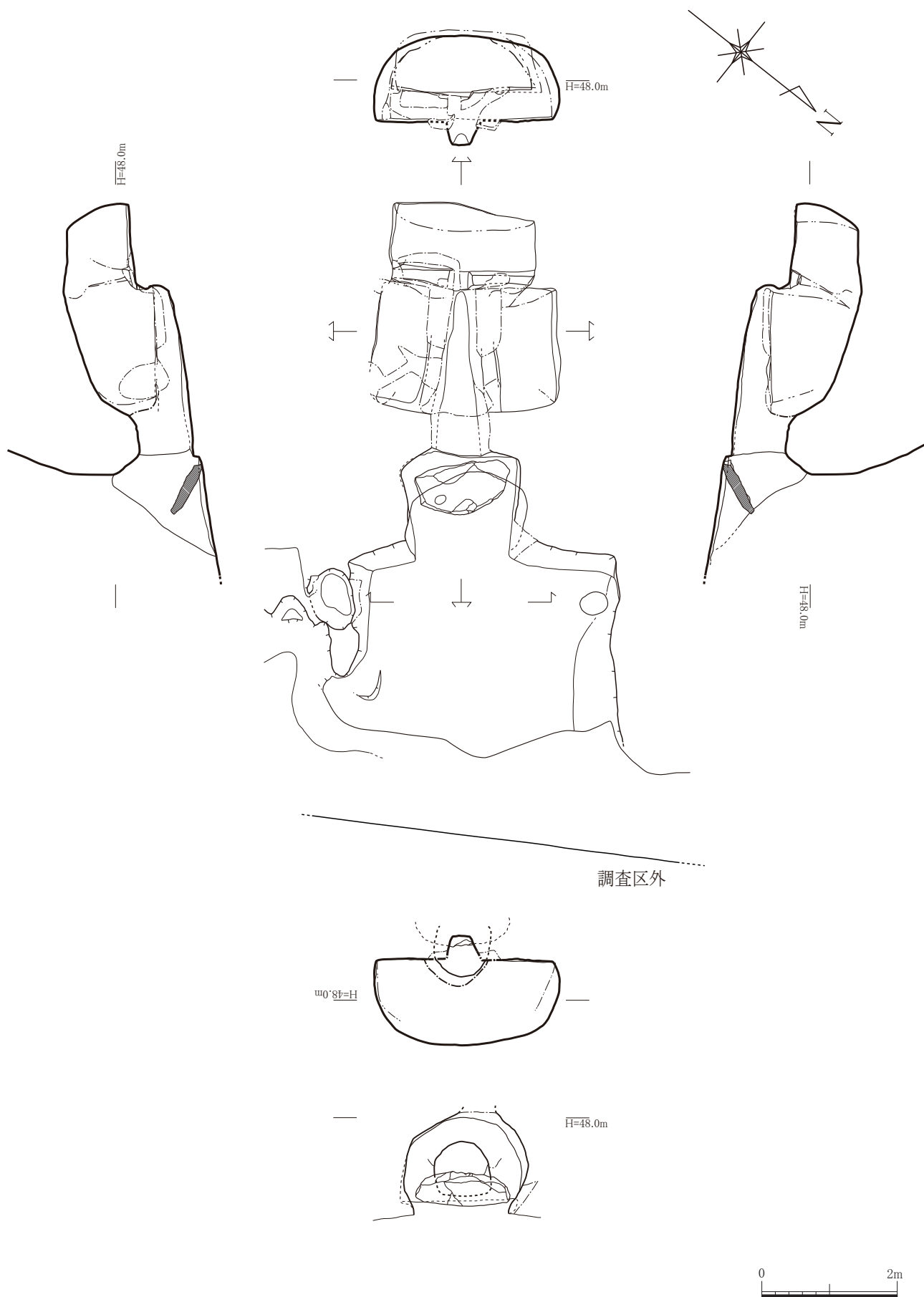
前庭部からは、土器 27 点、鉄製品 2 点が出土した。遺物は、主に前庭部右側壁面と左壁面側に集中する。遺物の器形は、高坏が 9 点と最も多い。

前庭部右壁面西側において甕（No. 10・49）を中心とした一群、左側壁面東側付近には、甕（No. 11）を中心とした一群、さらに左側壁面東側の一群が認められた。

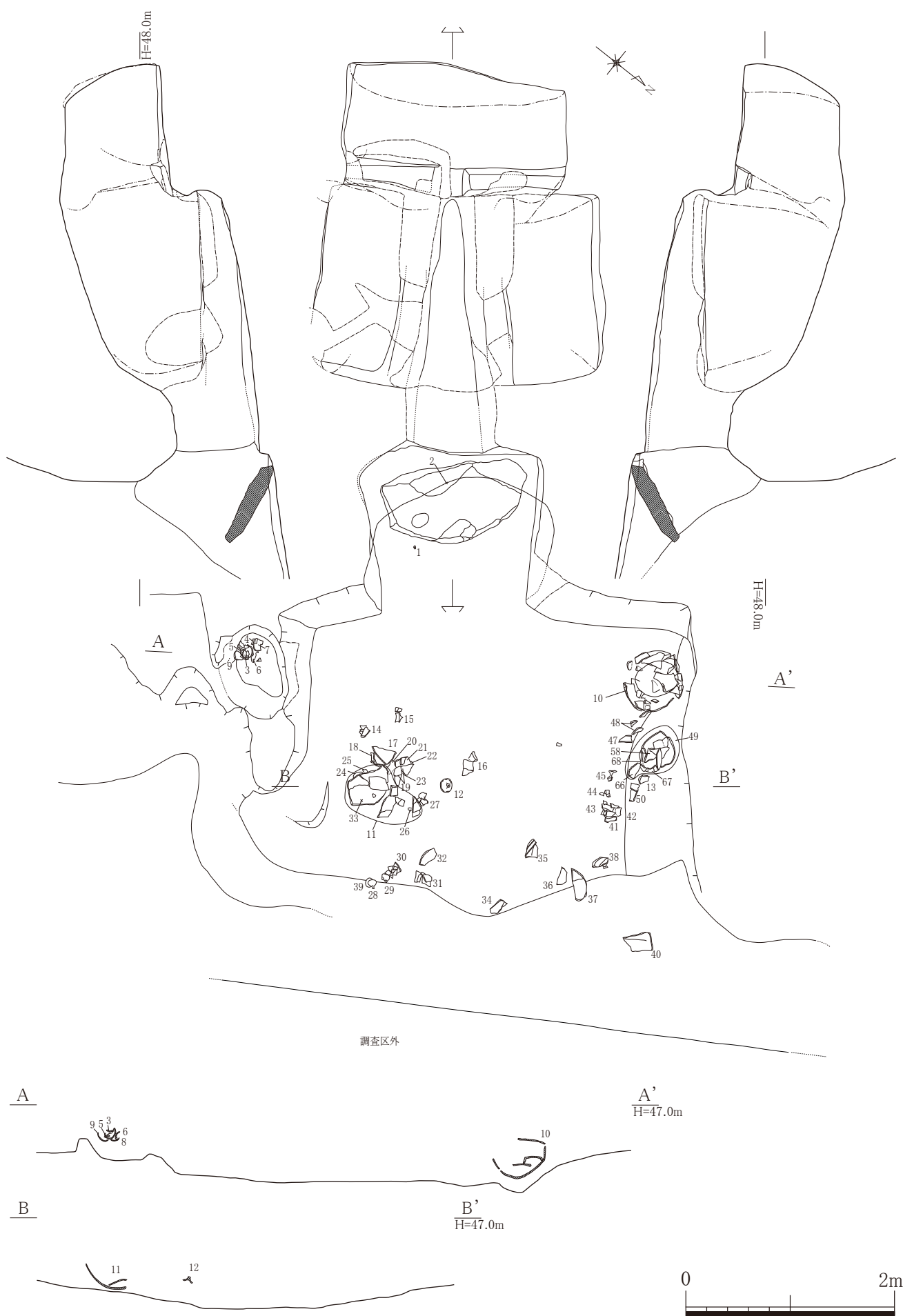
甕（No. 10・49）2 点を中心とした一群は、甕 2 点、高坏 2 点、壺 1 点という構成である。甕（No. 10）は、掘り込みから破片の状態ですべて出土した。甕（No. 10・49）2 点は並ぶ位置で底部が据わった状態であった。甕（No.



第 11 図 5 号墓出土状況図 (S = 1/50)



第 12 図 6 号墓 (S = 1/80)



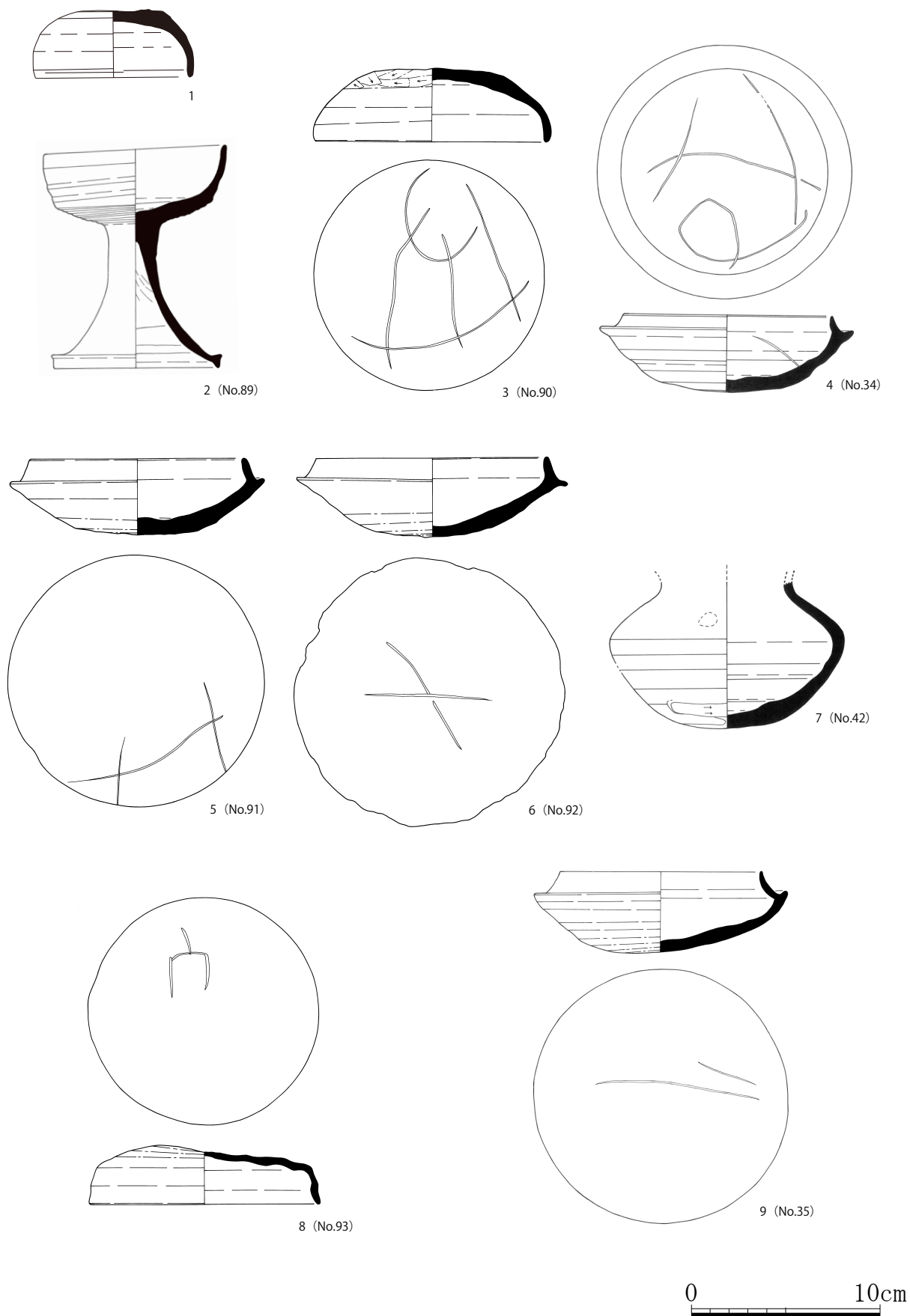
第 13 図 6 号墓出土状況図 (S = 1/50)

49) は、掘り込みを伴う甕 (No. 10) の基底と同じレベルで出土している点や写真の確認により窪みがあることから、埋納された可能性が高いことを指摘できる。壺 (No. 41 ~ 43) は、破片の状態でまとまって出土していることから意図的な破碎の可能性があると思われる。高坏は、脚部のみが横位の状態で出土した。

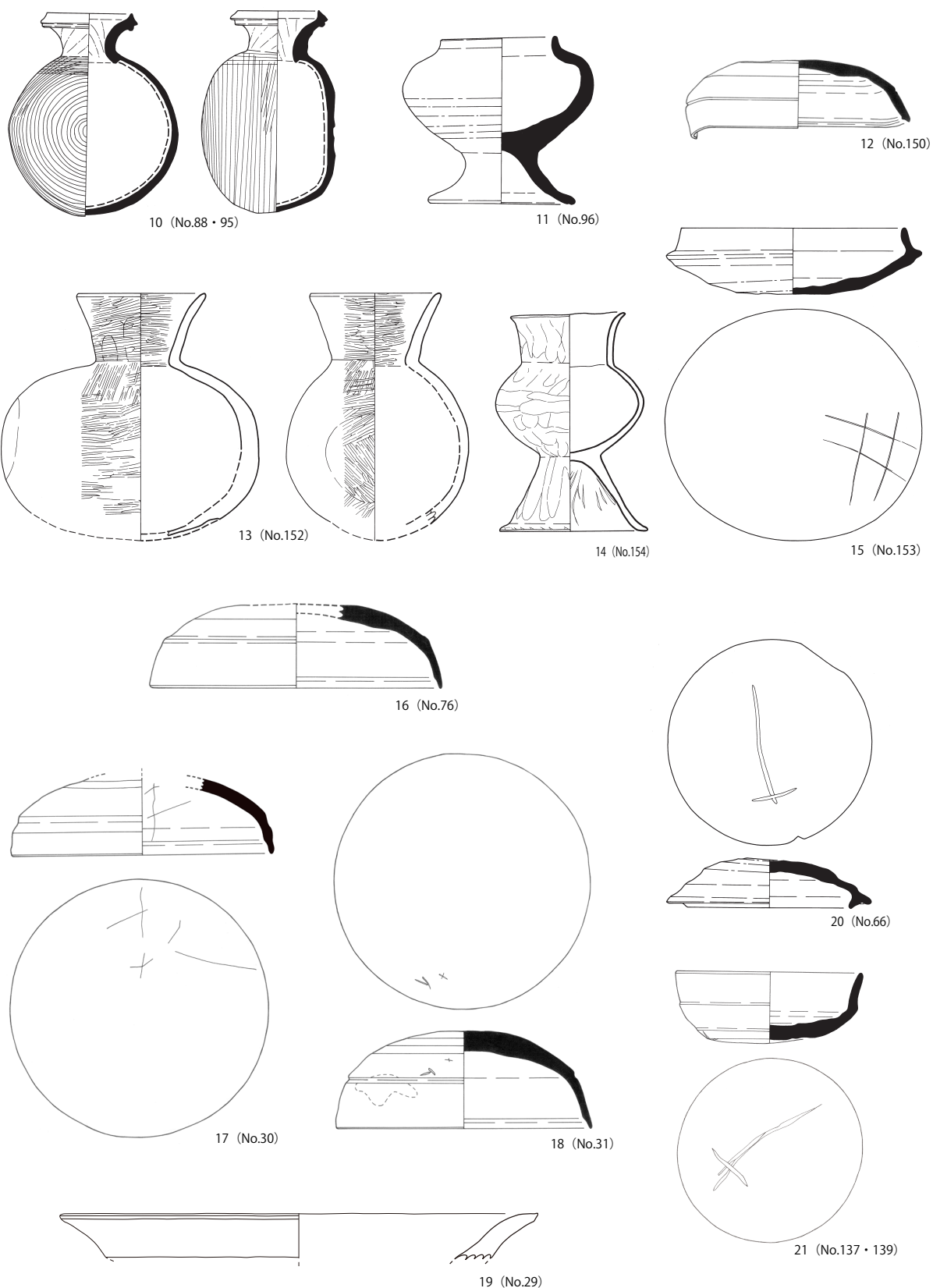
甕 (No. 11) を中心とした一群は、須恵器の坏蓋 1 点、坏身 1 点、甕 1 点、土師器の壺 1 点、高坏 3 点、甕 1 点という構成である。左側壁面東側付近から出土し、遺物の出土レベルは基底から 2 ~ 20cm 浮いた位置である。壺や甕が割れた破片の状態で、まとまって出土していることや、比較的分散して出土している点から、壺 (No. 41) と同様、破碎の可能性が考えられないだろうか。また、高坏は坏部のみが伏せられた逆位の状態で、頸部がない甕は横位で出土している。

前庭部左棚状施設における掘り込みの中から坏蓋 1 点、坏身 1 点、高坏 1 点が出土し、出土レベルは、基底面から 28cm 上位にある。この一群も埋納と判断される。

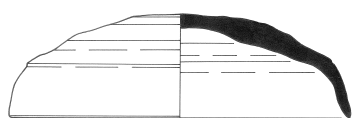
羨道部閉塞石近くからは、耳環 1 点、閉塞石の下からは、耳環 2 点、緑色のガラス製丸玉 1 点が出土している。通路からは、耳環 1 点、濃緑色のガラス製丸玉 1 点、ガラス製丸玉 3 点、土製小玉 36 点、奥歯 1 本、鉄片 1 点が出土している。これらは追葬時に掻き出されたものであると考えられる。右屍床からは、緑色のガラス製丸玉 1 点、土製小玉 2 点、左屍床からは、耳環 3 点、ガラス製丸玉 1 点、土製小玉 6 点、奥屍床からは、緑色のガラス製丸玉 1 点の出土が確認された。



第 14 図 1・3 号墓前庭部出土遺物



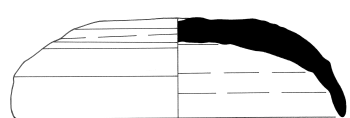
第 15 図 3 号墓前庭部出土遺物



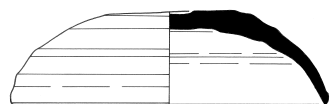
22 (No.70)



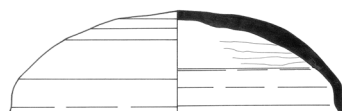
23 (No.71)



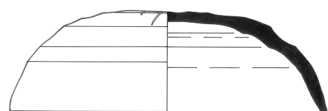
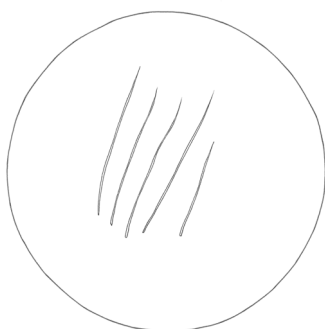
24 (No.81)



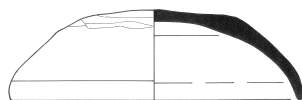
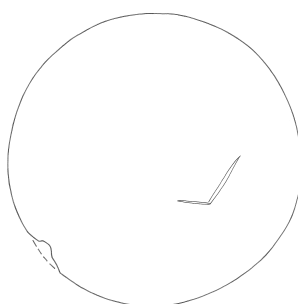
25 (No.86・87)



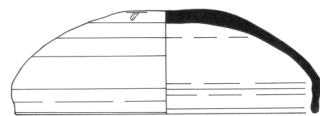
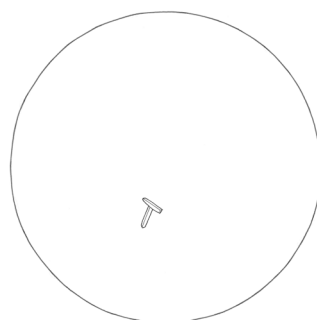
26



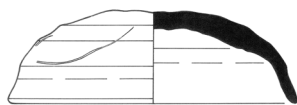
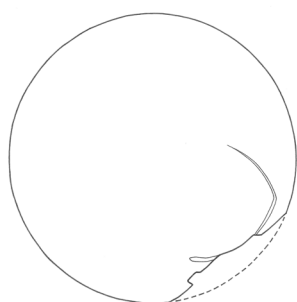
27 (No.44)



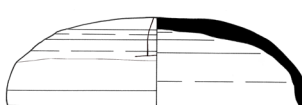
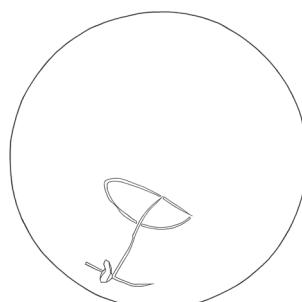
28 (No.74)



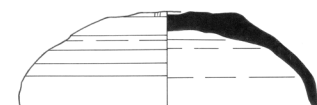
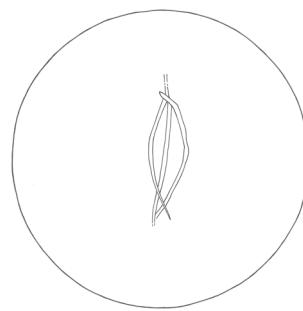
29 (No.115)



30



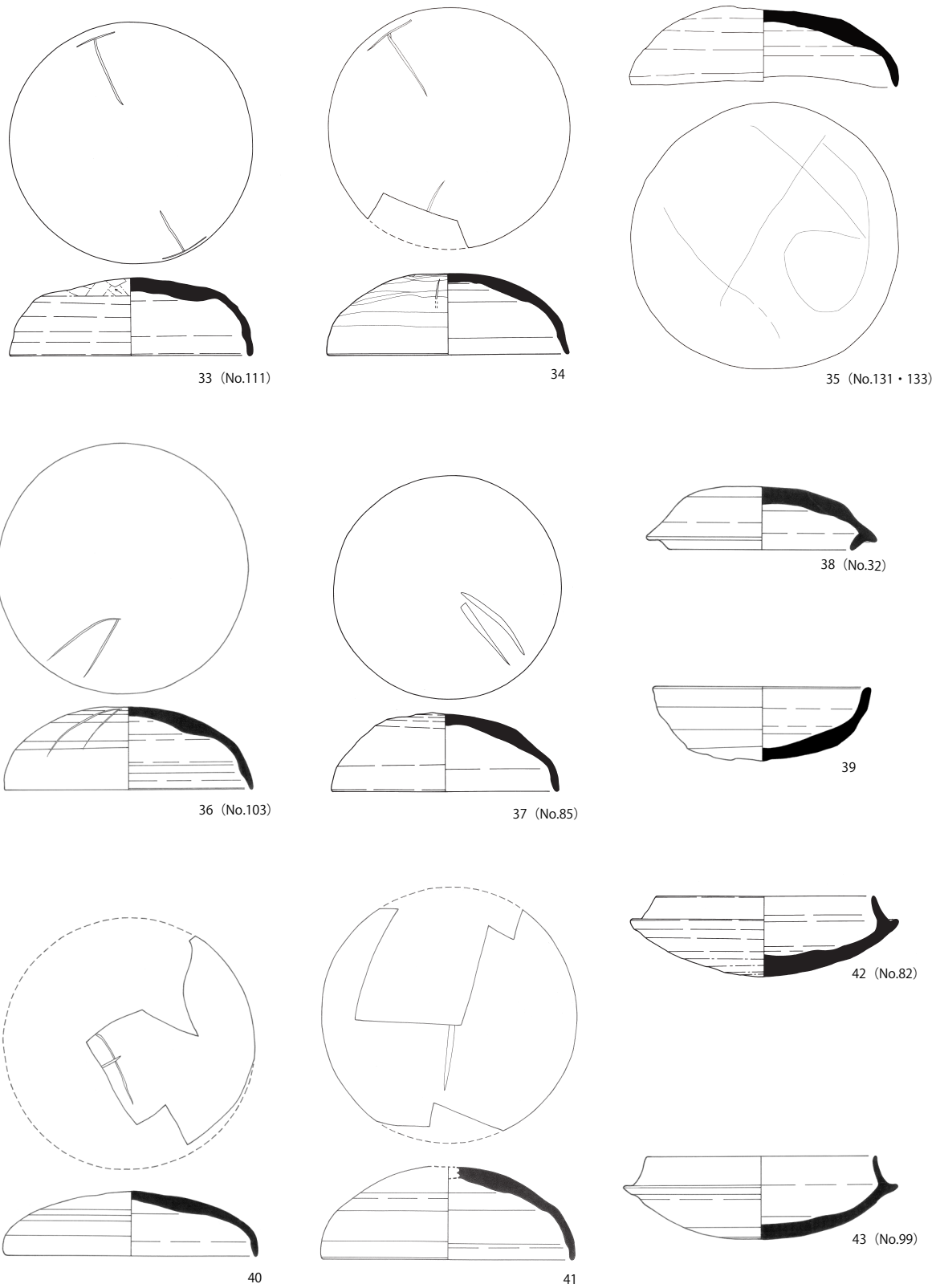
31



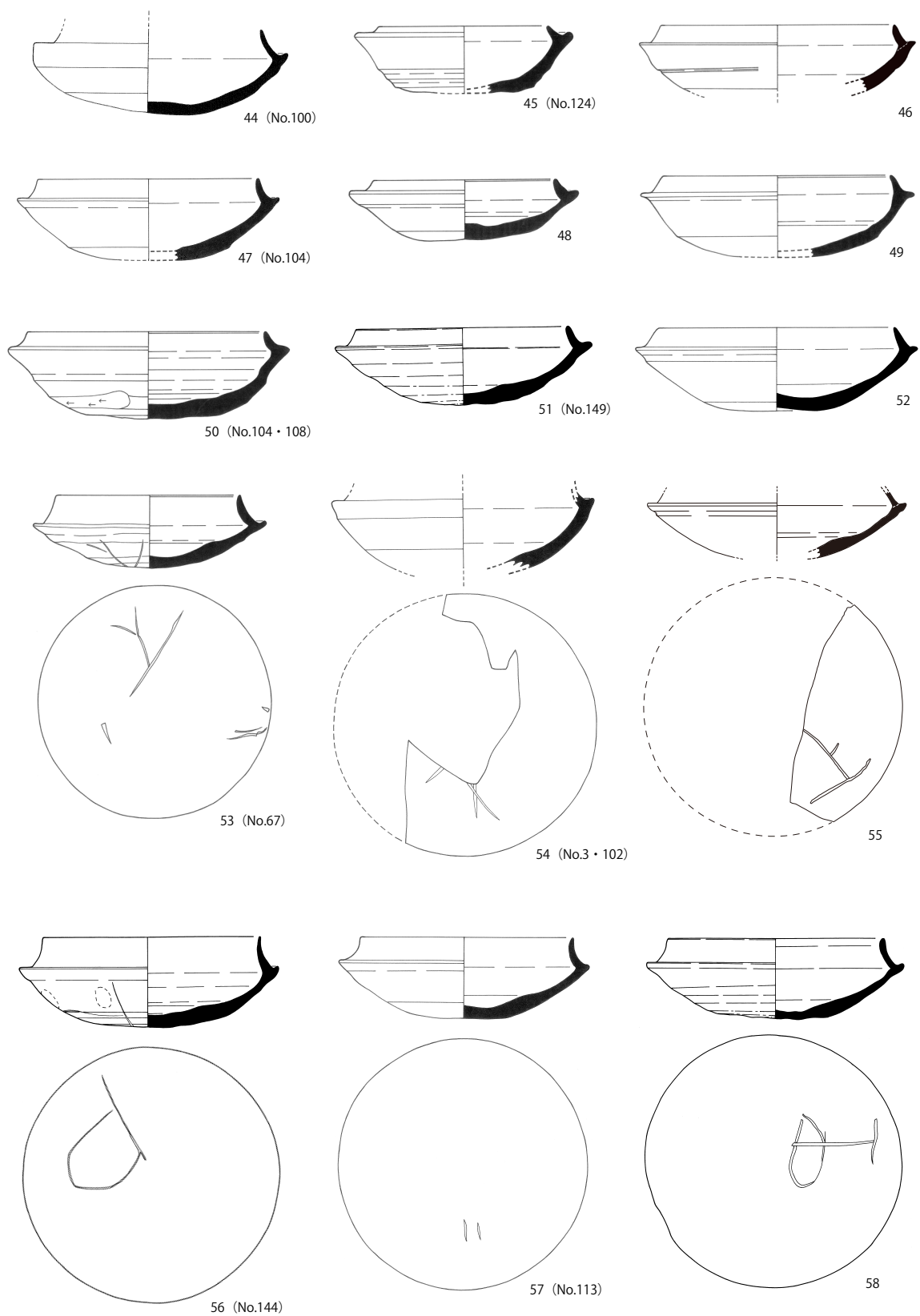
32 (No.126)



第 16 図 3 号墓前庭部出土遺物

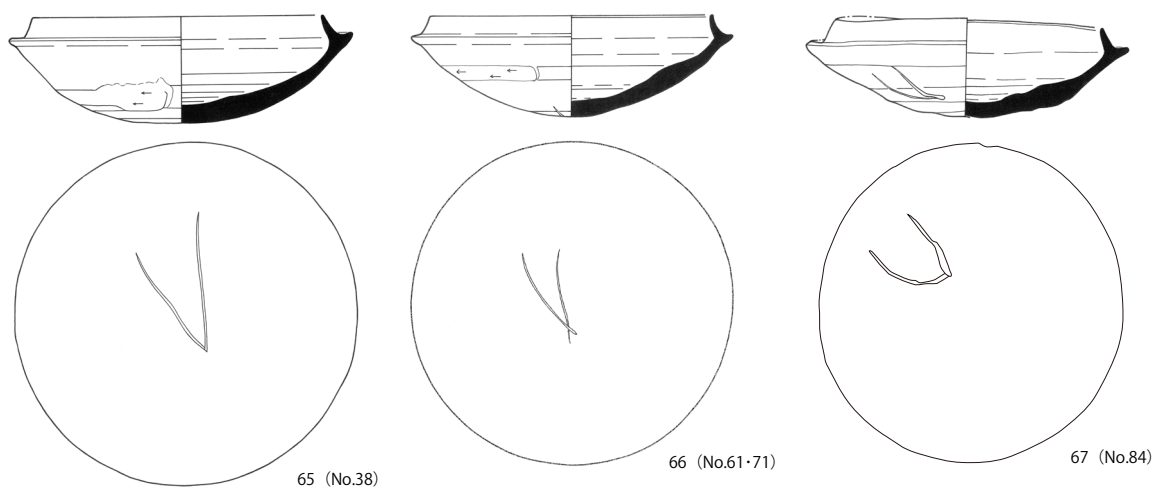
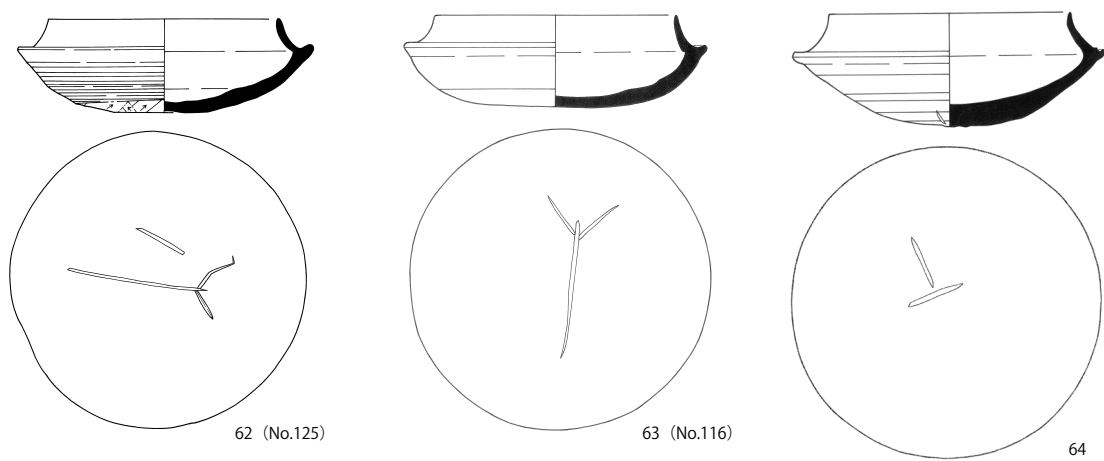
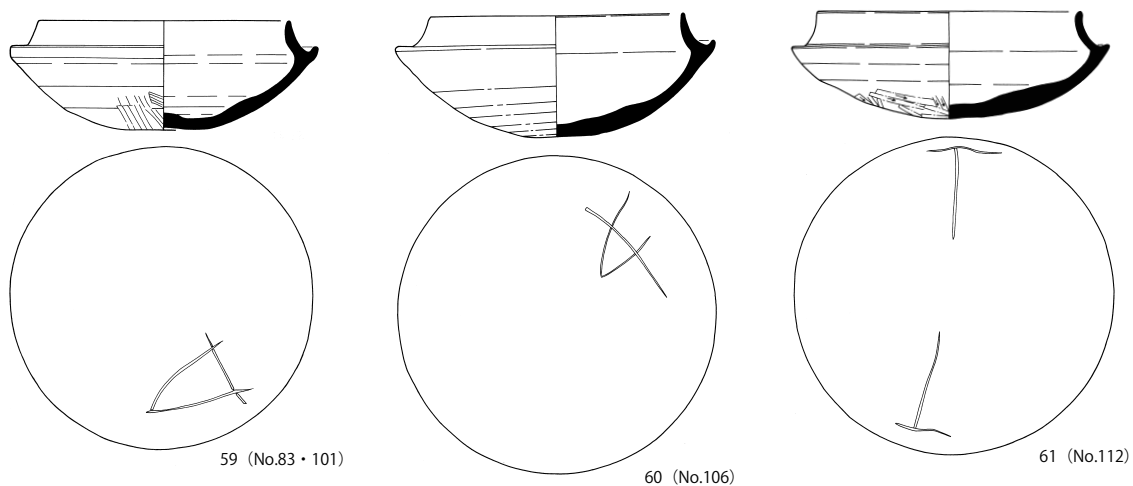


第 17 図 3 号墓前庭部出土遺物



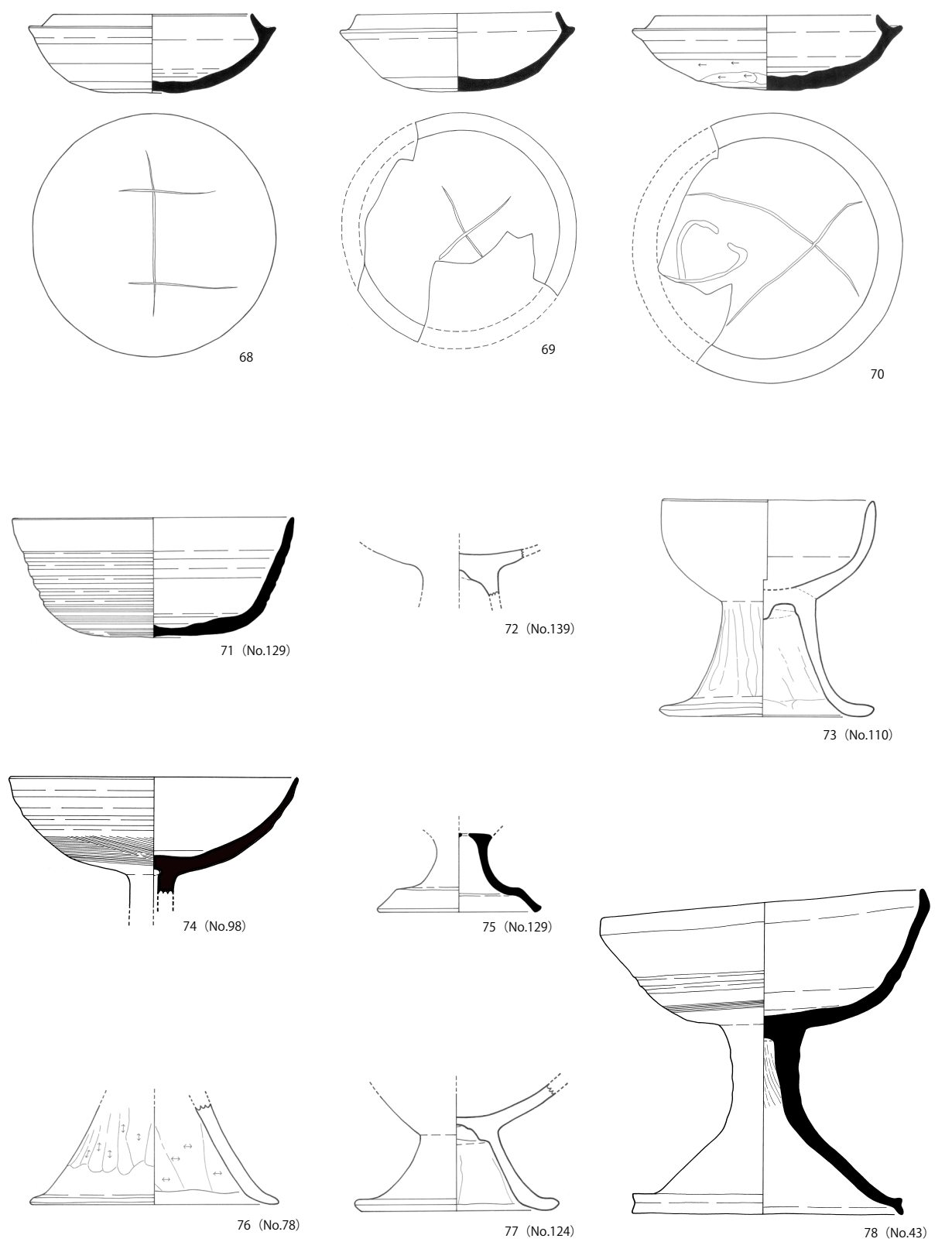
0 10cm

第 18 図 3 号墓前庭部出土遺物

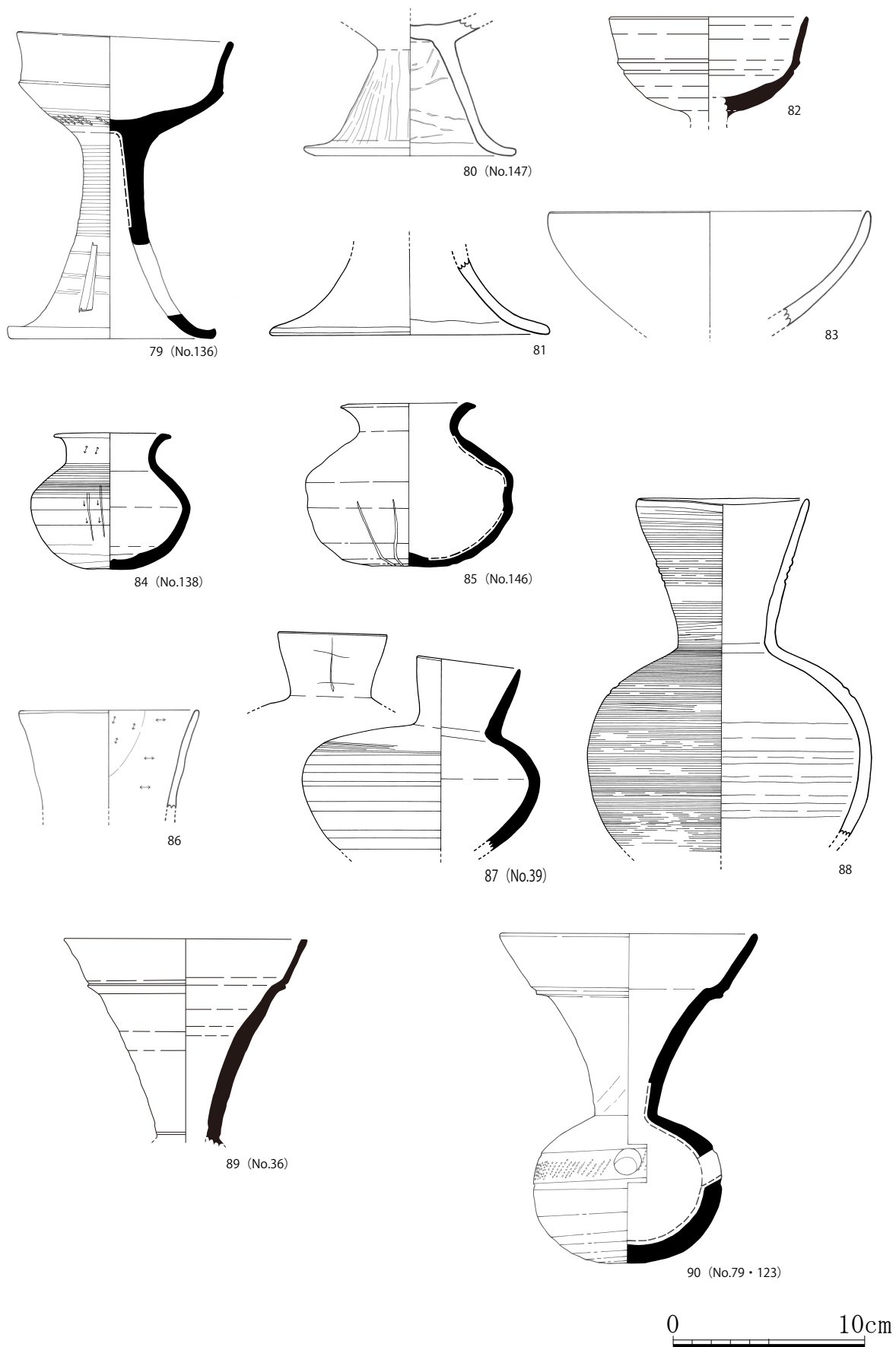


0 10cm

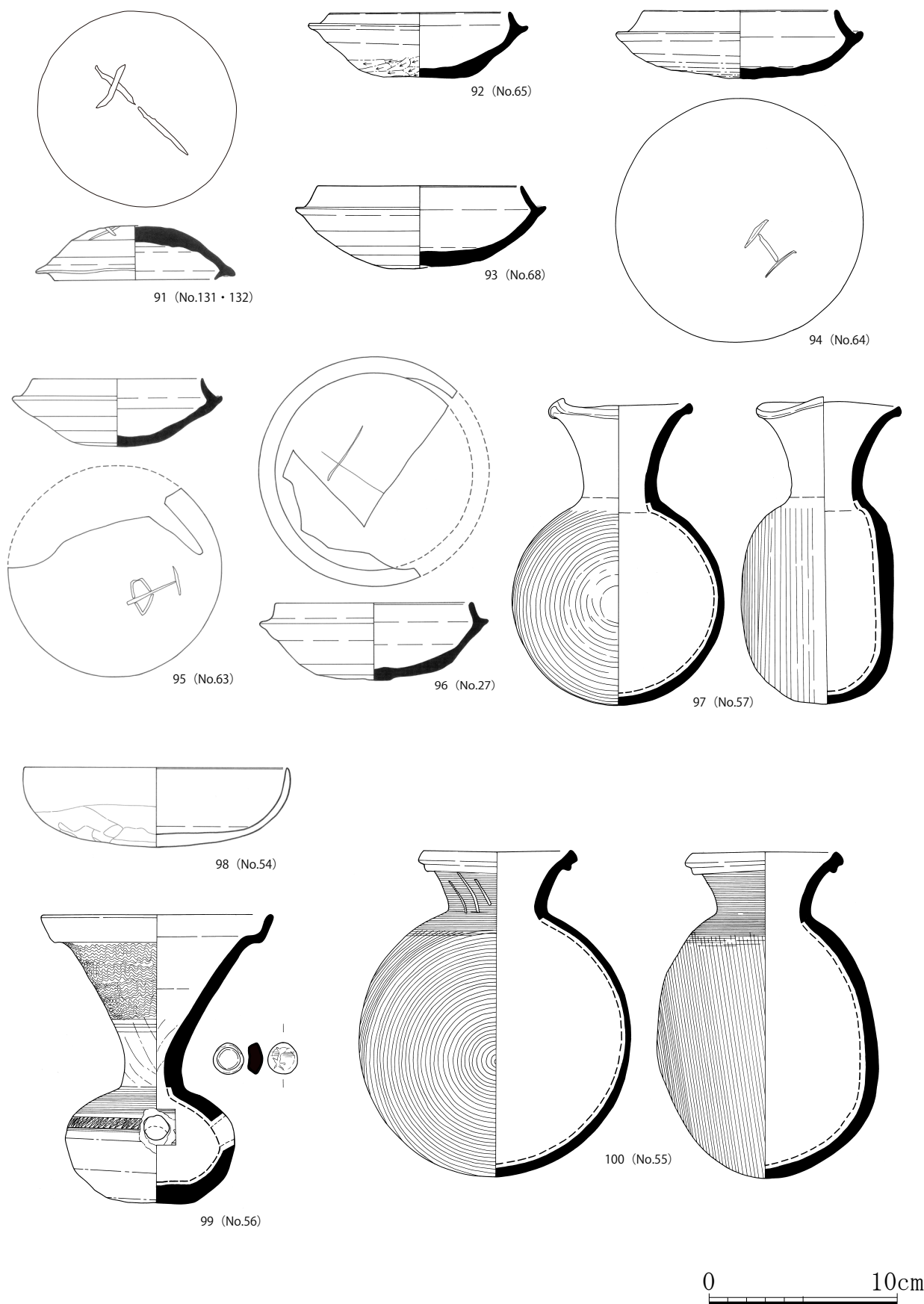
第 19 図 3 号墓前庭部出土遺物



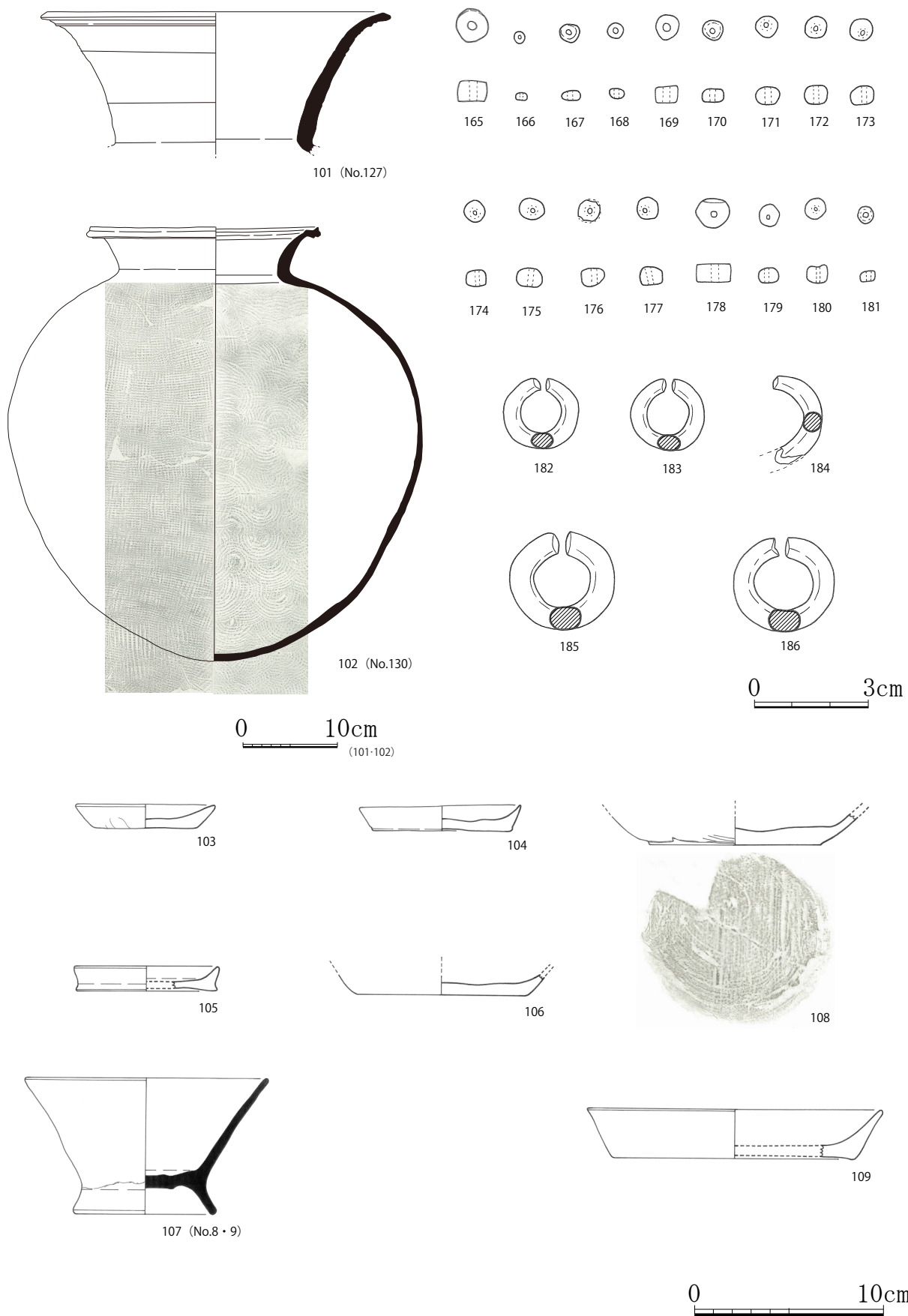
第 20 図 3 号墓前庭部出土遺物



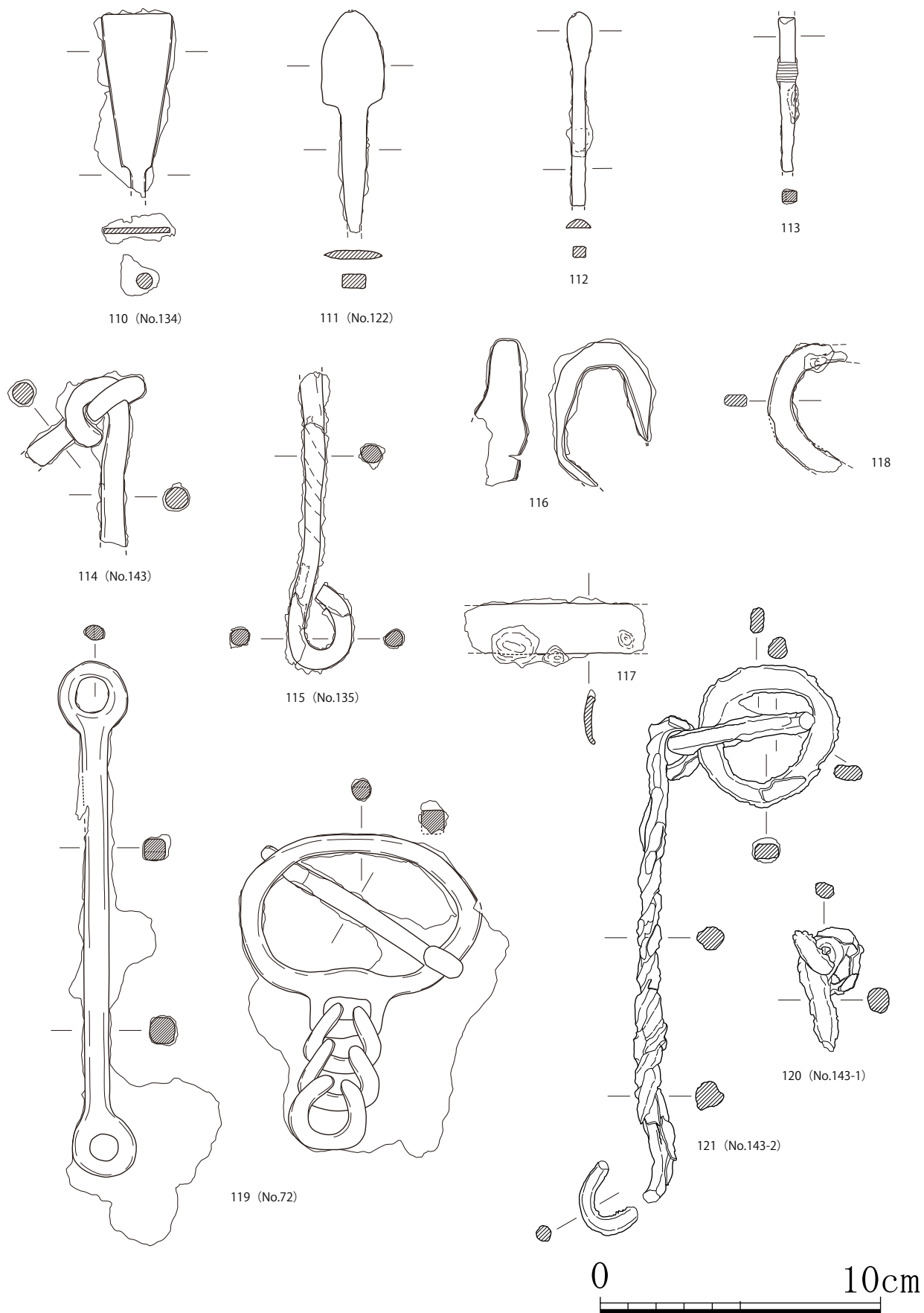
第 21 図 3 号墓前庭部出土遺物



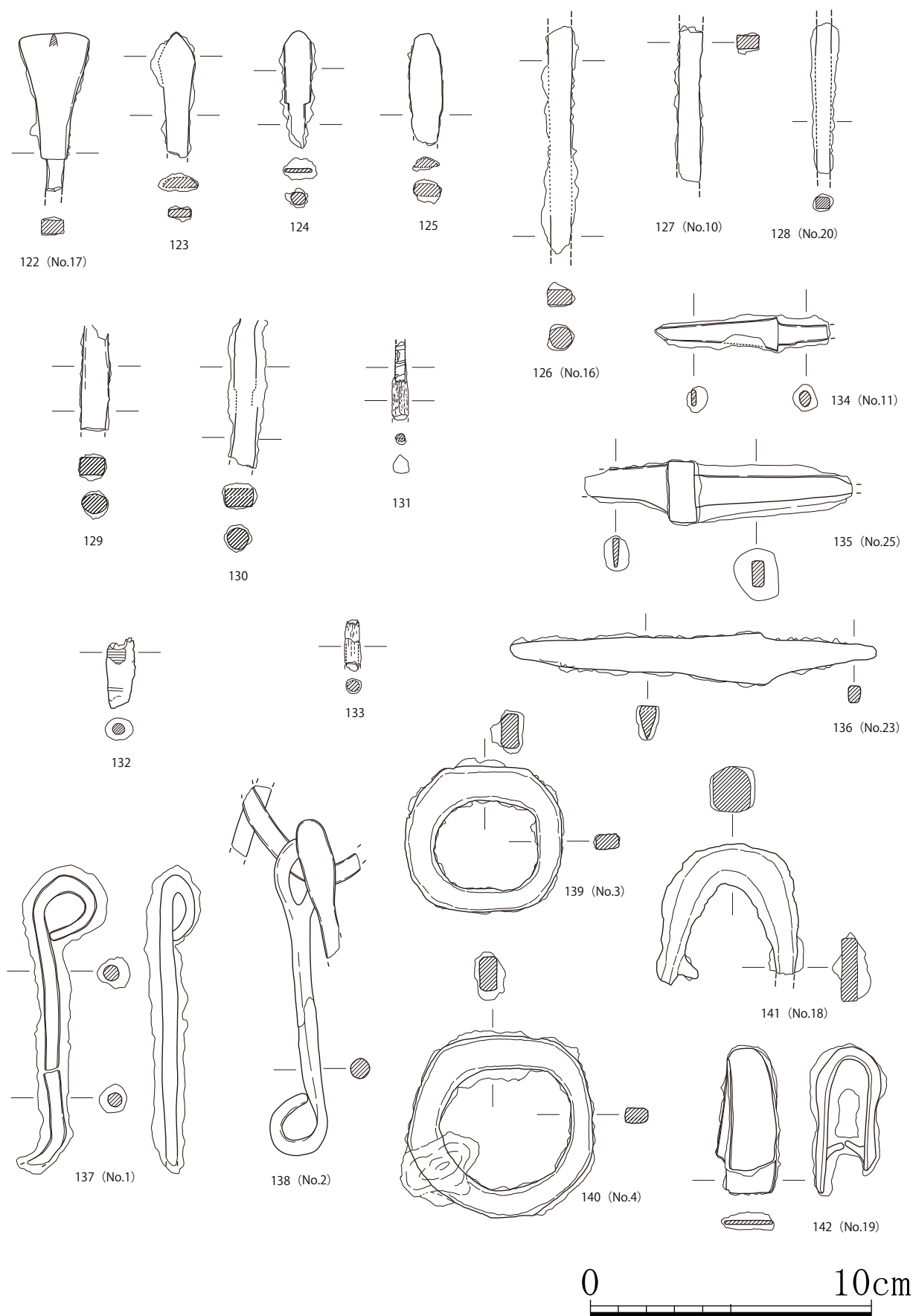
第 22 図 3 号墓羨道部出土遺物



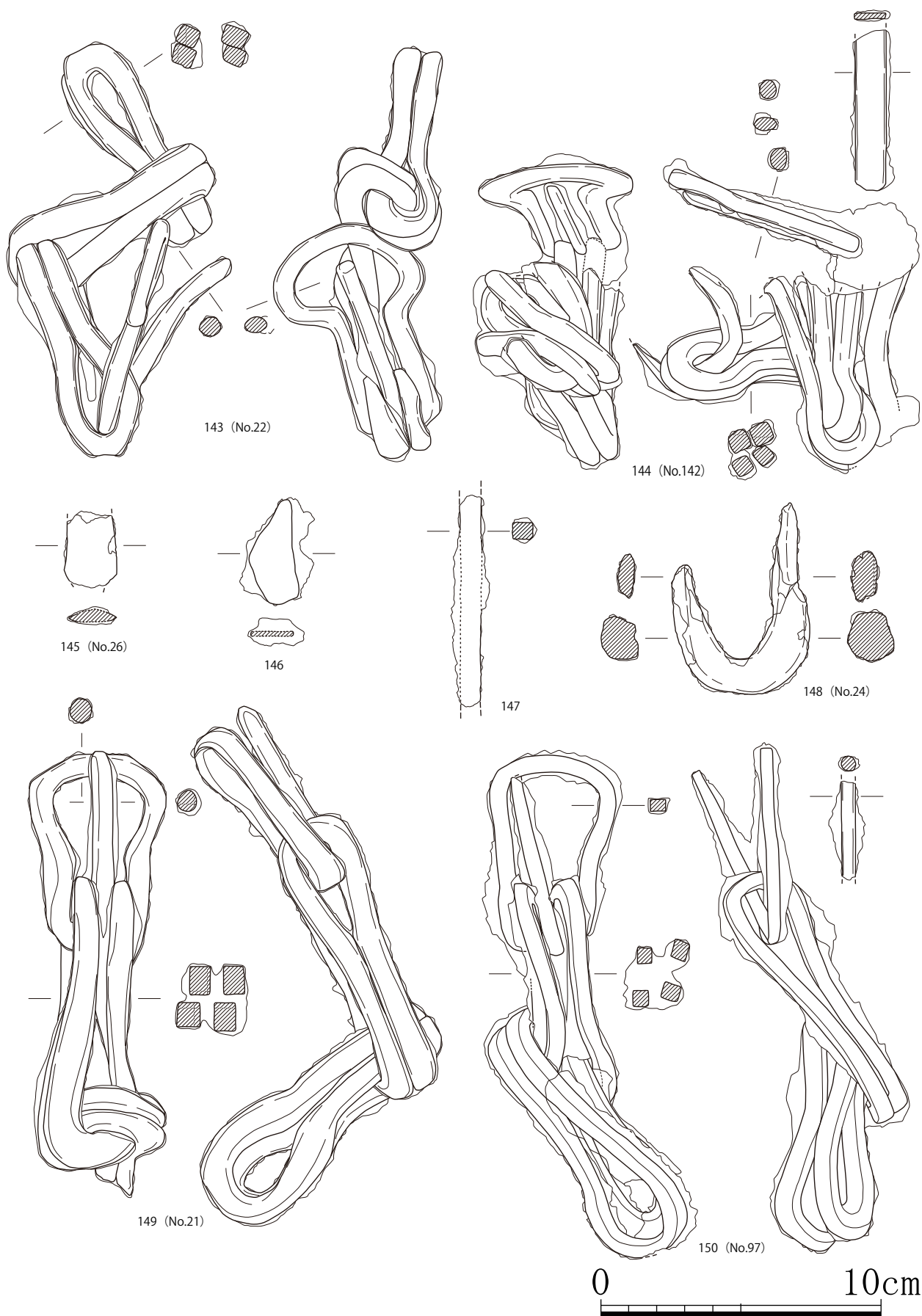
第 23 図 3 号墓前庭部・通路出土遺物



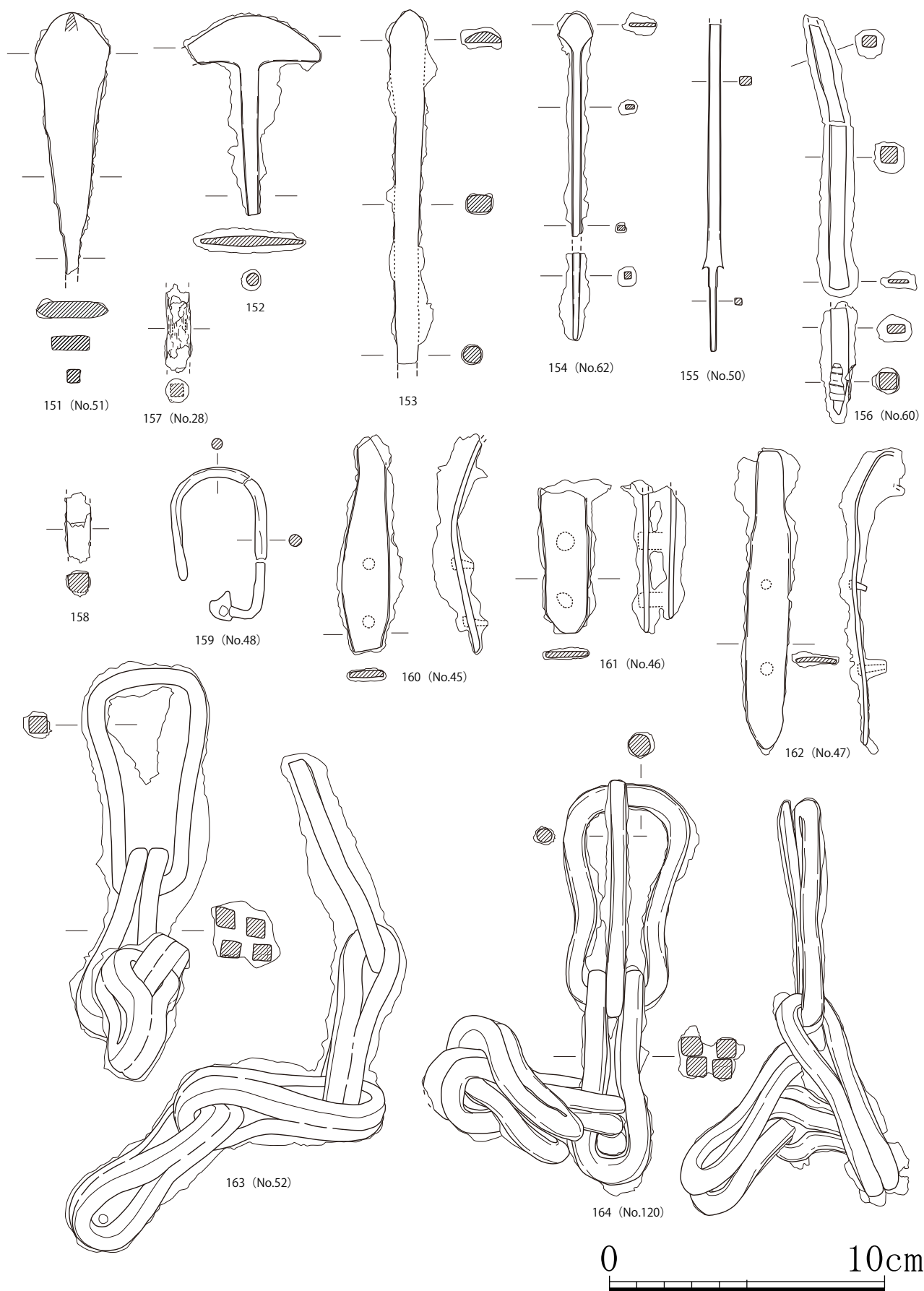
第 24 图 3 号墓前庭部出土遺物



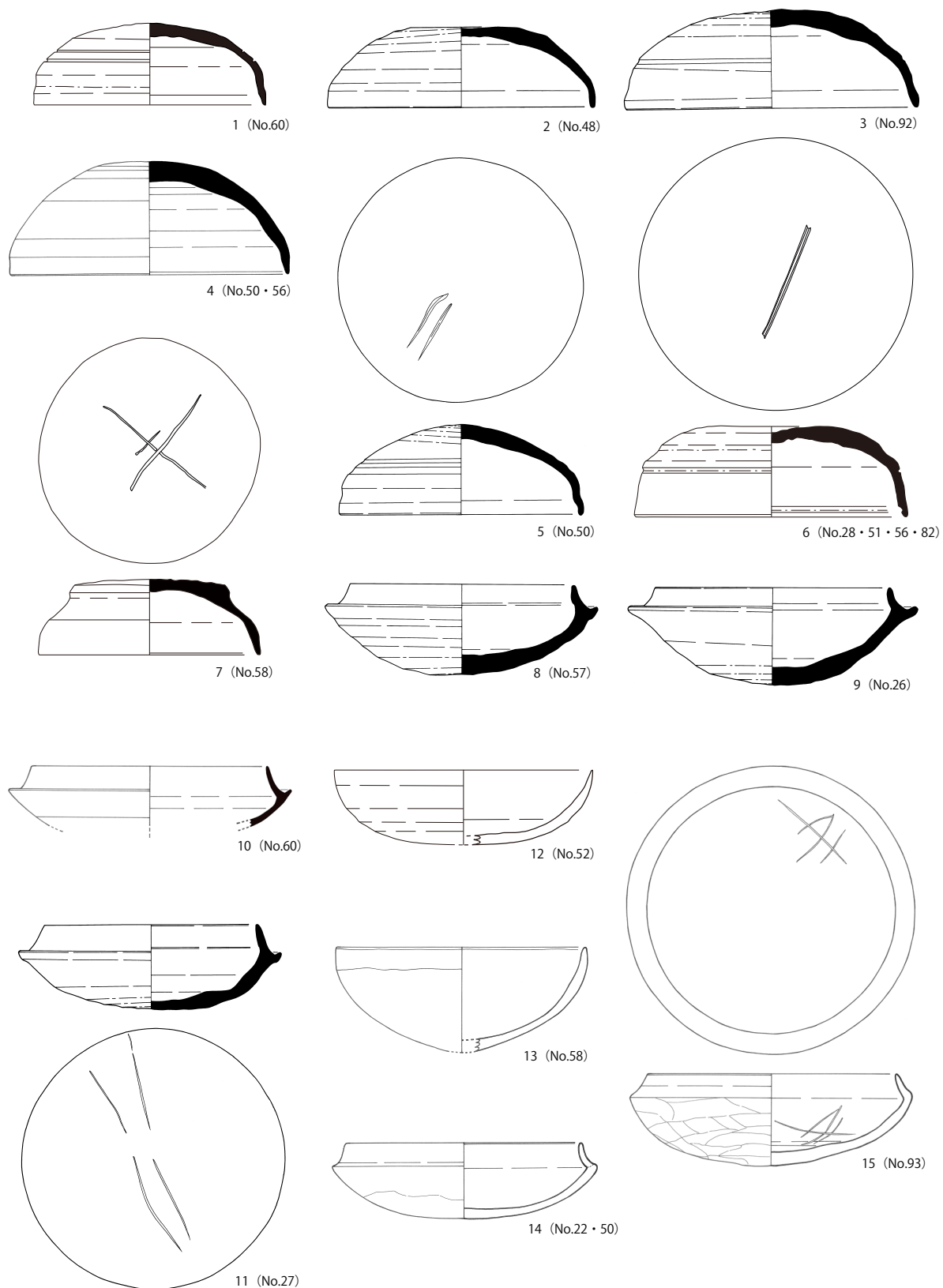
第 25 図 3 号墓羨門～玄門通路・通路出土遺物



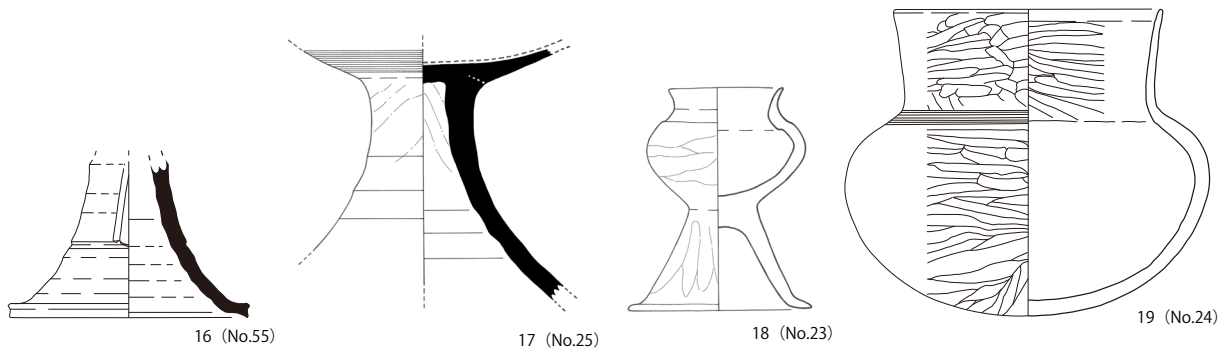
第 26 図 3 号墓前庭部～通路～玄室出土遺物



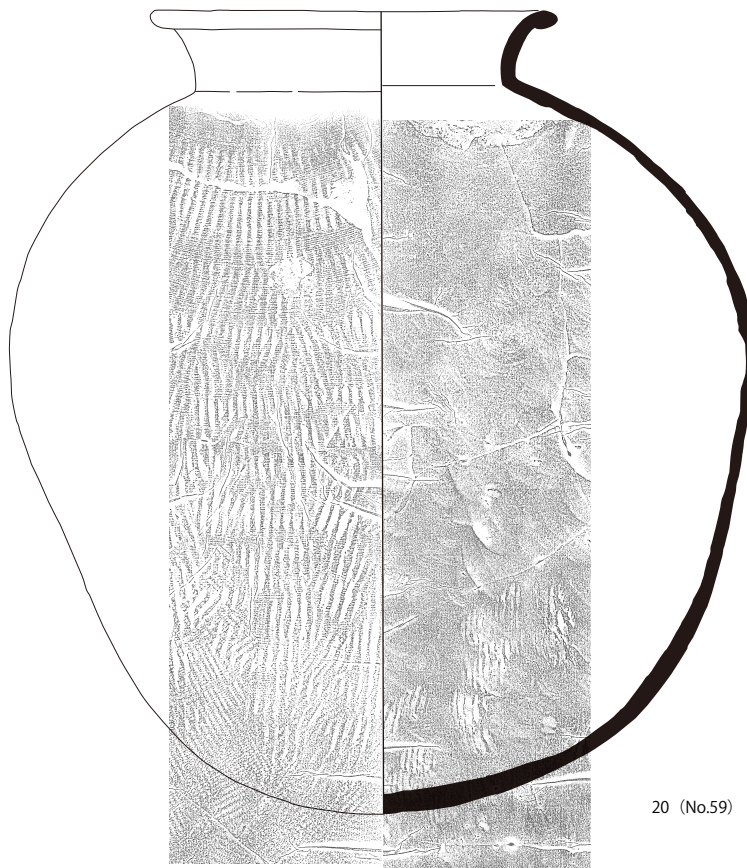
第 27 図 3 号墓前庭部～羨道部・玄門通路出土遺物



第 28 図 5 号墓前庭部出土遺物



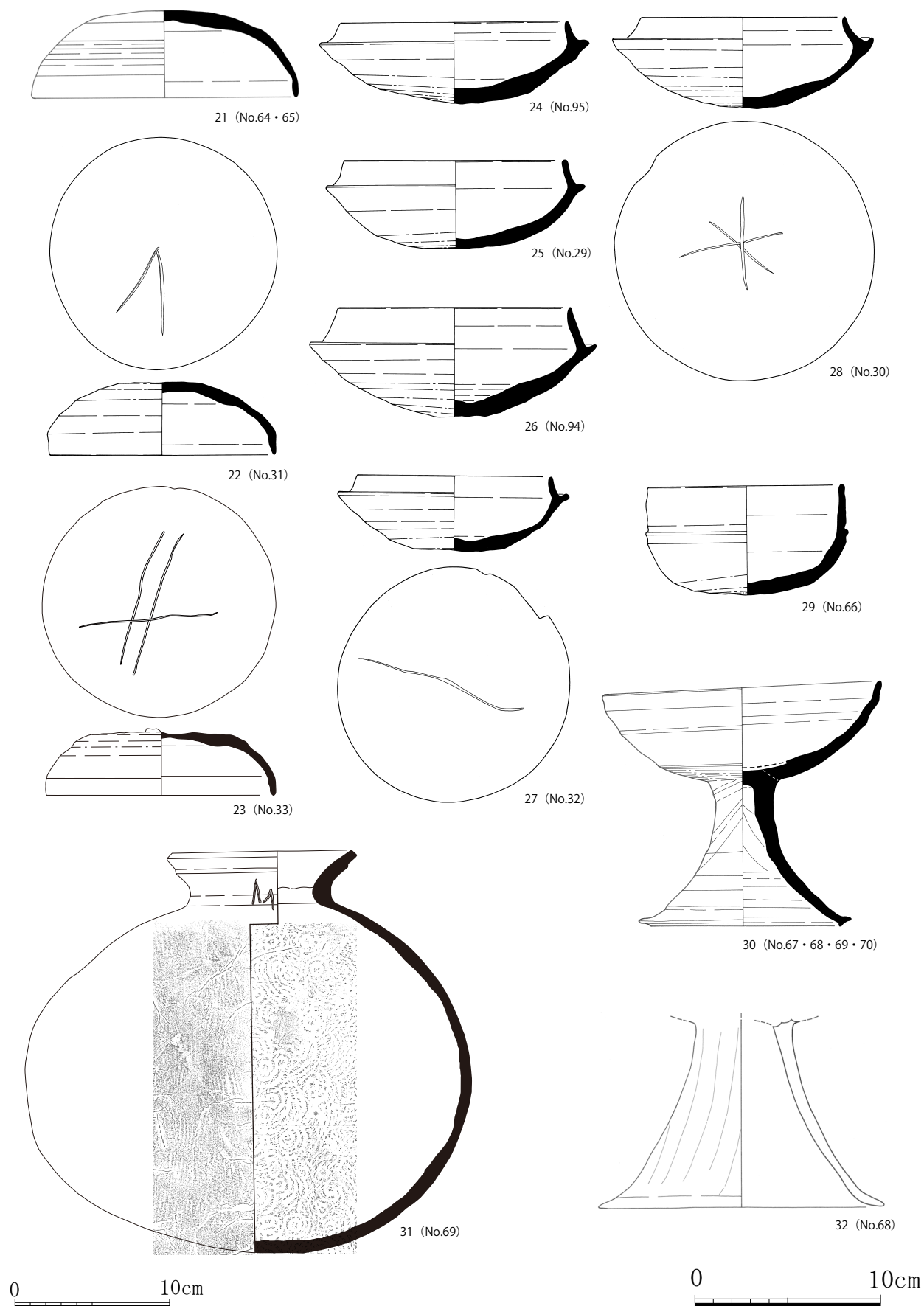
0 10cm



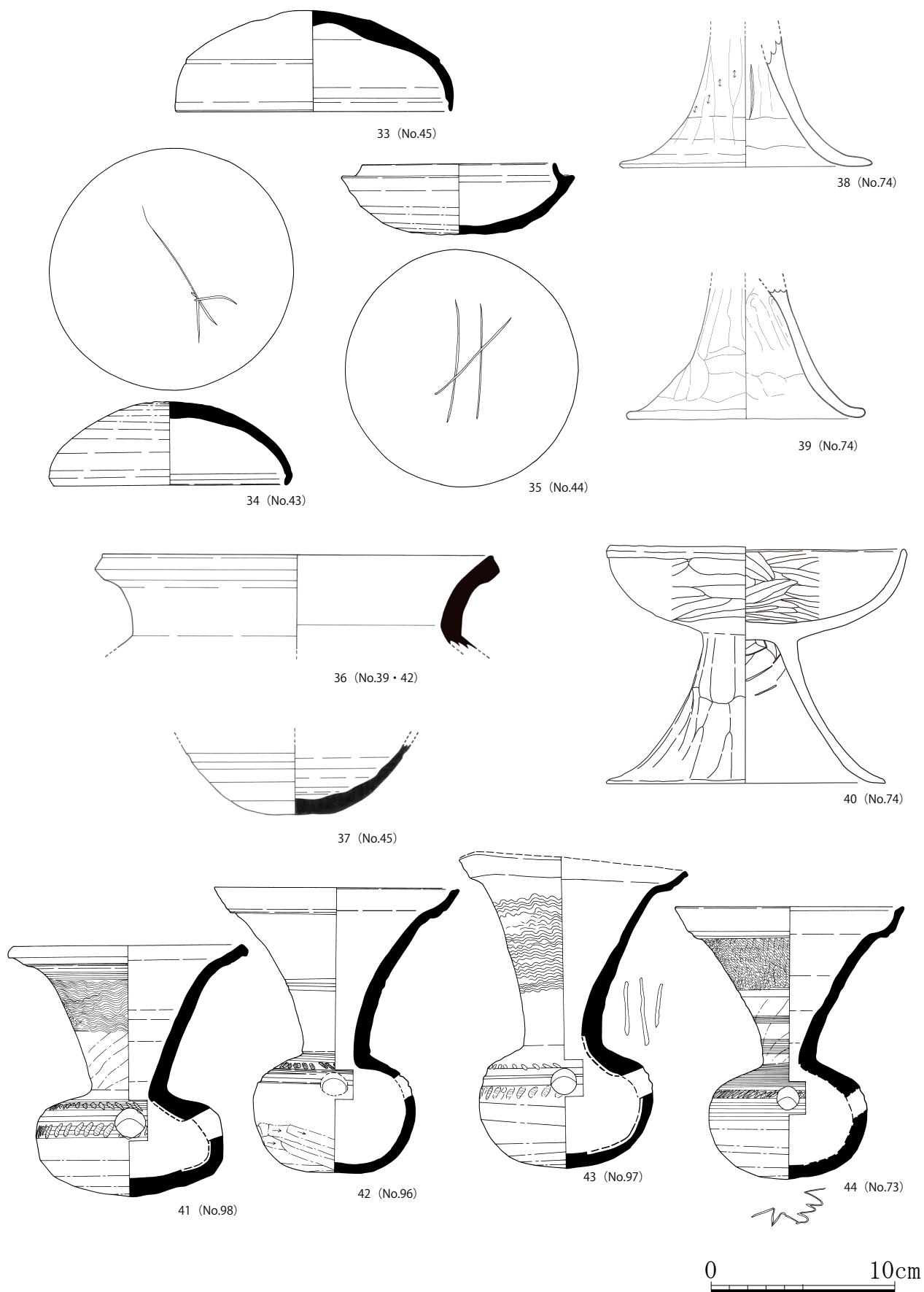
20 (No.59)

0 10cm

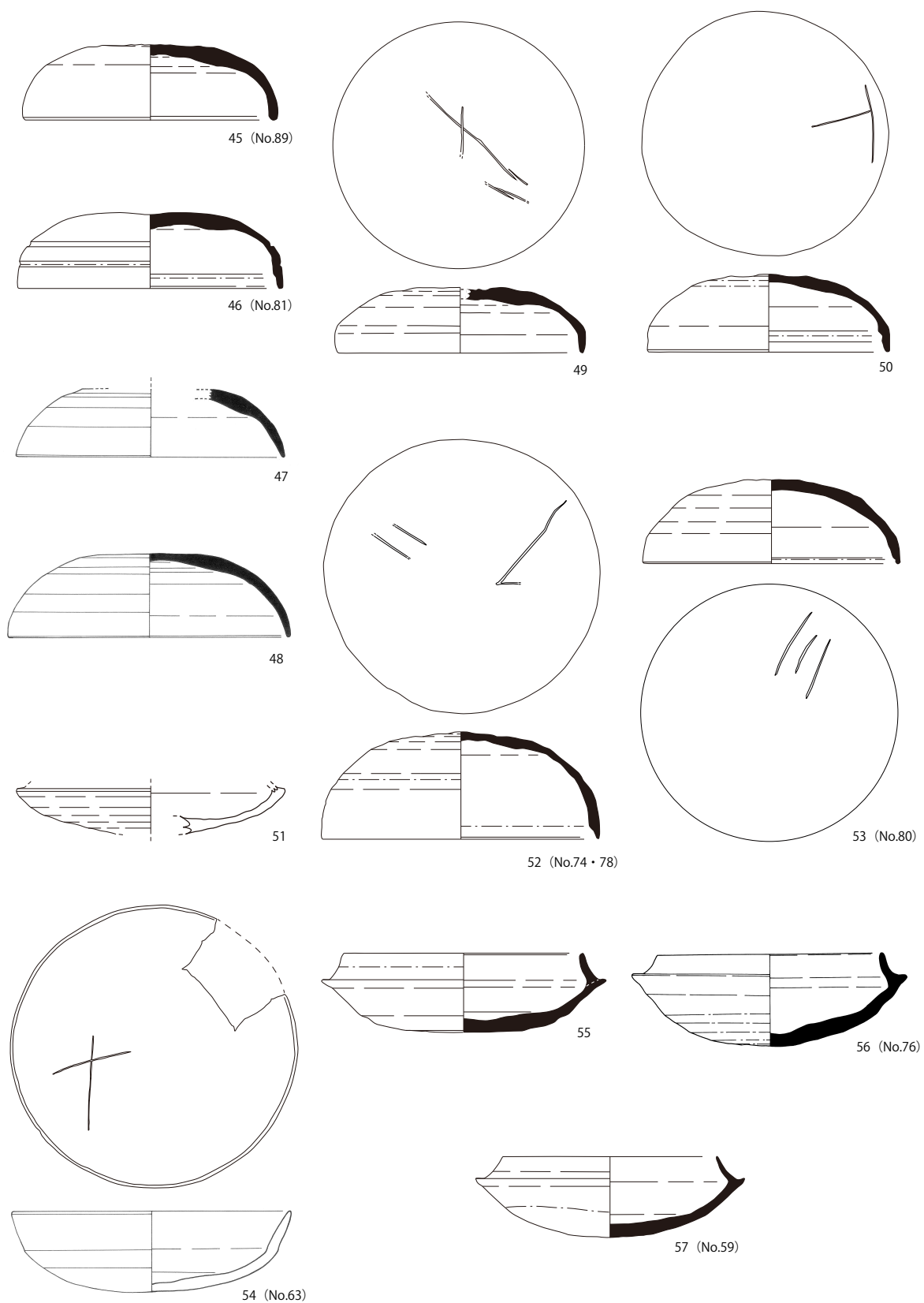
第 29 図 5 号墓前庭部出土遺物



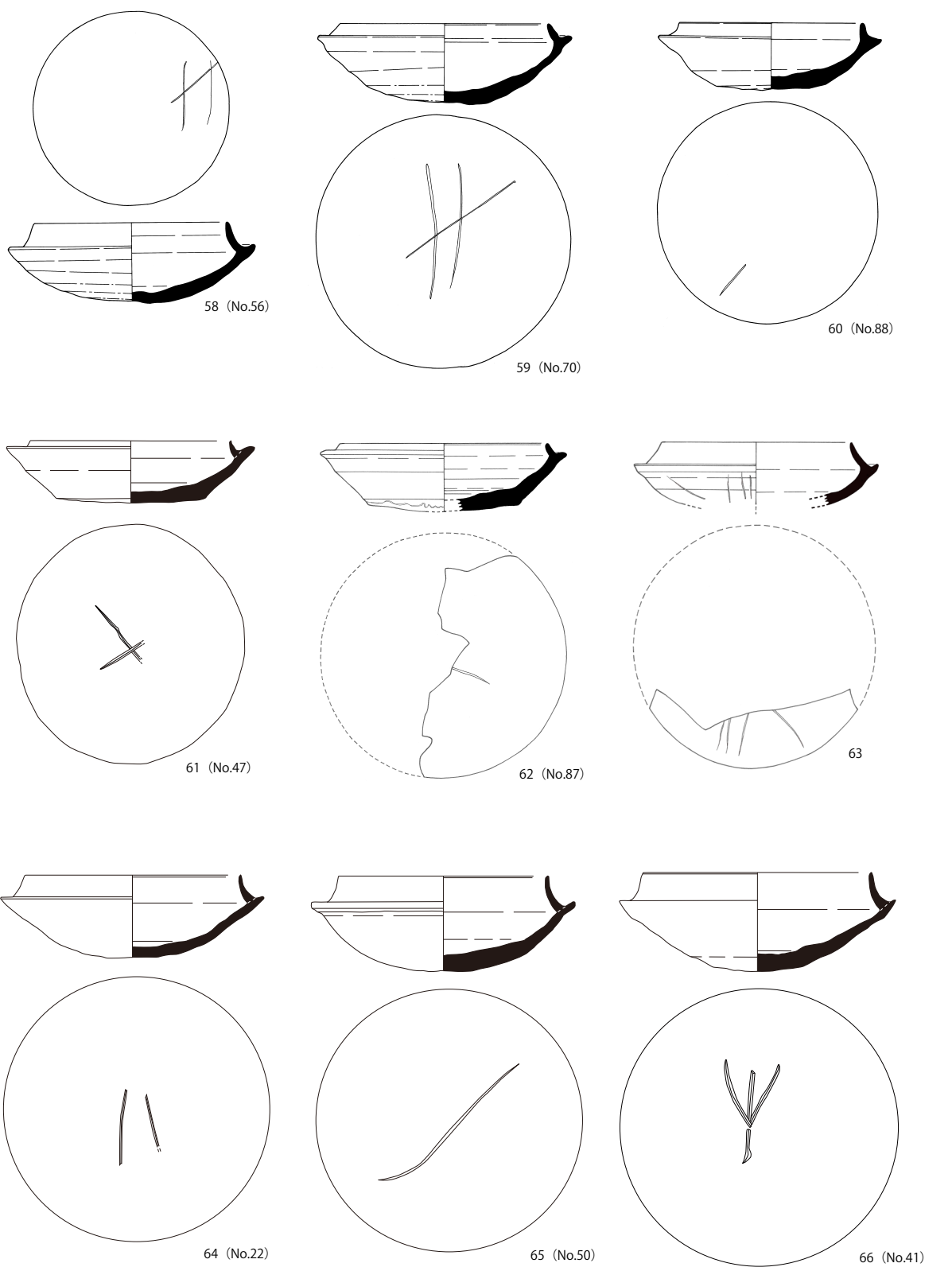
第 30 図 5 号墓前庭部出土遺物



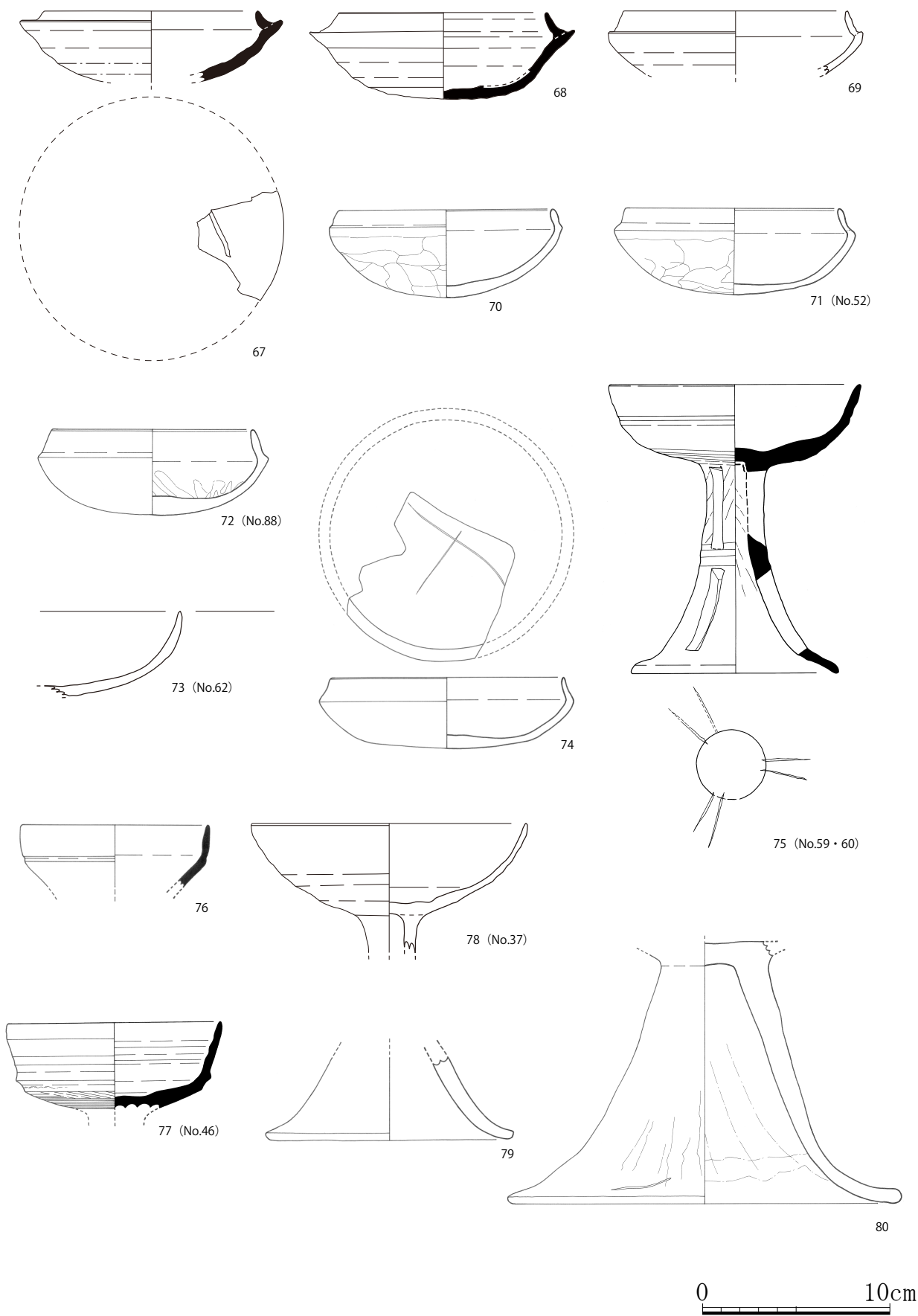
第31図 5号墓前庭部出土遺物



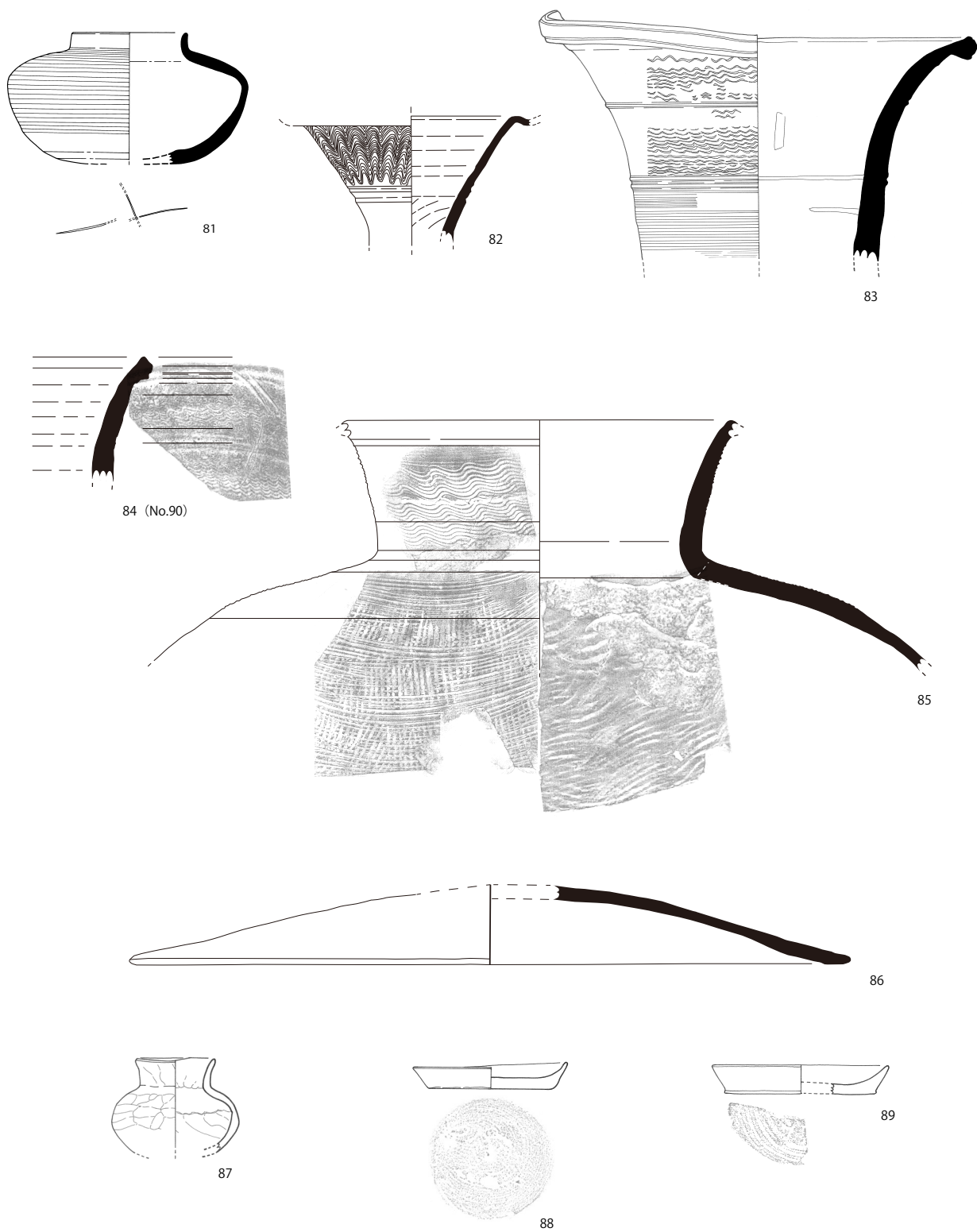
第 32 図 5 号墓前庭部出土遺物



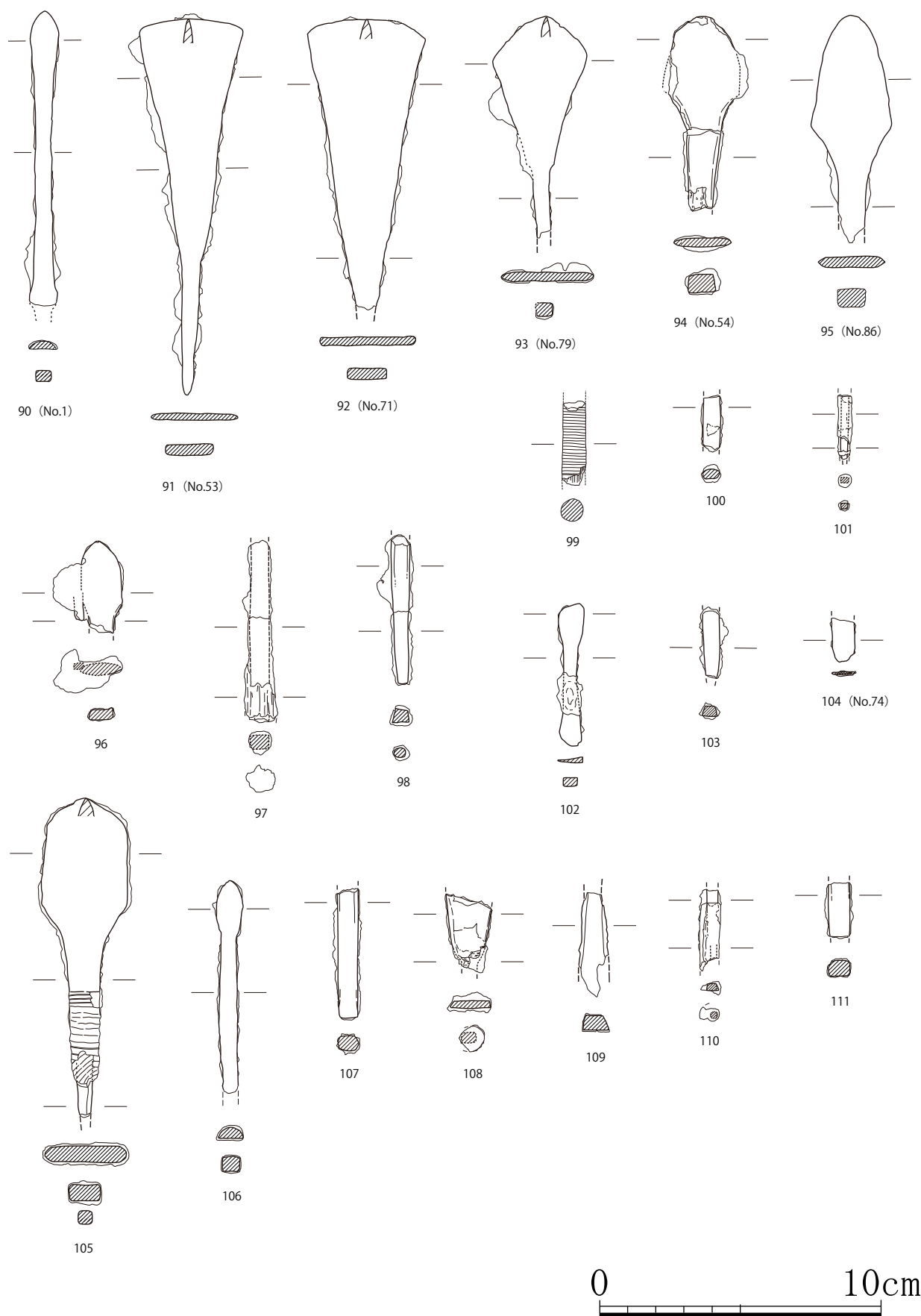
第 33 図 5 号墓前庭部出土遺物



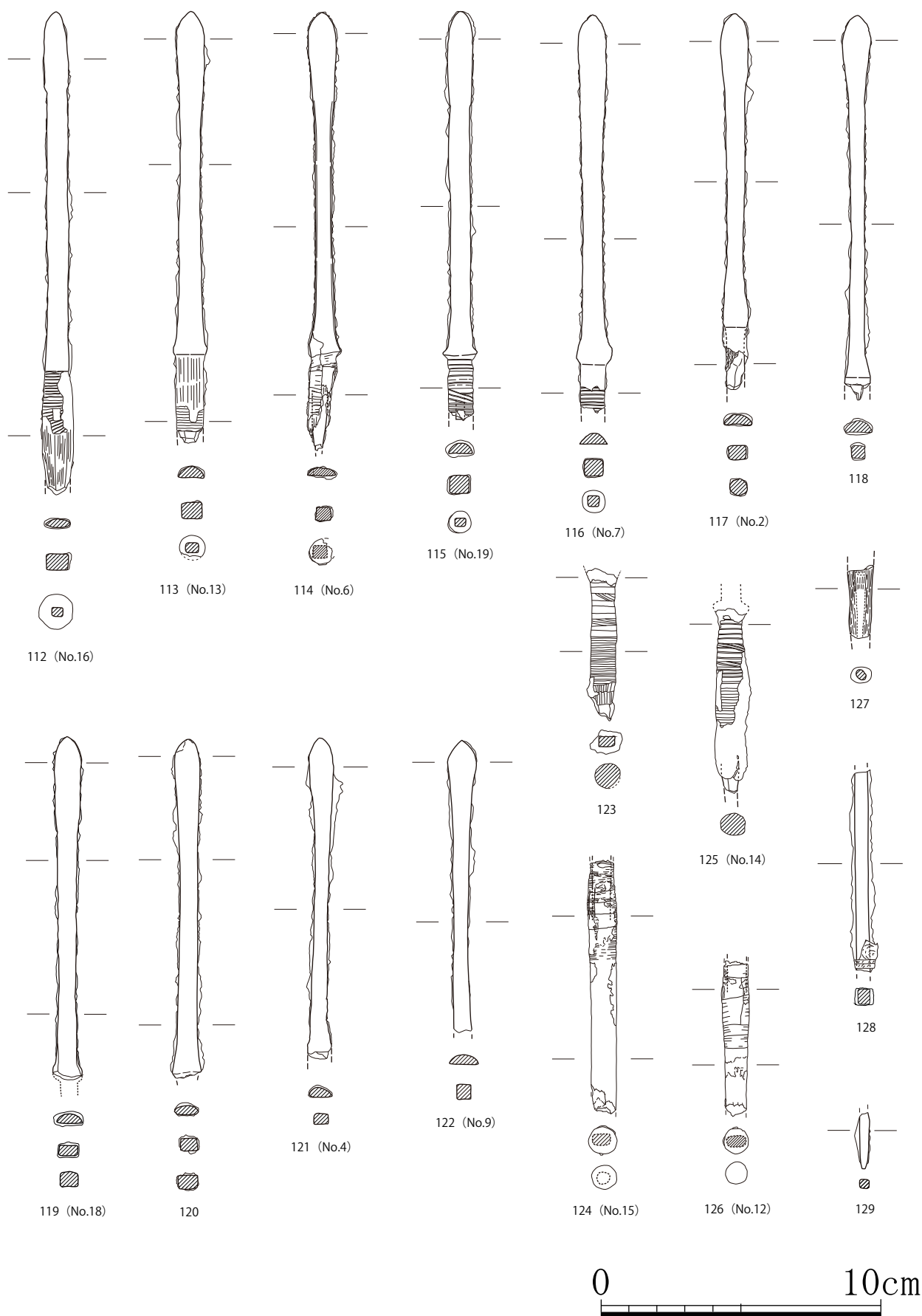
第 34 図 5 号墓前庭部出土遺物



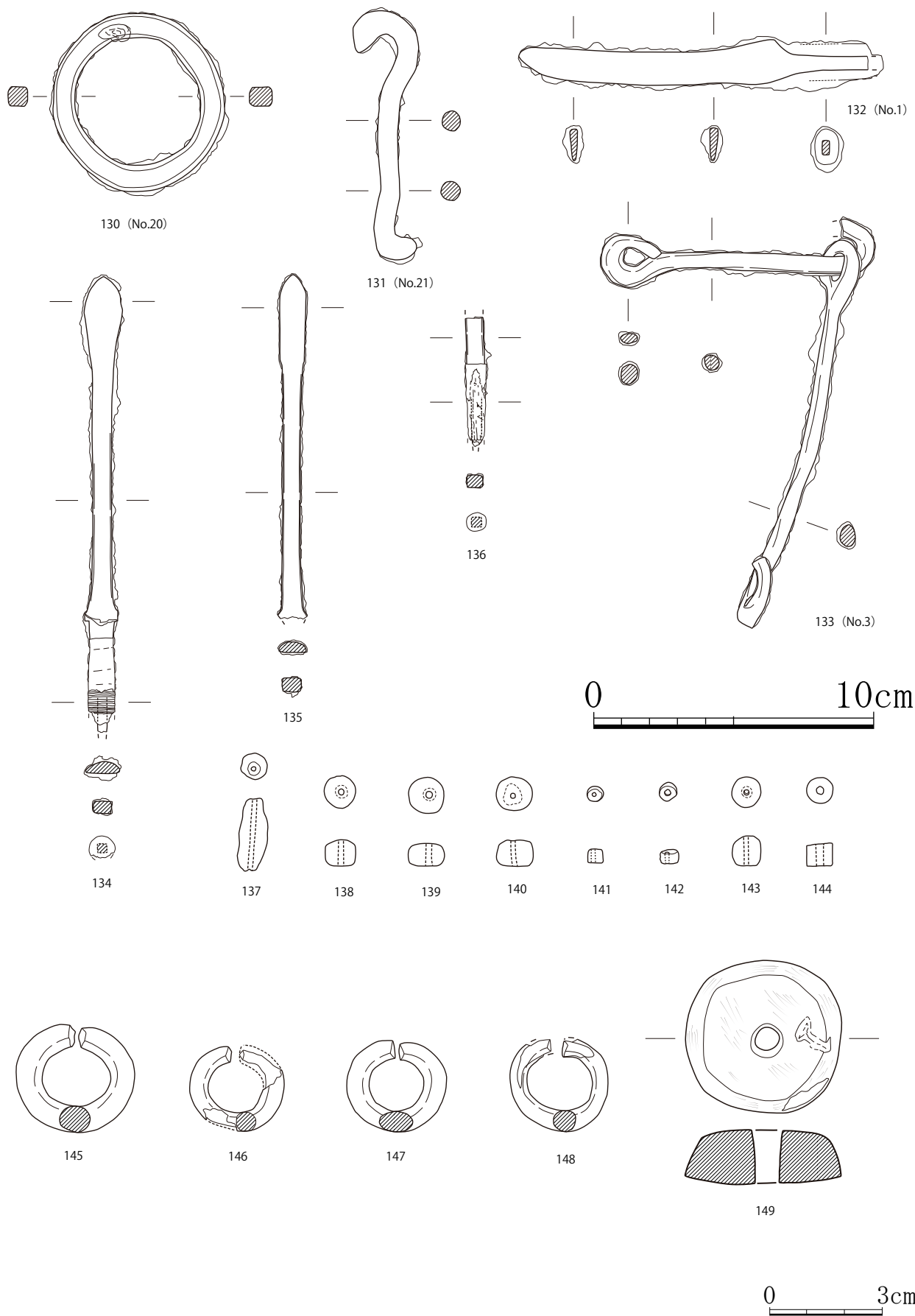
第 35 図 5 号墓前庭部・玄室出土遺物



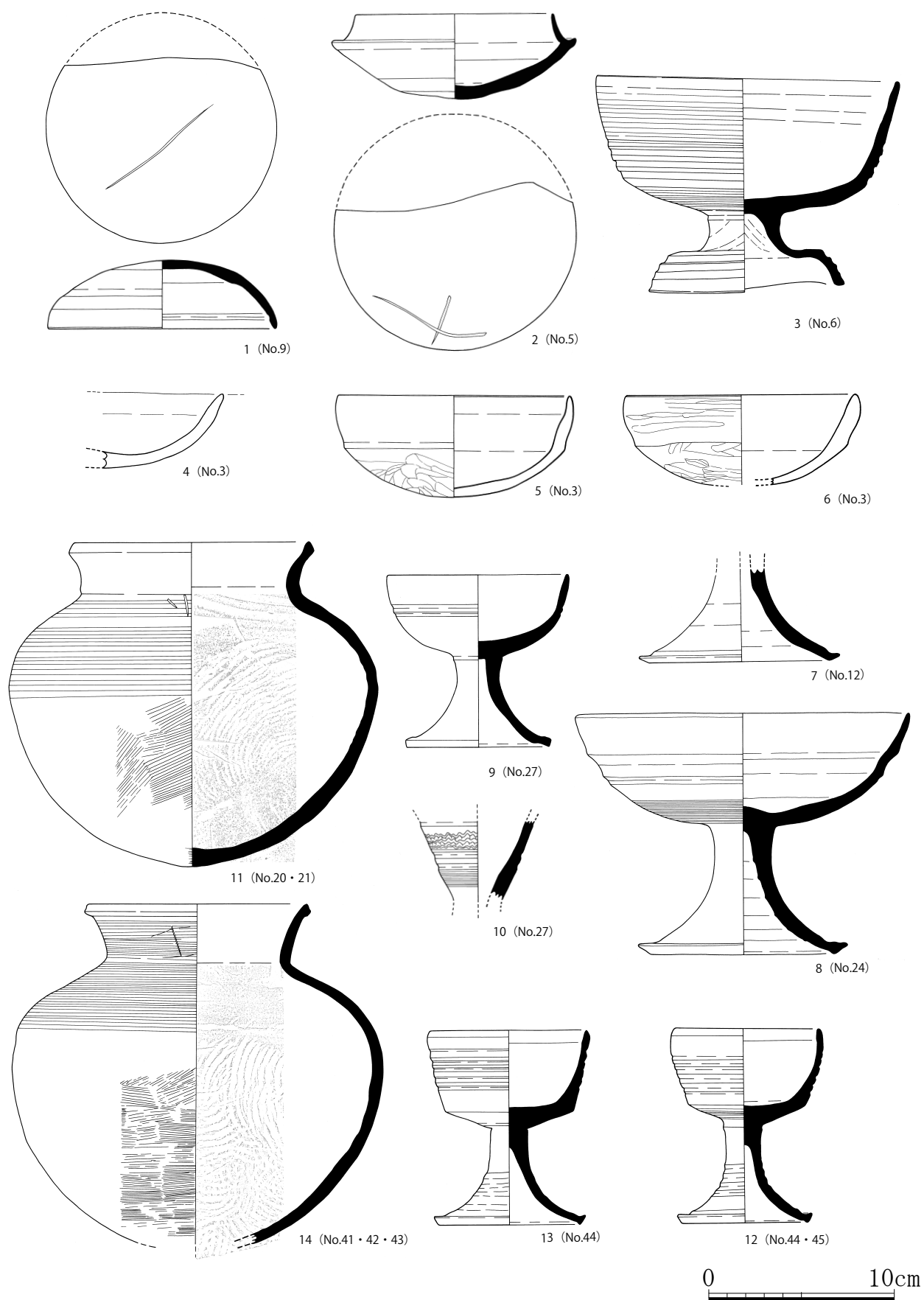
第 36 図 4・5 号墓前庭部・通路出土遺物



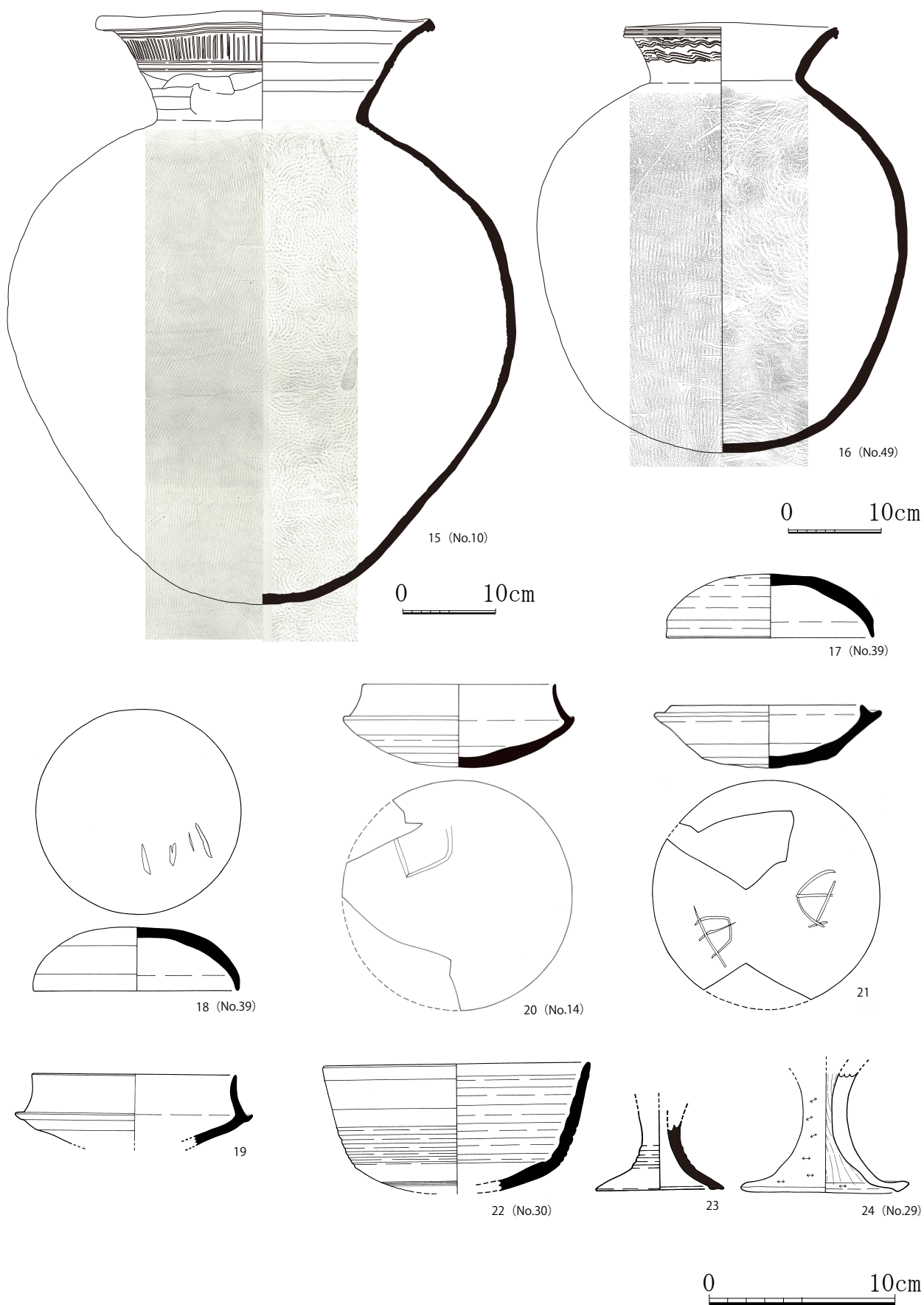
第 37 图 5 号墓玄室出土遺物



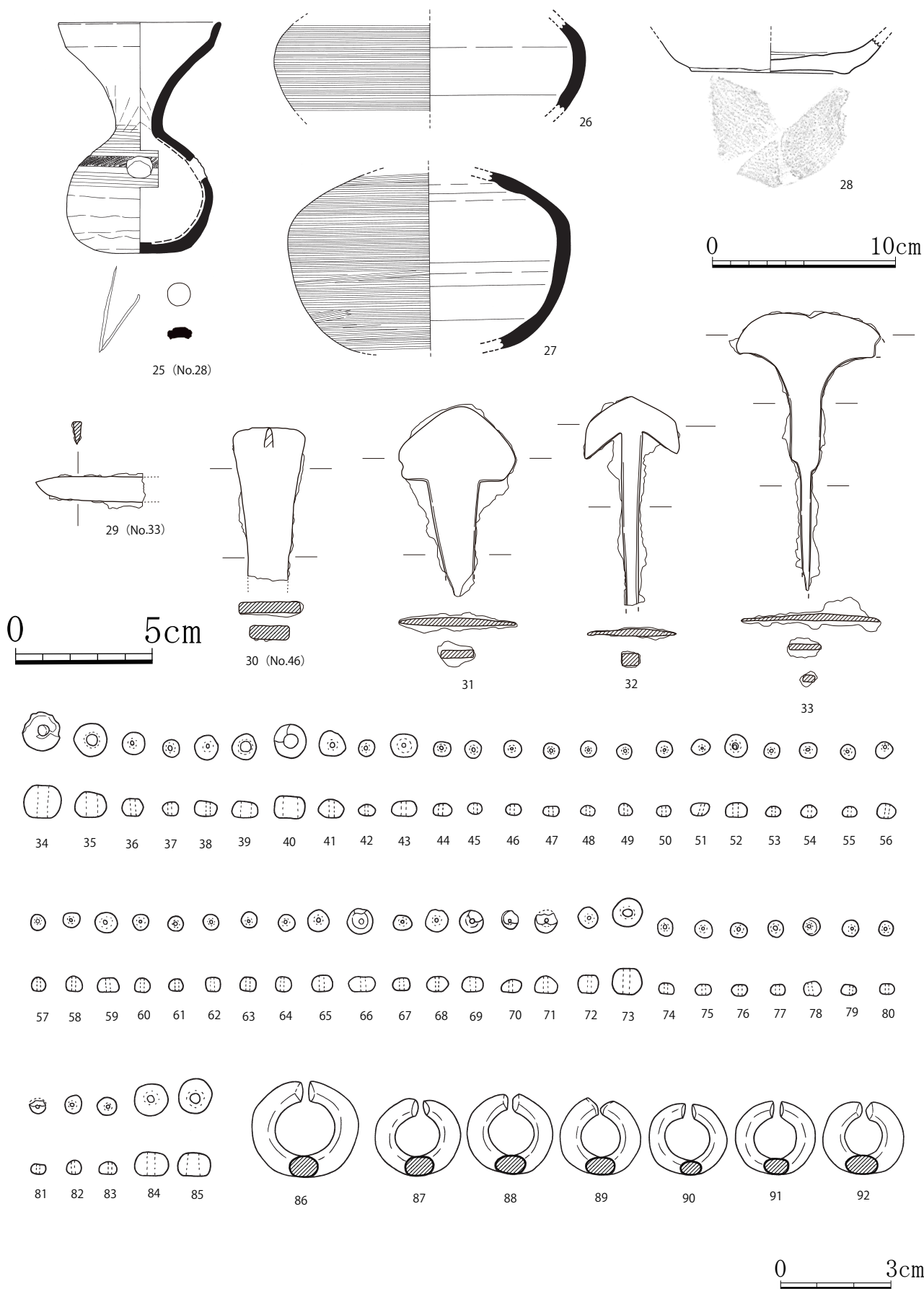
第 38 図 5 号墓前庭部・玄室出土遺物



第 39 図 6 墓前庭部出土遺物



第 40 図 6 墓前庭部・羨道部出土遺物



第 41 図 6 墓前庭部・通路・玄室出土遺物

第2表 土器観察表

土器観察表													
押図 番号	通物 番号	取上番号	出土地点	器 種	器 形	法 量	胎 土	焼成	色 調		調 整		備 考
									外面	内面	外 面	内 面	
第14図	1	一括	1号墓 羨道部	須恵器	蓋	口径8.1 高さ3.6 底径4.6	細砂粒(多) 長石(少) 石英(少)	良	暗緑灰	灰	回転ナデ ヘラケズリ後 ナデ	回転ナデ ナデ	短頸蓋の蓋の可能性有り 切り難し蓋は回転ヘラ切後ナデ ロクロ右回り ほぼ完形 TK209並行期

3号墓 土器観察表

押図 番号	通物 番号	取上番号	出土地点	器 種	器 形	法 量	胎 土	焼成	色 調		調 整		備 考
									外面	内面	外 面	内 面	
第14図	2	No.89	3号墓 前底部	須恵器	高坏	口径9.7 高さ11.8 底径8.8	細砂粒(多) 角閃石(少) 小石粒(少) 雲母(多)	良	橙	橙	回転ナデ カキ目	回転ナデ シボリ盛有り	完形 TK43並行期 模倣須恵器
第14図	3	No.90	3号墓 前底部	須恵器	坏蓋	口径12.4 高さ3.9	細砂粒(多)	やや良	灰白	灰白	回転ナデ ヘラケズリ	回転ナデ ナデ	体部内面にヘラ記号有り ロクロ右回り 完形 TK43並行期
第14図	4	No.34	3号墓 前底部	須恵器	坏身	口径11.0 高さ4.1	細砂粒(多) 白色粒(多)	良	灰オリー ープ	灰	回転ヘラケズリ後回転ナデ	回転ナデ後ナデ	体部内面にヘラ記号有り 切り難し蓋は回転ヘラ切後ナデ 口縁部打ち欠き ほぼ完形 TK209並行期
第14図	5	No.91	3号墓 前底部	須恵器	坏身	口径11.5 高さ4.0	細砂粒(多) 白色粒(多)	やや良	灰白	灰白	回転ナデ ヘラケズリ	回転ナデ ナデ	体部外面にヘラ記号有り 切り難し蓋は回転ヘラ切り ロクロ右回り ほぼ完形 TK43並行期
第14図	6	No.92	3号墓 前底部	須恵器	坏身	口径12.3 高さ4.2	細砂粒(多) 赤褐色粒(少) 雲母(少)	不良	灰白	浅黄緑	回転ナデ ヘラケズリ	回転ナデ ナデ	体部外面にヘラ記号有り ロクロ右回り 口縁部の数ヶ所がわ ずかに欠損 TK43並行期
第14図	7	No.42	3号墓 前底部	須恵器	蓋	胴部径(12.4) 残存高7.7+	細砂粒(多) 長石(多) 白色粒(多)	良	灰オリー ープ	灰	回転ナデ 回転ヘラケズ リ後回転ナデ	回転ナデ後ナデ	切り難し蓋は回転ヘラ切り後ナデ 肩部に指痕 正産 口縁部～頸部欠損 胴部1/3以下
第14図	8	No.93	3号墓 前底部	須恵器	坏蓋	口径12.2 高さ3.1	細砂粒(多)	やや良	灰白	灰白	回転ナデ ヘラケズリ	回転ナデ ナデ	体部外面にヘラ記号有り ロクロ右回り ほぼ完形 TK209並行期
第14図	9	No.35	3号墓 前底部	須恵器	坏身	口径10.7 高さ4.3	細砂粒(多)	やや良	灰白	灰白	ヘラケズリ後ナデ	回転ナデ ナデ	体部外面にヘラ記号有り 一部に指痕正産有り ロクロ右回り 口縁部打ち欠き ほぼ完形 TK43～209並行期 八女産?
第15図	10	No.88、95	3号墓 前底部	須恵器	縄瓶	口径4.9 胴部径8.6 高さ10.3	細砂粒(多)	良	灰オリー ープ	灰オリー ープ	回転ナデ カキ目	回転ナデ シボリ盛有り	外面に自然輪付着 ロクロ右回り 肩部と胴部の一部欠損
第15図	11	No.96	3号墓 前底部	須恵器	脚付壺	口径5.9 高さ8.5 底径7.4	細砂粒(多)	やや良	灰	灰	回転ナデ ヘラケズリ	回転ナデ ナデ	底底部に脚を接合した際の強いナデの痕が見られる ロクロ右回り 完形
第15図	12	3号墓No.150 4号墓一括	3号墓 前底部 4号墓 前底部	須恵器	坏蓋	口径10.9～12.1 高さ4.0	細砂粒(多) 長石(少) 角閃石(少) 白色粒(少)	良	灰 黒	灰	回転ヘラケズリ後回転ナデ	回転ナデ	切り難し蓋は回転ヘラ切り後回転ナデ 口縁部に歪み ほぼ完形 牛轡産?
第15図	13	No.152	3号墓 前底部	土師器	タケ型壺	口径6.4 胴部径13.0 残存高11.6+	細砂粒(多)	良	にぶい橙	にぶい橙	ケズリ後磨き	磨き	外面に保存着 口縁部一部欠損 体部一部欠損 係数形の稀有な土師器
第15図	14	No.154	3号墓 前底部	土師器	台付小型壺	口径5.9 高さ11.1 底径7.5	細砂粒(多) 角閃石(少) 長石(少) 雲母(多)	良	にぶい橙	にぶい橙	ヘラケズリ後ヨコナデ	ヘラケズリ後ヨコナデ	完形
第15図	15	No.153	3号墓 前底部	須恵器	坏身	口径11.4 高さ3.3	細砂粒(多)	やや良	灰白	灰	回転ナデ ヘラケズリ	回転ナデ ナデ	体部外面にヘラ記号有り 口縁部付近に自然輪付着 ロクロ右回り 完形 TK209並行期
第15図	16	No.76、一括	3号墓 前底部	須恵器	坏蓋	口径(14.8) 高さ4.2	細砂粒(少) 白色粒(少)	良	にぶい 黄緑	灰白	天井部は回転ヘラケズリ 後ナデ 回転ナデ	回転ナデ	口縁部～体部1/2以下 TK43並行期 八女産?
第15図	17	No.30	3号墓 前底部	須恵器	坏蓋	口径(13.4) 残存高3.8+	細砂粒(多) 雲母(多)	良	にぶい橙 黒	浅黄緑	回転ヘラケズリ 回転ナデ	回転ナデ ナデ	体部内面にヘラ記号有り 外面に黒ウツシを塗布した様な部分 がまばらに有る 口縁部1/4程度残存
第15図	18	No.31	3号墓 前底部	須恵器	坏蓋	口径(13.0) 高さ5.0	細砂粒(少) 長石(少)	良	灰黄 黄灰	にぶい 黄緑	回転ヘラケズリ後回転ナデ	回転ナデ	体部外面にヘラ記号有り 切り難し蓋は回転ヘラ切り後ナデ 口縁部1/2程度欠損 TK43並行期 八女産?
第15図	19	No.29	3号墓 前底部	土師器	壺	口径(22.4) 残存高2.2+	細砂粒(多) 長石(多) 角閃石(多) 赤褐色粒(少) 雲母(多)	良	楊灰	にぶい 黄緑	ナデ	ナデ	口縁部のみ残存
第15図	20	No.66	3号墓 羨道部	須恵器	坏蓋	口径10.4 高さ2.5	細砂粒(多)	やや良	赤褐 赤黒	赤褐 赤黒	回転ナデ ヘラケズリ	回転ナデ	体部外面にヘラ記号有り ロクロ右回り ほぼ完形 7世紀後半 No.21とセット
第15図	21	No.137、139 一括	3号墓 前底部	須恵器	坏身	口径9.6 高さ3.6	細砂粒(多) 長石(少) 角閃石(少) 小石粒(多) 白色粒(多)	良	にぶい 赤褐	にぶい 赤褐	回転ヘラケズリ後回転ナデ	回転ナデ	体部外面にヘラ記号有り 切り難し蓋は回転ヘラ切り後ナデ 口縁部1/2以上残存 7世紀後半 No.20とセット
第16図	22	No.70	3号墓 前底部	須恵器	坏蓋	口径13.6 高さ4.1	細砂粒(多) 小石粒(多) 白色粒(多)	やや良	にぶい橙	にぶい橙	回転ヘラケズリ後回転ナデ	回転ナデ後ナデ	ほぼ完形 TK43並行期
第16図	23	No.71	3号墓 前底部	須恵器	坏蓋	口径13.4 高さ4.5	細砂粒(少) 角閃石(多) 白色粒(少) 雲母(多)	良	灰	灰白	回転ヘラケズリ後回転ナデ	回転ナデ後ナデ	切り難し蓋は回転ヘラ切り後ナデ ほぼ完形 TK43並行期
第16図	24	No.81	3号墓 前底部	須恵器	坏蓋	口径13.2 高さ4.0	細砂粒(多) 白色粒(少)	良	灰	灰	回転ヘラケズリ後回転ナデ	回転ナデ後ナデ	切り難し蓋は回転ヘラ切り後ナデ ほぼ完形 TK43並行期
第16図	25	No.86、87	3号墓 前底部	須恵器	坏蓋	口径12.6 高さ3.7	細砂粒(多) 長石(多) 小石粒(多) 白色粒(多)	良	灰	灰	回転ヘラケズリ後ナデ	回転ナデ後ナデ	切り難し蓋は回転ヘラ切り後ナデ 口縁部1/5程度欠損 TK43並行期
第16図	26	一括	3号墓 前底部	須恵器	坏蓋	口径(13.2) 高さ4.1	細砂粒(多) 小石粒(多) 白色粒(多)	良	緑灰	灰	回転ヘラケズリ後回転ナデ	ナデ 一部ミガキ	口縁部1/2程度欠損 TK43並行期 在地産?
第16図	27	No.44	3号墓 前底部	須恵器	坏蓋	口径12.5 高さ4.0	細砂粒(多) 小石粒(多) 白色粒(多)	良	オリーブ 灰 灰白	緑灰	回転ヘラケズリ後回転ナデ	回転ナデ後ナデ	体部外面にヘラ記号有り ほぼ完形 TK209並行期
第16図	28	No.74	3号墓 前底部	須恵器	坏蓋	口径11.5 高さ3.6	細砂粒(少) 白色粒(多)	良	灰黄	灰黄緑	回転ヘラケズリ後ナデ	回転ナデ ナデ	体部外面にヘラ記号有り ほぼ完形 TK209並行期
第16図	29	No.115、一括	3号墓 前底部	須恵器	坏蓋	口径12.0 高さ4.1	細砂粒(少) 小石粒(少) 白色粒(少)	良	灰 暗青灰	灰	回転ヘラケズリ後回転ナデ	回転ナデ後ナデ	体部外面にヘラ記号有り ほぼ完形 TK209並行期
第16図	30	一括	3号墓 前底部	須恵器	坏蓋	口径11.4 高さ3.7	細砂粒(多) 長石(少) 白色粒(多) 雲母(多)	やや良	にぶい 黄緑	浅黄緑	回転ヘラケズリ後回転ナデ	回転ナデ後ナデ	体部外面にヘラ記号有り 口縁部僅かに欠損
第16図	31	一括	3号墓 前底部	須恵器	坏蓋	口径11.8 高さ3.5	細砂粒(多) 白色粒(少)	良	暗灰 灰 オリーブ	灰オリーブ 灰	回転ヘラケズリ後回転ナデ	回転ナデ	体部外面にヘラ記号有り 口縁部1/4程度欠損 調整は丁茶 TK209並行期 牛轡産?
第16図	32	No.126、一括	3号墓 前底部	須恵器	坏蓋	口径11.8 高さ3.8	細砂粒(多) 長石(多) 小石粒(少) 白色粒(多)	良	オリーブ 灰	オリーブ 灰	回転ヘラケズリ後回転ナデ	回転ナデ ナデ	体部外面にヘラ記号有り 口縁部1/6程度欠損 TK209並行期
第17図	33	No.111	3号墓 前底部	須恵器	坏蓋	口径12.0 高さ3.8	細砂粒(多)	やや良	暗オリー ブ灰	暗オリー ブ灰	回転ナデ ヘラケズリ後 工具使用のナデ	回転ナデ ナデ	体部外面にヘラ記号有り ロクロ右回り 完形
第17図	34	一括	3号墓 前底部	須恵器	坏蓋	口径12.0 高さ4.0	細砂粒(多) 角閃石(少) 長石(少) 白色粒(多) 雲母(少)	良	灰オリー ープ	灰	回転ヘラケズリ後磨き 回転ナデ	回転ナデ	体部外面にヘラ記号有り ほぼ完形
第17図	35	No.131、133	3号墓 前底部	須恵器	坏蓋	口径13.3 高さ3.9	細砂粒(多) 角閃石(少) 長石(少) 白色粒(少)	良	灰	灰	回転ヘラケズリ後回転ナデ	回転ナデ ナデ	体部内面にヘラ記号有り 切り難し蓋は回転ヘラ切り後ナデ 天井部に板目正産 ほぼ完形 TK43並行期
第17図	36	No.103、一括	3号墓 前底部	須恵器	坏蓋	口径12.3 高さ4.1	細砂粒(少) 白色粒(少)	やや良	にぶい橙	にぶい赤褐	回転ヘラケズリ後回転ナデ	回転ナデ後ナデ	体部外面にヘラ記号有り 口縁部1/3程度欠損 TK209並行期 八女産?
第17図	37	No.85	3号墓 前底部	須恵器	坏蓋	口径11.2 高さ3.9	細砂粒(多)	やや良	暗赤褐	暗赤褐	回転ナデ	回転ナデ ナデ	体部外面にヘラ記号有り 外面に自然輪付着 ロクロ右回り 完形 TK209並行期
第17図	38	No.32	3号墓 前底部	須恵器	坏蓋	口径9.0 高さ3.1	細砂粒(少) 角閃石(少) 小石粒(少) 白色粒(多) 雲母(多)	良	にぶい橙	橙	回転ヘラケズリ後回転ナデ	回転ナデ後ナデ?	全体的に器面が荒れている 切り難し蓋は回転ヘラ切り後ナデ ほぼ完形 TK217並行期 No.39とセット
第17図	39	一括	3号墓 前底部	須恵器	坏身	口径(10.8) 高さ3.6	細砂粒(多) 白色粒(少) 雲母(少)	やや良	にぶい 黄緑	浅黄緑	回転ヘラケズリ後回転ナデ	回転ナデ後ナデ	口縁部1/2程度欠損 TK217並行期 No.38とセット
第17図	40	一括	3号墓 前底部	須恵器	坏蓋	口径(12.4) 高さ3.2	細砂粒(少) 白色粒(少) 緑長	良	黄灰	灰	回転ヘラケズリ後回転ナデ	回転ナデ	体部外面にヘラ記号有り 切り難し蓋は回転ヘラ切後ナデ 残存度1/2以下 TK209並行期 牛轡産?
第17図	41	一括	3号墓 前底部 6号墓 前底部	須恵器	坏蓋	口径12.3 高さ4.6	細砂粒(少) 白色粒(少)	良	灰	灰白	天井部は回転ヘラケズリ 後ナデ 回転ナデ	回転ナデ	体部外面にヘラ記号有り 切り難し蓋は回転ヘラ切後ナデ
第17図	42	No.82	3号墓 前底部	須恵器	坏身	口径10.8 高さ3.9	細砂粒(多)	やや良	灰白 灰黄	灰白 灰黄	回転ナデ ヘラケズリ	回転ナデ	ロクロ右回り ほぼ完形 口縁部打ち欠き TK43並行期
第17図	43	No.99、一括	3号墓 前底部	須恵器	坏身	口径(11.3) 高さ4.1	細砂粒(多) 白色粒(少)	良	灰黄	灰黄	回転ナデ 回転ヘラケズ リ後回転ナデ	回転ナデ ナデ	1/4程度残存 調整は丁茶 TK43並行期 No.54と同一産地?
第18図	44	No.100	3号墓 前底部	須恵器	坏身	肩部径12.6 高さ4.4	細砂粒(少) 白色粒(多)	良	楊灰	灰赤	回転ナデ 回転ヘラケズ リ後ナデ	回転ナデ	歪みがある角変部径は12.6～13.7cmとなる 口縁部は1/2体部は完全に残る TK43並行期 八女産?
第18図	45	No.124	3号墓 前底部	須恵器	坏身	口径8.4 残存高3.3+	細砂粒(多) 長石(少) 小石粒(少) 白色粒(多)	良	黄灰	暗灰黄	回転ヘラケズリ	回転ナデ	1/2以上残存 TK217並行期
第18図	46	一括	3号墓 前底部	須恵器	坏身	口径(11.6) 残存高3.3	細砂粒(多) 小石粒(多) 白色粒(多)	やや良	明緑灰	にぶい橙	回転ナデ	回転ナデ	肩部1/5程度残存 底部欠損
第18図	47	No.104、一括	3号墓 前底部	須恵器	坏身	口径(10.9) 残存高4.0+	細砂粒(多) 白色粒(多)	良	黄灰	灰	回転ナデ 回転ヘラケズ リ後回転ナデ	回転ナデ	残存度1/2以下 TK209並行期
第18図	48	一括	3号墓 前底部	須恵器	坏身	口径9.0 高さ3.0	細砂粒(少) 白色粒(多) 雲母(多)	やや良	にぶい 黄緑	橙	回転ヘラケズリ後回転ナデ	回転ナデ後ナデ	切り難し蓋は回転ヘラ切り後ナデ ほぼ完形 TK217並行期
第18図	49	一括	3号墓 前底部 4号墓 前底部	須恵器	坏身	口径11.4 残存高4.0+	細砂粒(少) 長石(少) 小石粒(少) 白色粒(多)	良	灰	灰	回転ナデ	回転ナデ ナデ	口縁部～体部1/2以上残存 TK209並行期
第18図	50	No.104、108、一括	3号墓 前底部	須恵器	坏身	口径(11.8) 高さ4.3	細砂粒(多) 長石(少) 小石粒(多) 白色粒(多)	良	灰	灰	回転ヘラケズリ後回転ナデ	回転ナデ後ナデ	切り難し蓋は回転ヘラ切り後ナデ 口縁部1/2以上欠損 TK209並行期
第18図	51	No.149	3号墓 前底部	須恵器	坏身	口径10.6 高さ3.8	細砂粒(少) 白色粒(多)	やや良	明青灰	明青灰	回転ナデ ヘラケズリ	回転ナデ ナデ	切り難し蓋は回転ヘラ切り ロクロ右回り 完形 TK209並行期
第18図	52	一括	3号墓 前底部	須恵器	坏身	口径11.7 高さ4.1	細砂粒(多) 長石(少) 白色粒(多)	良	灰	灰	回転ナデ 回転ヘラケズ リ後ナデ	回転ナデ	口縁部～体部1/2以上残存 TK209並行期
第18図	53	3号墓 前底部No.67 4号墓 前底部一括	3号墓 前底部 4号墓 前底部	須恵器	坏身	口径11.1 高さ3.6	細砂粒(多) 長石(少) 小石粒(少)	良	灰 灰白	灰	回転ヘラケズリ後回転ナデ	回転ナデ後ナデ	体部外面にヘラ記号有り 切り難し蓋は回転ヘラ切り後ナデ ほぼ完形 TK209並行期 八女産?
第18図	54	3号前底No.3、102 一括、4号前底一括	3号墓 前底部 4号墓 前底部	須恵器	坏身	肩部径13.0 残存高3.7+	細砂粒(多) 白色粒(少)	良	灰黄	灰黄	回転ナデ 回転ヘラケズ リ後ナデ	回転ナデ	体部外面にヘラ記号有り 1/2程度残存 調整は丁茶 TK43並行期 No.43と同一産地?
第18図	55	一括	3号墓 前底部	須恵器	坏身	肩部径(12.8) 残存高3.2+	細砂粒(多) 長石(少)	良	灰	灰	回転ナデ ナデ	回転ナデ ナデ	体部外面にヘラ記号有り 切り難し蓋は回転ヘラ切後ナデ 1/4程度残存 TK209並行期 八女産?
第18図	56	No.144	3号墓 前底部	須恵器	坏身	口径10.8 高さ4.5	細砂粒(多) 角閃石(少) 長石(少) 雲母(少)	良	灰オリー ープ	灰黄	回転ナデ 回転ヘラケズ リ後回転ナデ	回転ナデ	体部外面にヘラ記号と指痕正産有り 切り難し蓋は回転ヘラ切 り後ナデ 口縁部打ち欠き 完形 TK43並行期 八女産?
第18図	57	No.113、一括	3号墓 前底部	須恵器	坏身	口径10.5 高さ4.0	細砂粒(少) 白色粒(少)	良	灰	灰	回転ナデ 回転ヘラケズ リ後回転ナデ	回転ナデ ナデ	体部外面にヘラ記号有り 口縁部少し欠損完形に近い TK209並行期 八女産? 口縁部打ち欠き

第2表 土器観察表

3号墓 土器観察表

押附 番号	遺物 番号	取上番号	出土地点	器 種	器 形	法 量	胎 土	焼成	色 調		調 整		備 考	
									外面	内面	外 面	内 面		
第18図	58	一括	3号墓 前庭部	須恵器	坏身	口径10.7 器高4.0	細砂粒(多)	やや良	灰	灰	回転ナデ	ヘラケズリ	回転ナデ ナデ	体部外面へう記号有り 外面腹部付近に自然輪付着 ロクロ右回り ほぼ完形 TK209並行期 八女産？
第19図	59	No.83、101	3号墓 前庭部	須恵器	坏身	口径10.0 器高4.3	細砂粒(多) 長石(多) 雲母(少)	良	灰	灰褐色	回転ヘラケズリ後ナデ	回転ナデ後ナデ	体部外面へう記号有り 切り離し痕は回転へう切り後ナデ 外面下半に板目圧痕 ほぼ完形 TK209並行期 八女産？	
第19図	60	No.106	3号墓 前庭部	須恵器	坏身	口径10.1 器高4.8	細砂粒(多) 小石粒(少)	やや良	灰	灰赤	回転ナデ	ヘラケズリ	回転ナデ 回転ナデ後ナデ	体部外面へう記号有り ロクロ右回り 完形 TK209並行期 八女産
第19図	61	No.112	3号墓 前庭部	須恵器	坏身	口径10.5 器高4.3	細砂粒(多) 雲母(少)	やや良	青灰	青灰	回転ナデ	ヘラケズリ	回転ナデ ナデ	体部外面へう記号有り ほぼ完形 TK43並行期 在産？
第19図	62	No.125	3号墓 前庭部	須恵器	坏身	口径9.2 器高3.7	細砂粒(多) 小石粒(多)	やや良	灰 にぶい赤褐色	灰 にぶい赤褐色	回転ナデ	ヘラケズリ カキ目	回転ナデ ナデ	体部外面へう記号有り ロクロ右回り ほぼ完形 TK209並行期 八女産？
第19図	63	No.116、一括	3号墓 前庭部	須恵器	坏身	口径9.6 器高3.6	細砂粒(少) 長石(少) 小石粒(少) 白色粒(多)	良	灰黄	灰黄	回転ナデ 回転ヘラケズリ後ナデ	ナデ	体部外面へう記号有り ほぼ完形 TK209並行期 八女産？ 口縁部打ち欠き	
第19図	64	一括	3号墓 前庭部	須恵器	坏身	口径 (9.6) 器高4.5	細砂粒(多) 長石(多) 小石粒(多) 白色粒(多)	良	灰褐色	赤褐色	回転ヘラケズリ後回転ナデ	回転ナデ ナデ	体部外面へう記号有り 切り離し痕は回転へう切り後ナデ 口縁部1/3程度残存 TK43並行期 八女産	
第19図	65	No.38	3号墓 前庭部	須恵器	坏身	口径11.5 器高4.2	細砂粒(多) 長石(少) 白色粒(多)	良	灰	灰	回転ナデ		回転ナデ後ナデ	体部外面へう記号有り 切り離し痕は回転へう切り ほぼ完形 TK209並行期 口縁部打ち欠き
第19図	66	奥庭部No.61 前庭部No.71	3号墓 前庭部	須恵器	坏身	口径11.2 器高4.0	細砂粒(多) 角閃石(少) 小石粒(少) 白色粒(多)	良	明オリーブ 灰	灰白	回転ヘラケズリ後回転ナデ	回転ナデ	体部外面へう記号有り 切り離し痕は回転へう切り後ナデ ほぼ完形 TK209並行期 八女産？	
第19図	67	No.84	3号墓 前庭部	須恵器	坏身	口径10.7 器高3.9	細砂粒(多) 角閃石(少) 長石(少) 白色粒(少) 雲母(少)	良	灰	灰	回転ヘラケズリ後回転ナデ	回転ナデ ナデ	体部外面へう記号有り 切り離し痕は回転へう切り後ナデと指 押え ほぼ完形 TK209並行期	
第20図	68	一括	3号墓 前庭部	須恵器	坏身	口径10.2 器高4.0	細砂粒(多) 角閃石(少) 長石(多) 白色粒(少) 雲母(少)	良	灰白 灰 オリーブ	灰	回転ヘラケズリ後回転ナデ	回転ナデ	体部外面へう記号有り 切り離し痕は回転へう切り後ナデ ほぼ完形 TK209並行期 口縁部打ち欠き	
第20図	69	一括	3号墓 前庭部	須恵器	坏身	口径10.3 器高4.0	細砂粒(多) 長石(少) 小石粒(多) 白色粒(多)	良	褐色	褐色	回転ナデ 回転ヘラケズリ後回転ナデ	回転ナデ ナデ	体部外面へう記号有り 1/3程度欠損 TK209並行期	
第20図	70	一括	3号墓 前庭部	須恵器	坏身	口径11.5 器高3.8	細砂粒(多) 長石(少) 小石粒(少) 白色粒(多)	良	黄灰	黄灰	回転ヘラケズリ後回転ナデ	回転ナデ ナデ	体部外面へう記号有り 切り離し痕は回転へう切り後ナデ 口縁部1/3以上欠損 TK209並行期	
第20図	71	No.129	3号墓 前庭部	須恵器	坏身	口径 (14.4) 器高6.1	細砂粒(多) 白色粒(多) 雲母(多)	良	褐色	褐色	回転ナデ カキ目	回転ナデ ナデ	切り離し痕は回転へう切り後ナデ 口縁部1/2以下	
第20図	72	No.139	3号墓 前庭部	土師器	高坏	残存高2.3+	細砂粒(多) 角閃石(少) 白色粒(少) 雲母(多)	やや良	にぶい澄 赤褐色	赤褐色	ナデ	ナデ	朱塗り土器 坏部外面と脚部外面に赤彩 坏部上半と脚部のほとんどが欠損	
第20図	73	No.110、一括	3号墓 前庭部	土師器	高坏	口径 (10.8) 器高11.1 底径10.1	細砂粒(多) 長石(少) 角閃石(多) 白色粒(少) 雲母(多)	良	灰赤 明赤褐色	灰赤 灰褐色	磨き後ヨコナデ 縦方向の ヘラケズリ後ヨコナデ	磨き後ヨコナデ ヘラ ズリ後ヨコナデ	坏部1/6程度残存 脚部2/3程度残存	
第20図	74	No.98	3号墓 前庭部	須恵器	高坏	口径 (14.6) 残存高6.7+	細砂粒(多) 角閃石(少) 白色粒(少) 雲母(多)	良	褐色	褐色	回転ナデ	回転ナデ ナデ	口縁部1/4程度残存 脚部は全半欠損	
第20図	75	No.129、一括	3号墓 前庭部	土師器	高坏？	残存高4.0+ 底径8.0	細砂粒(多) 雲母(多)	良	褐色	浅黄褐色	回転ナデ	回転ナデ	脚部のみ残存 稀な蓋形	
第20図	76	No.78	3号墓 前庭部	土師器	高坏	残存高5.1+ 底径12.5	細砂粒(多) 角閃石(多) 小石粒(少) 白色粒(少) 雲母(多)	やや良	灰褐色	浅黄褐色 黒褐色	縦方向のヘラケズリ後タ ナデ ナデ	ヘラケズリ後ヨコナデ	脚部のみ残存	
第20図	77	No.124	3号墓 前庭部	土師器	高坏	残存高6.5+ 底径10.4	細砂粒(多) 角閃石(少) 雲母(多)	良	赤褐色 褐色	褐色	坏部ナデ 脚部ヘラケズ リ後ナデ	坏部ナデ 脚部ヘラケズ リ後ヨコナデ	内外面とも赤彩の痕跡が有る 口縁部欠損 底部1/5程度欠損	
第20図	78	No.43	3号墓 前庭部	須恵器	高坏	口径 (16.5) 器高16.7 底径13.8	細砂粒(多) 角閃石(少) 小石粒(多) 雲母(多)	良	褐色	黄褐色	回転ナデ カキ目	ナデ	坏部1/2程度欠損 模倣須恵器	
第21図	79	No.136、一括	3号墓 前庭部	須恵器	高坏	口径 (11.2) 器高16.0 底径10.8	細砂粒(多) 角閃石(少) 黒石粒(少)	やや良	灰	灰	回転ナデ カキ目 カキ目後回転ナデ	回転ナデ シボリ痕有り	坏部下半3箇所に透かし有り 坏部外面下方にカキ目後磨き 文を施す ロクロ右回り 坏部1/5 欠損 脚部部1/3欠損 宇城産？	
第21図	80	No.147	3号墓 前庭部	土師器	高坏	残存高7.1+ 底径10.2	細砂粒(多) 長石(多) 角閃石(多) 白色粒(少) 雲母(多)	良	褐色	浅黄褐色	縦方向のヘラケズリ後ヨ コナデ	ヘラケズリ後ナデ	坏部と脚部の内外面に赤彩、坏部欠損	
第21図	81	一括	3号墓 前庭部	土師器	高坏	残存高4.0+ 底径 (14.6)	細砂粒(多) 白色粒(多) 雲母(多)	やや良	褐色	浅黄褐色	ヨコナデ	ヘラケズリ後ヨコナデ	朱塗り土器 坏部外面に赤彩 脚部のみ残存	
第21図	82	一括	3号墓 前庭部	須恵器	高坏	口径 (10.2) 残存高5.5+	細砂粒(多) 石英(少)	良	灰	灰	回転ナデ ナデ	回転ナデ ナデ	坏部外面に回転へう切り後ナデの切り離し痕が残る ロクロ右回り 坏部のみ残存	
第21図	83	一括	3号墓 前庭部	土師器	高坏	口径 (16.7) 残存高6.0+	細砂粒(多) 雲母(多)	良	明赤褐色	明赤褐色	ヨコナデ	ヨコナデ	内外面とも赤彩	
第21図	84	No.138	3号墓 前庭部	須恵器	甕	口径 (6.2) 器高7.1 胴部径8.3	細砂粒(多) 長石(少) 白色粒(少)	良	灰	灰	回転ヘラケズリ後回転ナ デ カキ目	回転ナデ	外面胴部にへう記号有り 口縁部～頸部3/4程度欠損	
第21図	85	No.146	3号墓 前庭部	須恵器	甕	口径7.0 器高8.5	細砂粒(多)	やや良	褐色	褐色	回転ナデ	ヘラケズリ	回転ナデ	体部外面下半へう記号有り 自然輪付着 口縁部は歪 ロクロ右回り 完形
第21図	86	一括	3号墓 前庭部	土師器	甕	口径 (9.3) 残存高5.2+	細砂粒(多) 雲母(多)	良	赤褐色	褐色	ヨコナデ	ヨコナデ	外面口唇部～頸部と内面口縁部下まで赤彩 頸部～口縁部迄残存	
第21図	87	No.39	3号墓 前庭部	須恵器	平瓶	口径5.5 残存高10.2+ 胴部径 (12.4)	細砂粒(多) 角閃石(少) 小石粒(多) 白色粒(多)	良	灰	にぶい 黄褐色	回転ヘラケズリ後回転ナ デ カキ目	ヨコナデ	外面胴部にへう記号有り 底部欠損	
第21図	88	一括	3号墓 前庭部	土師器	長頸甕	口径9.0 残存高17.7+ 胴部径 (14.8)	細砂粒(多) 長石(多) 角閃石(少) 白色粒(少) 雲母(多)	良	褐色	褐色	横方向のカキ目	ヨコナデ	頸部に四条筋部と二条の沈線をもつ 口縁部1/3胴部2/3程 度欠損 高台が付く可能性が有る	
第21図	89	前庭部No.36 通路中央一括	3号墓 前庭部 通路中央	須恵器	甕	口径12.6 残存高11.0+	細砂粒(多) 長石(多) 小石粒(少)	良	にぶい褐色	にぶい褐色	回転ナデ	回転ナデ	胴部外面に指紋有り 口縁部～頸部1/3程度欠損	
第21図	90	No.79、123	3号墓 前庭部	須恵器	甕	口径 (13.5) 器高17.2	細砂粒(多)	良	灰	灰	回転ナデ	ヘラケズリ シボリ痕有り	回転ナデ シボリ痕有り	胴部一ヶ所に穿孔を施し、同じ高さの所に磨き文とその上 に沈線と並らせる ロクロ右回り 内面胴部に自然輪付着 口縁部1/3欠損
第22図	91	No.131、132	3号墓 前庭部	須恵器	坏蓋	口径8.6 器高2.8	細砂粒(多) 小石粒(多) 白色粒(多)	やや良	にぶい褐色	褐色	回転ヘラケズリ後回転ナ デ	回転ナデ後ナデ	体部外面へう記号有り 切り離し痕は回転へう切り後ナデ 完形 7世紀後半	
第22図	92	No.65	3号墓 奥庭部	須恵器	坏身	口径9.7 器高3.4	細砂粒(多) 白色粒(多)	やや良	灰	灰褐色	回転ナデ	ヘラケズリ	回転ナデ ナデ	ロクロ右回り ほぼ完形 TK217並行期
第22図	93	No.68	3号墓 奥庭部	須恵器	坏身	口径10.9 器高4.4	細砂粒(少) 小石粒(少) 白色粒(少) 緑長	不良	灰白 灰黄	灰白	回転ヘラケズリ後回転ナ デ	回転ナデ後ナデ	切り離し痕は回転へう切り後回転ナデ 調整は丁寧 ほぼ完形 TK43並行期	
第22図	94	No.64	3号墓 奥庭部	須恵器	坏身	口径10.4 器高3.6	細砂粒(多)	やや良	灰	灰	回転ナデ	ヘラケズリ	回転ナデ ナデ	体部外面へう記号有り ロクロ右回り ほぼ完形 TK43並行期
第22図	95	No.63	3号墓 奥庭部	須恵器	坏身	口径9.0 器高3.6	細砂粒(多) 小石粒(少) 白色粒(多)	良	灰赤	褐色	回転ナデ 回転ヘラケズ リ後回転ナデ	回転ナデ ナデ	体部外面へう記号有り 1/3程度欠損 TK209並行期 八女産？ 口縁部打ち欠き	
第22図	96	No.27、61、一括	3号墓 奥庭部	須恵器	坏身	口径 (10.4) 器高4.1	細砂粒(多) 角閃石(少) 小石粒(少) 白色粒(多)	良	灰褐色	黒褐色	回転ヘラケズリ後回転ナ デ	回転ナデ後ナデ	体部外面へう記号有り 切り離し痕は回転へう切り後ナ デ 全体の半半程度欠損 TK209並行期	
第22図	97	No.57	3号墓 奥庭部	須恵器	埴瓶	口径7.6 胴部径11.1 器高16.3	細砂粒(多) 小石粒(少)	良	灰	灰	回転ナデ カキ目 ケズ リ後ナデ	回転ナデ	完形	
第22図	98	No.54、一括	3号墓 奥庭部	土師器	坏身	口径 (14.2) 器高4.2	細砂粒(多) 白色粒(少) 雲母(多)	にぶい 黄褐色	にぶい褐色	にぶい褐色	ヘラケズリ後ナデ ナデ	ミガキ	口縁部～体部2/3程度欠損 6世紀後半	
第22図	99	No.56	3号墓 奥庭部	須恵器	甕	口径 (12.3) 器高15.3	細砂粒(多)	やや良	灰褐色	灰褐色	カキ目後磨き波状文 カキ目 回転ナデ	回転ナデ	胴部一ヶ所に穿孔を施し、同じ高さの所に点文とを巡らせる ロクロ右回り 口縁部1/2欠損 焼成前穿孔一つ有り 穿孔時に取れた部分が残存	
第22図	100	No.55	3号墓 奥庭部	須恵器	埴瓶	口径7.8 胴部径14.4 器高17.3	細砂粒(多) 小石粒(多)	良	灰	灰	回転ナデ カキ目	回転ナデ	外面胴部にへう記号有り 内外面に自然輪付着 完形	
第23図	101	No.127、一括	3号墓 前庭部	須恵器	甕	口径35.7 残存高15.0+	細砂粒(多) 長石(少) 赤褐色粒(多)	良	浅黄褐色	浅黄褐色	ナデ	回転ナデ ナデ	外面に磨き文と磨き波状文有り 口縁部～胴部残存 6世紀代	
第23図	102	No.130、一括	3号墓 前庭部	須恵器	甕	口径23.8 胴部径43.6 器高46.0	細砂粒(多) 長石(少) 小石粒(多) 白色粒(多)	良	灰	青灰	口縁部回転ナデ	同心円タタキ	口縁部～肩部1/3程度欠損	
第23図	103	一括	3号墓 前庭部	土師器	皿	口径 (7.4) 器高1.2 底径 (5.6)	細砂粒(多) 雲母(多)	やや良	にぶい 黄褐色	にぶい 黄褐色	回転ナデ	ナデ	底部1/4程度残存 中世	
第23図	104	一括	3号墓 前庭部	土師器	皿	口径 (8.5) 器高1.4 底径 (7.3)	細砂粒(多) 雲母(多)	やや良	にぶい 黄褐色	にぶい 黄褐色	回転ナデ	ナデ	口縁部1/4以下 中世	
第23図	105	一括	3号墓 前庭部	土師器	皿	口径 (7.6) 器高1.3 底径 (7.4)	細砂粒(多) 雲母(多)	やや良	にぶい 黄褐色	にぶい 黄褐色	回転ナデ	ナデ	底部1/4程度残存 中世	
第23図	106	一括	3号墓 前庭部	土師器	皿？	残存高11+ 底径 (9.0)	細砂粒(多) 雲母(多)	不良	にぶい 黄褐色	浅黄褐色	ヨコナデ	ナデ	口縁部欠損 残存度1/2以下 中世	
第23図	107	No.8、9、一括	3号墓 通路	須恵器	高台付甕	口径12.8 器高7.2 高台径 (7.6)	細砂粒(多) 角閃石(少) 白色粒(少)	良	にぶい 黄褐色	にぶい 黄褐色	回転ナデ	回転ナデ	高台内の切り離し痕は回転へう切り後ナデ 口縁部1/3程度欠損 高台部1/6程度残存 9世紀？	
第23図	108	一括	3号墓 前庭部	土師器	坏？	残存高11.6+ 底径9.0	細砂粒(多) 角閃石(多) 白色粒(少) 雲母(多)	やや良	浅黄褐色	浅黄褐色	回転ナデ	ヨコナデ ナデ	口縁部欠損 体部下半～底部迄残存 切り離し痕は回転系 外面底部に板目圧痕有り 中世	
第23図	109	一括	3号墓 前庭部	土師器	皿	口径 (15.6) 器高2.6 底径 (12.9)	細砂粒(多) 白色粒(少) 雲母(多)	不良	浅黄褐色	浅黄褐色	ヨコナデ	ナデ	底部1/5程度残存 中世	

5号墓 土器観察表

図面 番号	遺物 番号	取上番号	出土地点	器 種	器 形	法 量	胎 土	焼成	色 調		調 整		備 考	
									外面	内面	外 面	内 面		
第28図	1	No.60、一括	5号墓 前庭部	須恵器	坏蓋	口径11.6 器高4.1	細砂粒(多) 小石粒(少)	良	灰白色	灰白色	回転ナデ	天井部ナデ後ヘラケズリ	回転ナデ ナデ	ロクロ右回り ほぼ完形 TK43並行期
第28図	2	No.48	5号墓 前庭部	須恵器	坏蓋	口径13.4 器高4.0	細砂粒(多)	やや良	灰白	灰白	回転ナデ	ヘラケズリ	回転ナデ ナデ	ロクロ右回り 完形 TK43並行期
第28図	3	No.92	5号墓 前庭部	須恵器	坏蓋	口径14.6 器高4.9	細砂粒(多) 雲母(少)	やや良	灰白	灰白	回転ナデ	ヘラケズリ	回転ナデ ナデ	ロクロ右回り ほぼ完形 TK43並行期
第28図	4	No.50、56、一括	5号墓 前庭部	須恵器	坏蓋	口径 (14.0) 器高5.6	細砂粒(多) 白色粒(少)	良	灰白	灰白	回転ヘラケズリ後回転ナ デ	回転ナデ ナデ	切り離し痕は回転へう切り ロクロ右回り 口縁部1/2以下 底部1/3程度欠損 TK43並行期	

第2表 土器観察表

5号墓 土器観察表

調査 番号	遺物 番号	取上番号	出土地点	器 種	器 形	法 量	胎 土	焼成	色 調				備 考
									外面	内面	外 面	内 面	
第28図	5	No.50	5号墓 前底部	須恵器	坏蓋	口径12.2 蓋高4.5	細砂粒(多) 緑長	やや 良	灰白	灰白	回転ナデ	回転ナデ ナデ	体外外面にヘラ記号有り ロクロ右回り ほぼ完形 TK43並行期
第28図	6	No.28、51、56 82、一括	5号墓 前底部	須恵器	坏蓋	口径13.8 蓋高4.5	細砂粒(多) 白色小石(多)	良	赤褐	赤褐	回転ナデ 天井部回転ナ デ後ヘラケズリ	回転ナデ	体外外面にヘラ記号有り ロクロ右回り ほぼ完形 MT85並行期
第28図	7	No.58、一括	5号墓 前底部	須恵器	坏蓋	口径11.2 蓋高3.8	白色細砂粒(多) 白色小石(少)	良	灰	灰	回転ナデ 天井部ヘラケズリ	回転ナデ ナデ	体外外面にヘラ記号有り ロクロ左回り 口縁部1/6程度欠損 TK217並行期
第28図	8	No.57	5号墓 前底部	須恵器	坏身	口径11.3 蓋高4.5	細砂粒(多) 小石粒(多)	やや 良	にぶい 赤褐	にぶい 赤褐	回転ナデ ヘラケズリ後 ナデ ヘラケズリ	回転ナデ ナデ	ロクロ右回り ほぼ完形 TK43並行期
第28図	9	No.26	5号墓 前底部	須恵器	坏身	口径11.9 蓋高4.9	細砂粒(多)	やや 良	灰白	灰白	回転ナデ ヘラケズリ	回転ナデ ナデ	ロクロ右回り 完形 TK43並行期
第28図	10	No.60	5号墓 前底部	須恵器	坏身	口径(11.8) 残存高3.0+	細砂粒(多)	良	灰 褐灰	灰	回転ナデ	回転ナデ	口縁部1/3以下 八女産?
第28図	11	No.27	5号墓 前底部	須恵器	坏身	口径10.7 蓋高4.2	細砂粒(多)	やや 良	褐赤褐	褐赤褐	回転ナデ ヘラケズリ	回転ナデ ナデ	体外外面にヘラ記号有り 体外外面に自然釉付着 ロクロ右回り 完形 TK43並行期 八女産
第28図	12	No.52	5号墓 前底部	土師器	坏身	口径(13.0) 蓋高3.3	細砂粒(多) 雲母(少)	良	にぶい 黄褐	にぶい 黄褐	蓋面充充の為詳細は不明 口縁部は回転ナデ	回転ナデ ナデ 蓋面が充れ	残存度1/2
第28図	13	No.58	5号墓 前底部	土師器	坏身	口径(12.6) 残存高5.3+	細砂粒(多)	やや 良	明赤褐 浅黄褐	明赤褐 浅黄褐	横方向の磨き	横方向の磨き	内外面とも赤影 口縁部1/2以下
第28図	14	No.22、50、一括	5号墓 前底部	土師器	坏身	口径11.8 蓋高3.8	細砂粒(多) 白色粒(少) 雲母(少)	良	浅黄	浅黄褐	ヨコナデ ヘラケズリ後 ナデ	ヨコナデ ナデ	内外面に僅かに黒ウシ塗布の痕跡有り 口縁部1/4程度欠損
第28図	15	No.93	5号墓 前底部	土師器	坏身	口径12.6 蓋高4.6	細砂粒(多) 長石(少) 白色粒(多) 雲母(多)	良	にぶい 黄褐	黒 黒	手持ちヘラケズリ後不定 方向のナデ	ヨコナデ 不定方向のナ デ	内外面に黒ウシ塗布の痕跡有り 内面にヘラ記号有り 完形
第29図	16	No.55	5号墓 前底部	須恵器	高坏	口径(9.4) 残存高6.2+	細砂粒(多) 雲母(少)	良	灰白色	灰白色	回転ナデ	回転ナデ シボリ痕有り	胴部に透かし有り 外面に一条の沈線をはらせる ロクロ右回り 坏部欠損 胴部1/2残存
第29図	17	No.25、一括	5号墓 前底部	須恵器	高坏	残存高9.9+	細砂粒(多) 白色粒(多)	良	浅黄褐	浅黄褐	回転ナデ カキ目 シボリ痕有り	回転ナデ シボリ痕有り	坏部上半欠損 底部欠損
第29図	18	No.23	5号墓 前底部	土師器	台付小型壺	口径4.5 器高8.8 底径7.3	細砂粒(多) 褐色粒(少) 雲母(少)	やや 良	浅黄褐 明赤褐	浅黄褐	手持ちヘラケズリ後ナデ 縦方向のケズリ後ナデ	ナデ 胴部にシボリ痕が有る	外面に赤影の痕跡が有る ほぼ完形
第29図	19	No.24、一括	5号墓 前底部	土師器	短頸壺	口径10.6 胴部径14.5 器高12.2	細砂粒(多) 黒褐色粒(多) 雲母(多)	良	黄褐	黄褐	ミガキ 手持ちヘラケズ リ後磨き カキ目	磨き ナデ	外面と口縁部内面に化粧土塗布 ほぼ完形
第29図	20	No.59、一括	5号墓 前底部	須恵器	甕	口径(20.2) 胴部径39.3 器高42.5	細砂粒(少) 白色粒(多)	良	灰白 褐灰	灰	ナデ 平行タタキ	平行タタキ後丁寧ナデ	口縁部1/2程度欠損
第30図	21	No.64、65、一括	5号墓 前底部	須恵器	坏蓋	口径14.2 蓋高4.7	細砂粒(多) 小石粒(多) 角閃 石(少) 白色粒(多) 雲母(多)	良	褐灰	灰黄	回転ヘラケズリ後回転ナ デ	回転ナデ	口縁部1/2程度残存 体部はほぼ残存 内面に化粧土塗布の痕跡が有る
第30図	22	No.31	5号墓 前底部	須恵器	坏身	口径12.1 蓋高3.9	細砂粒(多)	良	灰白 黄褐	灰白 黄褐	回転ナデ ヘラケズリ	回転ナデ ナデ	体外外面にヘラ記号有り ロクロ右回り ほぼ完形 TK43並行期 八女産?
第30図	23	No.33、一括	5号墓 前底部	須恵器	坏蓋	口径12.2 蓋高3.6	細砂粒(多) 白色小石(少)	良	にぶい 赤褐	にぶい 赤褐	天井部回転ヘラケズリ	回転ナデ ナデ	体外外面にヘラ記号有り ロクロ右回り ほぼ完形 TK43並行期-TK209並行期 八女産?
第30図	24	No.95	5号墓 前底部	須恵器	坏身	口径12.2 蓋高4.4	細砂粒(多)	やや 良	灰白	灰白	回転ナデ ヘラケズリ	回転ナデ ナデ	ロクロ右回り 口縁部一部欠 損TK43並行期 口縁部打ち欠き
第30図	25	No.29	5号墓 前底部	須恵器	坏身	口径12.0 蓋高4.7	細砂粒(多) 角閃石(少) 雲母(少)	不良	灰白	灰白	回転ナデ ヘラケズリ	回転ナデ ナデ	ロクロ右回り 口縁部一部欠 損TK43並行期-TK209並行期
第30図	26	No.94	5号墓 前底部	須恵器	坏身	口径12.5 蓋高5.9	細砂粒(多)	やや 良	灰白	にぶい 黄褐	回転ナデ ヘラケズリ	回転ナデ	ロクロ右回り、ケズリ時は左回り ほぼ完形 MT85並行期
第30図	27	No.32	5号墓 前底部	須恵器	坏蓋	口径10.5 蓋高4.0	細砂粒(多) 小石粒(多)	やや 良	青灰	青灰	回転ナデ ヘラケズリ	回転ナデ ナデ	体外外面にヘラ記号有り ロクロ右回り ほぼ完形 TK43並行期-TK209並行期
第30図	28	No.30	5号墓 前底部	須恵器	坏身	口径11.0 蓋高4.9	細砂粒(多)	やや 良	灰白	灰白	回転ナデ ヘラケズリ	回転ナデ ナデ	体外外面にヘラ記号有り ロクロ右回り ほぼ完形 TK43並行期 八女産
第30図	29	No.66	5号墓 前底部	須恵器	甕	口径10.6 蓋高5.9	細砂粒(多)	やや 良	灰白	灰白	回転ナデ ヘラケズリ	回転ナデ ナデ	ロクロ右回り 1/4程度欠損 TK43並行期?
第30図	30	No.67、68、69、70 一括	5号墓 前底部	須恵器	高坏	口径15.0 器高13.1 底径10.2	細砂粒(多) 小石粒(多) 白色粒(少) 雲母(多)	良	黄褐	黄褐	回転ナデ 坏部下位カキ 目痕シボリ痕有り	回転ナデ ナデ シボリ痕有り	口縁部1/4以上欠損 胴部1/4程度欠損
第30図	31	No.69、一括	5号墓 前底部	須恵器	横瓶	口径12.8 胴部径(31.8) 器高28.7	細砂粒(多) 角閃石(多) 白色粒(少)	良	灰白	灰黄	口縁部は回転ナデ 体部は平行タタキ後ナデ	同心円タタキ	胴部外面にヘラ記号有り 胴部1/2程度欠損 TK43並行期-TK209並行期
第30図	32	No.68、一括	5号墓 前底部	土師器	高坏	口径15.4 残存高9.8+	細砂粒(多) 長石(少) 白色粒(少) 雲母(多)	やや 良	浅黄褐	浅黄褐	タタナデ後ナデ	タタナデ後ナデ	坏部欠損 胴部1/10程度欠損 外面に赤影の痕跡がわずかに残る
第31図	33	No.45、一括	5号墓 前底部	須恵器	坏蓋	口径14.9 蓋高5.5	細砂粒(多) 小石粒(少) 白色粒(多)	良	灰黄褐	灰黄褐	回転ヘラケズリ後回転ナ デ	回転ナデ	切り離し痕は回転ヘラ切り ほぼ完形 TK43並行期 八女産
第31図	34	No.43	5号墓 前底部	須恵器	坏蓋	口径12.6 蓋高4.5	細砂粒(多)	やや 良	灰白 褐灰	灰白 褐灰	回転ナデ ヘラケズリ	回転ナデ ナデ	体外外面にヘラ記号有り ロクロ右回り ほぼ完形 TK43並行期?
第31図	35	No.44	5号墓 前底部	須恵器	坏身	口径10.5 蓋高3.9	細砂粒(多) 角閃石(少)	やや 良	にぶい 黄褐	黒褐	回転ナデ ヘラケズリ	回転ナデ ナデ	体外外面にヘラ記号有り ロクロ右回り ほぼ完形 TK43並行期
第31図	36	No.39、42	5号墓 前底部	須恵器	甕	口径(21.2) 残存高5.1+	細砂粒(多) 白色粒(多)	良	灰	灰	回転ナデ	回転ナデ	口縁部1/2以下 胴部以下欠損
第31図	37	No.45、一括	5号墓 前底部	須恵器	壺?	残存高3.8+	細砂粒(多) 白色粒(多)	良	褐青灰 褐灰	褐灰	回転ヘラケズリ後回転ナ デ	回転ナデ	底部付近残存
第31図	38	No.74、一括	5号墓 前底部	土師器	高坏	口径(13.7) 残存高7.1+	細砂粒(多) 白色粒(少) 雲母(多)	良	明赤褐 浅黄褐	黄褐	横方向のヘラケズリ後ヨ コナデ	ヘラケズリ後ヨコナデ ヘラ状工具の痕跡	外面に赤影 坏部欠損
第31図	39	No.74、一括	5号墓 前底部	土師器	高坏	口径13.0 残存高7.1+	細砂粒(多) 白色粒(多)	やや 良	にぶい 黄褐 黒褐	灰褐 黒褐 浅黄褐	ヨコナデ ヘラケズリ後 ナデ	ヨコナデ ヘラケズリ後 ナデ	外面に黒ウシ塗布の痕跡有り 坏部欠損 底部1/5程度欠損
第31図	40	No.74一括	5号墓 前底部	土師器	高坏	口径16.2 器高13.0 底径15.2	細砂粒(多) 長石(少) 雲母(多)	やや 良	明赤褐	浅黄褐	手持ちヘラケズリ後ナデ 縦方向のケズリ後ナデ	坏部ミガキ 胴部ケズリ後ナデ	坏部内外面に赤影 2/3以上残存
第31図	41	No.98	5号墓 前底部	須恵器	甕	口径12.2 器高13.6	細砂粒(多) 小石粒(少)	良	褐青灰	褐青灰	回転ナデ カキ目 ケズリ	回転ナデ カキ目 押えた痕有り	胴部に柳掻き波状文 胴部にカキ目後烈点文をはらせる 口にヘラ所穿孔を施す ロクロ左回り 口縁部1/2欠損 TK43並行期
第31図	42	No.96	5号墓 前底部	須恵器	甕	口径13.3 器高15.5	細砂粒(少) 小石粒(少)	良	褐灰	褐灰	回転ナデ カキ目 ケズリ後ナデ	回転ナデ	胴部に二条の沈線をはらせる 胴部の一ヶ所に穿孔を施しその 上に刻点文をはらせる ロクロ右回り 体部1/3欠損 TK43並行期 八女産
第31図	43	No.97	5号墓 前底部	須恵器	甕	口径12.4 器高17.3	細砂粒(多)	良	灰	灰	胴部は自然釉付着の為調 整不明瞭 ヘラケズリ	胴部は自然釉付着の為調 整不明瞭	胴部外面にヘラ記号有り 胴部の一ヶ所に穿孔を施す 胴部に柳掻き波状文 胴部に柳掻き文と沈線をはらせる ロクロ右回り 内外面に自然釉付着 口縁部の残存僅か TK43並行期 宇城産?
第31図	44	No.73	5号墓 前底部	須恵器	甕	口径12.4 器高14.8	細砂粒(多) 黒色粒(少) 赤褐色粒(少)	良	灰	灰	回転ナデ ヘラケズリ カキ目	回転ナデ	底部外面にヘラ記号有り 胴部の一ヶ所に穿孔を施す 胴部に柳掻き波状文 胴部に柳掻き点点文を施す ロクロ右回り 口縁部1/3欠損 TK43並行期
第32図	45	No.89、一括	5号墓 前底部	須恵器	坏蓋	口径12.8 蓋高3.8	白色細砂粒(多) 白色小石(多)	良	灰	灰	回転ナデ	回転ナデ ナデ	ロクロ左回り ほぼ完形 TK43並行期
第32図	46	No.81、一括	5号墓 前底部	須恵器	坏蓋	口径13.4 蓋高3.8	細砂粒(多) 白色小石(少)	良	灰白色	灰白色	回転ナデ 天井部ヘラケズリ	回転ナデ	ロクロ左回り 口縁部僅かに欠損 TK43並行期 牛嶺産?
第32図	47	一括	5号墓 前底部	須恵器	坏蓋	口径(13.6) 残存高3.4+	細砂粒(多)	良	灰白	灰	回転ナデ	回転ナデ ヨコナデ	天井部欠損 口縁部1/5程度残存 ロクロ右回り
第32図	48	一括	5号墓 前底部	須恵器	坏蓋	口径(14.2) 蓋高4.2	細砂粒(多) 雲母(多) 緑長	良	灰白	灰白	回転ヘラケズリ後回転ナ デ	回転ナデ ナデ	残存度1/2以下 TK43並行期
第32図	49	一括	5号墓 前底部	須恵器	坏蓋	口径12.4 蓋高3.3	白色細砂粒(多) 小石粒(少)	良	にぶい 赤褐	褐赤褐	回転ナデ 天井部ナデ後ヘラケズリ	回転ナデ	体外外面にヘラ記号有り ロクロ右回り 1/2程度欠損 TK209並行期?
第32図	50	一括	5号墓 前底部	須恵器	坏蓋	口径12.2 蓋高3.9	細砂粒(多) 白色小石(少)	良	灰	灰	回転ナデ 天井部回転ヘラケズリ	回転ナデ ナデ	体外外面にヘラ記号有り ロクロ右回 口縁部1/3程度欠損 TK209並行期
第32図	51	一括	5号墓 前底部	須恵器	坏身	受部径(13.6) 底径7.4	細砂粒(多)	良	浅黄褐	にぶい 黄褐	回転ナデ	回転ナデ	口縁部欠損 内外面に赤影の痕跡が有る 残存度1/3
第32図	52	No.74、78、一括	5号墓 前底部	須恵器	坏蓋	口径14.0 蓋高5.4	細砂粒(多) 小石粒(少)	良	黄褐	黄褐	回転ナデ	回転ナデ ナデ	体外外面にヘラ記号有り ロクロ左回り 口縁部と天井部一部欠損
第32図	53	No.80、一括	5号墓 前底部	須恵器	坏蓋	口径13.0 蓋高4.2	細砂粒(多) 白色小石(多)	良	灰	灰	回転ナデ 天井部ヘラケズリ	回転ナデとナデ	内面にヘラ記号有り ロクロ右回り ほぼ完形 TK43並行期 牛嶺産?
第32図	54	No.63	5号墓 前底部	土師器	坏蓋	口径14.0 蓋高4.1	細砂粒(多) 長石(少) 小石粒 (少) 白色粒(少) 雲母(多)	良	にぶい 黄褐	にぶい 黄褐	ヨコナデ ナデ	ヨコナデ ナデ	内外面とも黒ウシ塗布の痕跡が有る 口縁部の一部欠損 内面にヘラ記号有り
第32図	55	No.一括	5号墓 前底部	須恵器	坏身	口径12.0 器高4.0 底径5.8	細砂粒(多) 白色小石(多)	良	灰	灰	回転ナデ ヘラケズリ	回転ナデ ナデ	白色小石を多量含む ロクロ左回り 口縁部1/2程度欠損 TK43並行期
第32図	56	No.76	5号墓 前底部	須恵器	坏身	口径11.4 蓋高4.6	細砂粒(多)	やや 良	灰白	灰白	回転ナデ ヘラケズリ	回転ナデ ナデ	底部付近に黒く自然釉付着 ロクロ右回り 完形 TK43並行期
第32図	57	No.59	5号墓 前底部	須恵器	坏身	口径(10.8) 蓋高4.1	細砂粒(多) 白色小石(多)	良	灰	灰	回転ナデ 回転ヘラケズリ	回転ナデ ナデ	ロクロ右回り 1/2程度残存 TK43並行期-TK209並行期
第33図	58	No.56	5号墓 前底部	須恵器	坏身	口径9.7 蓋高4.0	細砂粒(多)	やや 良	灰白	灰白	回転ナデ ヘラケズリ	回転ナデ ナデ	体外外面にヘラ記号有り ロクロ右回り 口縁部打ち欠き ほぼ完形 TK43並行期 八女産?
第33図	59	No.70	5号墓 前底部	須恵器	坏身	口径10.4 蓋高4.0	細砂粒(多)	やや 良	灰白	褐褐赤褐	回転ナデ ヘラケズリ	回転ナデ ナデ	体外外面にヘラ記号有り ロクロ右回り 完形 TK209並行期
第33図	60	No.88	5号墓 前底部	須恵器	坏身	口径9.2 蓋高3.3	細砂粒(多) 角閃石(少)	やや 良	黄褐	黄褐 黒褐	回転ナデ	回転ナデ ナデ	体外外面にヘラ記号有り 切り離し痕は回転ヘラ切り ほぼ完形 TK209並行期
第33図	61	No.47	5号墓 前底部	須恵器	坏身	口径10.0 器高3.1 底径7.4	細砂粒(多) 白色小石(少)	良	明緑灰	明緑灰	回転ナデ	回転ナデ	体外外面にヘラ記号有り 切り離し痕は回転ヘラ切り ロクロ右回り 1/3程度欠損 TK217並行期
第33図	62	No.87、一括	5号墓 前底部	須恵器	坏身	口径(10.4) 残存高3.4+	細砂粒(多) 長石(少) 小石粒(少) 白色粒(少)	良	灰	灰	回転ナデ 回転ヘラケズ リ後ナデ	回転ナデ ナデ	体外外面にヘラ記号有り 1/2以下 TK217並行期

第2表 土器観察表

5号基 土器観察表

神岡 番号	遺物 番号	取上番号	出土地点	器 種	器 形	法 量	胎 土	焼成	色 調		調 整		備 考
									外面	内面	外 面	内 面	
第33図	63	一括	5号基 前底部	須恵器	坏身	口径(9.4) 残存高3.2+	細砂粒(多) 白色粒(多)	良	オリーブ 灰	にぶい 黄	回転ナデ	回転ナデ	体部外面にへう記号有り 口縁部1/4程度残存 TK43並行期→TK209並行期 八女産?
第33図	64	No.22、一括	5号基 前底部	須恵器	坏身	口径10.8 底高4.1	細砂粒(多)	良	灰白色	灰白色	回転ナデ 回転ナデ後磨き	回転ナデ ナデ	体部外面にへう記号有り ロクロ右回り 1/4程度残存 TK43並行期 八女産?
第33図	65	No.50	5号基 前底部	須恵器	坏身	口径10.6 底高4.8	細砂粒(多) 小石粒(多)	良	灰白色	明緑灰	回転ナデ後磨き	回転ナデ	体部外面にへう記号有り ロクロ右回り ほぼ完形 TK43並行期→TK209並行期 八女産?
第33図	66	No.41、一括	5号基 前底部	須恵器	坏身	口径11.4 底高4.9	細砂粒(多)	良	灰白色	灰白色	回転ナデ 回転ナデ後へうケズリ	回転ナデ ナデ	体部外面にへう記号有り ロクロ右回り 口縁部1/5程度欠損 TK43並行期 八女産?
第34図	67	一括	5号基 前底部	須恵器	坏身	口径(11.4) 底高3.8	細砂粒(多) 石灰(少) 雲母(少)	良	灰	灰	回転ナデ 回転ヘラケズリ	回転ナデ	口クロ右回り 体部外面にへう記号有り 口縁部1/7残存
第34図	68	一括	5号基 前底部	須恵器	坏身	口径(11.0) 底高4.6	細砂粒(多) 長石(少) 雲母(少)	良	淡黄緑	淡黄緑	回転ナデ ナデ	回転ナデ ナデ	切り離し痕は回転ヘラ切り後ナデ ロクロ右回り 内面に割離部分有り 残存度1/3
第34図	69	一括	5号基 前底部	土師器	坏身	口径(12.0) 残存高3.4+	細砂粒(多) 石灰(少) 雲母(少)	良	にぶい 黄 明赤褐	にぶい 黄 明赤褐	回転ナデ	回転ナデ	内外面に赤彩 調整は内外面とも器面荒れの為不明瞭 底部欠損 残存度1/3
第34図	70	一括	5号基 前底部	土師器	坏身	口径11.4 底高4.7	細砂粒(多) 白色粒(少) 雲母(少)	やや 良	にぶい 黄 褐 灰	にぶい 黄 褐 黒	回転ナデ ヘラケズリ後 ナデ	回転ナデ ナデ	内面～外面口縁部に黒ウツシ塗布の痕跡有り 口縁部1/2程度欠損
第34図	71	No.52、一括	5号基 前底部	土師器	坏身	口径11.5 底高4.6	細砂粒(多) 白色粒(少) 雲母(少)	やや 良	黄灰 黒	黄灰 黄灰	回転ナデ ヘラケズリ後 ナデ	回転ナデ ナデ	内面口縁部～外面に黒ウツシ塗布の痕跡有り 底部～底部1/2以上残存
第34図	72	No.88	5号基 前底部	土師器	坏身	口径(10.8) 底高4.5	細砂粒(多) 白色粒(多) 雲母(多)	良	褐灰	にぶい 黄	回転ナデ 回転ヘラケズ リ後ナデ	回転ナデ ナデ後磨き	内外面とも黒ウツシ塗布の土器 口縁部1/2程度欠損
第34図	73	No.62、一括	5号基 前底部	土師器	坏身	残存高4.5+	細砂粒(多) 石灰(少) 雲母(少)	良	にぶい 黄	にぶい 黄	回転ナデ ナデ	ナデ	口縁部～底部破片
第34図	74	一括	5号基 前底部	土師器	坏身	口径(12.4) 底高3.8	細砂粒(多)	やや 良	褐灰 黒褐	黒褐	磨き ヘラケズリ後ナデ	磨き	内面にへう記号有り 内面～外面口縁部に黒ウツシ塗布の痕跡 有り 残存度1/5以下
第34図	75	No.59、60、一括	5号基 前底部	須恵器	高坏	口径13.4 底径11.0 底高15.4	細砂粒(多)	良	灰白	灰白	回転ナデ カキ目	回転ナデ ナデ	胴部の三ヶ所に二段透かしを有する 坏部に沈線胴部に凹線 二条を巡らせる ロクロ右回り 口縁部1/2欠損 胴部胴の一部欠損 坏部外面に透かしを開け た際の工具痕が残る TK43並行期
第34図	76	一括	5号基 前底部	須恵器	鉢	口径(10.0) 残存高3.3+	細砂粒(多) 白色粒(多)	良	灰白	灰白	回転ナデ	回転ナデ	外面口縁部に二条の沈線を送らせる 頸部以下欠損
第34図	77	No.46	5号基 前底部	須恵器	高坏	口径(11.4) 残存高4.5+	細砂粒(多) 白色粒(多) 角閃石(少)	良	にぶい 黄	にぶい 黄	回転ナデ カキ目	回転ナデ	体部外面下に二条の凸帯を送らせる
第34図	78	No.37	5号基 前底部	土師器	高坏	口径(14.6) 残存高6.9+	細砂粒(多) 石灰(少) 雲母(少)	良	黄緑 明赤褐	緑 明赤褐	器面荒れの為詳細は不明 回転ナデのヶ所有り	器面荒れの為詳細は不明 残存度1/4	内外面ともに赤彩?
第34図	79	一括	5号基 前底部	土師器	高坏	底径(12.8) 残存高4.4+	細砂粒(多) 小石粒(多) 角閃 石(多) 白色粒(少) 雲母(多)	やや 良	淡黄緑	淡黄緑	回転ナデ	回転ナデ ヨコナデ	胴部のみ残存 底部1/2以下 化粧土塗布の痕跡が有る
第34図	80	一括	5号基 前底部	土師器	高坏	底径21.0 残存高14.0+	細砂粒(多) 白色粒(多) 雲母(多)	良	にぶい 黄 黒	にぶい 黄 黒	ヘラケズリ後縦方向の磨 き後ナデ	ヘラケズリ後ヨコナデ タナナデ シボリ磨有り	胴部内外面に黒ウツシ塗布の痕跡有り 底部欠損
第35図	81	一括	5号基 前底部	須恵器	短頸壺	口径5.8 残存高6.6+ 胴部径(11.5)	細砂粒(多)	良	灰	灰	回転ナデ カキ目 ケズリ後ナデ	回転ナデ	体部外面にへう記号有り ロクロ右回り 1/2程度残存
第35図	82	一括	4号基 前底部 5号基 前底部	須恵器	鉢	胴部径5.6 残存高6.4+	細砂粒(多) 白色粒(多)	良	灰 緑灰	緑灰	回転ナデ	回転ナデ シボリ磨有り	胴部のみ残存 口縁部欠損 外面に磨き文 中位に二条の 沈線を送らせる
第35図	83	一括	5号基 前底部	須恵器	壺	口径(21.0) 残存高12.8+	細砂粒(多) 長石(多) 小石粒(多)	良	灰白	灰白	カキ目	回転ナデ	体部外面に二条の凹い凸帯を送らせる 外面に磨き文 口縁部1/2以下 体部欠損
第35図	84	No.90	5号基 前底部	須恵器	壺	残存高6.2+	細砂粒(多) 長石(少) 雲母(少)	良	灰	灰	ナデ	回転ナデ	外面に磨き文波状文を施す 口縁部部に自然輪 付着 口縁部破片
第35図	85	一括	5号基 前底部	須恵器	壺	胴部(16.2) 残存高12.5+	細砂粒(多) 長石(少) 雲母(少)	良	灰白色	灰白色	回転ナデ ナデ カキ目 タタキ後カキ目	回転ナデ 当て具磨有り	胴部外面に磨き文波状文有り 口縁部～胴部1/4残存 口唇部欠損
第35図	86	一括	5号基 前底部	土師器	蓋	口径36.0 底高4.0	細砂粒(多)	良	褐灰 にぶい 黄	褐灰 にぶい 黄	ナデ	ナデ	直径36 cmの用途不明の土蓋 蓋として使用か 外形1/2以上残存 天井部剥離
第35図	87	一括	5号基 前底部	土師器	小型壺	口径(4.0) 残存高4.7+ 胴部径(6.4)	細砂粒(多)	やや 良	淡黄緑	淡黄緑	ヨコナデ ヘラケズリ後 ナデ	ヨコナデ ナデ	胴台付の可能性有り 底部欠損
第35図	88	一括	5号基 前底部	土師器	皿	口径7.7 底高1.4 底径6.2	細砂粒(多) 角閃石(多) 白色粒(多) 雲母(多)	やや 良	緑	緑	回転ナデ	回転ナデ ナデ	切り離し痕は回転糸切り 口縁部2/3程度欠損 中世
第35図	89	一括	5号基 前底部	土師器	皿	口径(8.8) 底高1.4 底径(7.6)	細砂粒(多) 角閃石(多) 雲母(多)	やや 良	にぶい 黄	にぶい 黄	回転ナデ	回転ナデ	切り離し痕は回転糸切り 残存度1/4以下 中世

6号基 土器観察表

神岡 番号	遺物 番号	取上番号	出土地点	器 種	器 形	法 量	胎 土	焼成	色 調		調 整		備 考
									外面	内面	外 面	内 面	
第39図	1	No.9	6号基 前底部	須恵器	坏蓋	口径12.3 底高3.8	細砂粒(多) 長石(少) 白色粒(少)	良	にぶい 黄	にぶい 黄	回転ヘラケズリ後回転ナ デ	回転ナデ	体部外面にへう記号有り 3/4程度残存 TK209並行期? 八女産?
第39図	2	No.5	6号基 前底部	須恵器	坏身	口径10.4 底高4.6	細砂粒(多) 小石粒(少) 白色粒(少)	良	灰	灰	回転ヘラケズリ後回転ナ デ	回転ナデ ナデ	体部外面にへう記号有り ロクロ右回り 3/4程度残存 TK43並行期 八女産?
第39図	3	No.6	6号基 前底部	須恵器	高坏	口径16.4 底高11.6 底径10.5	細砂粒(少)	やや 良	灰	灰	回転ナデ カキ目後回転 ナデ	回転ナデ ナデ	坏部外面に凹条、胴部外面に三条の沈線を送らせる 数ヶ所に自然輪付着 ロクロ左回り 坏部1/2割端部1/4欠損
第39図	4	No.3、一括	6号基 前底部	土師器	坏身	底高4.8	細砂粒(多) 長石(少) 白色粒(少)	良	にぶい 黄	にぶい 黄	ヘラケズリ後ナデ	ナデ 磨き	No.5、6と同地点から出土 残存度1/6以下
第39図	5	No.3	6号基 前底部	土師器	坏身	口径(12.6) 底高5.5	細砂粒(多) 角閃石(少) 白色粒(少) 雲母(多)	良	褐灰 にぶい 黄	にぶい 黄	回転ナデ 磨き後ナデ	回転ナデ後磨き	No.6と同地点から出土 残存度1/2以下
第39図	6	No.3	6号基 前底部	土師器	坏身	口径(12.8) 底高4.8	細砂粒(多) 雲母(多)	良	にぶい 黄 褐灰	にぶい 黄	回転ナデ後磨き後ナデ	磨き後ナデ	No.5と同地点から出土 残存度1/3以下
第39図	7	No.20、21、一括	6号基 前底部	須恵器	壺	口径13.2 胴部径19.8 底高17.4	細砂粒(少)	やや 良	緑黒	緑黒	回転ナデ カキ目	タタキ後部分的にナデ ハケ目後ナデ	胴部にへう記号有り ロクロ右回り 胴部～胴部上半1/4欠損
第39図	8	No.41、42、43	6号基 前底部	須恵器	壺	口径12.2 胴部径19.9 残存高18.3+	細砂粒(少)	やや 良	青黒	青黒	回転ナデ カキ目 ハケ目後ナデ	回転ナデ タタキ ナデ	胴部外面にへう記号有り 口縁部～胴部上半に自然輪付着 ロクロ右回り 胴部～底部1/2欠損
第39図	9	No.27、一括	6号基 前底部	須恵器	高坏	口径9.8 底高9.3 底径7.8	細砂粒(多) 黒色粒(多)	不良	灰白	灰白	回転ナデ	回転ナデ	坏部1/2残存
第39図	10	No.27	6号基 前底部	須恵器	鉢	残存高4.3+	細砂粒(多) 小石粒(少)	不良	灰白	灰白	回転ナデ カキ目	回転ナデ	胴部外面に磨き文波状文と二条の沈線を送らせる 頸部のみ残存
第39図	11	No.12	6号基 前底部	須恵器	高坏	底径9.6 残存高5.0+	細砂粒(多) 白色粒(少)	不良	緑	緑	回転ナデ	回転ナデ	胴部のみ残存
第39図	12	No.24、一括	6号基 前底部	須恵器	高坏	口径(17.8) 底高13.0 底径9.8	細砂粒(多) 角閃石(少) 小石粒(少))	良	にぶい 黄	にぶい 黄	回転ナデ カキ目	回転ナデ	口縁部1/2以上欠損
第39図	13	No.44	6号基 前底部	須恵器	高坏	口径8.4 底高10.5 底径7.6	細砂粒(多) 白色粒(多)	良	灰白	灰白	回転ナデ	回転ナデ ナデ	坏部外面に五条の沈線を送らせる 口縁部1/3 底部1/2欠損
第39図	14	No.44、45、一括	6号基 前底部	須恵器	高坏	口径7.8 底高10.5 底径6.8	細砂粒(多) 白色粒(少)	良	黄灰	灰黄褐	回転ナデ カキ目	回転ナデ	残存度坏部1/2以上 胴部1/2以下
第40図	15	6号基 前底部No.10 3号基 前底部一括	3号基 前底部 6号基 前底部	須恵器	壺	口径35.5 胴部径54.7 底高63.6	細砂粒(多) 小石粒(多) 白色粒(多)	良	淡黄灰	灰	胴部工具痕 体部は平行タタキ	同心円タタキ	口縁部1/4以上残存
第40図	16	No.49、一括	6号基 前底部	須恵器	壺	口径22.4 胴部径39.8 底高46.1 底高34	細砂粒(多) 白色粒(多)	良	明オリ ブ灰 灰	灰 青灰	体部は平行タタキ	同心円タタキ	胴部は磨き文を施す 口縁部1/2程度残存 胴部上半1/4程度欠損
第40図	17	No.39	6号基 前底部	須恵器	坏蓋	口径11.2 底高3.4	細砂粒(多) 白色小石(少)	良	灰白	灰白	回転ナデ ヘラケズリ	回転ナデ ナデ	ロクロ右回り 完形 TK209並行期?
第40図	18	No.39	6号基 前底部	須恵器	坏蓋	口径10.9 底高3.5	細砂粒(多) 白色粒(少)	良	黄灰	灰黄	ヘラケズリ後回転ナデ	回転ナデ ナデ	体部外面にへう記号有り ほぼ完形
第40図	19	一括	6号基 前底部	須恵器	坏身又は高坏 の坏部	口径(11.0) 残存高3.8+	細砂粒(多)	良	明オリ ブ灰 灰	オリ ブ灰	回転ナデ	回転ナデ	底部欠損 残存度1/5以上
第40図	20	6号基 前底部No.14 3号基 前底部一括	6号基 前底部 3号基 前底部	須恵器	坏身	口径10.3 底高4.4	細砂粒(少) 白色粒(少)	良	にぶい 黄	にぶい 黄	回転ヘラケズリ後回転ナ デ	ナデ	体部外面にへう記号有り 口縁部1/2以下 TK43並行期 八女産
第40図	21	一括	6号基 前底部	須恵器	坏身	口径10.2 底高3.4	細砂粒(多) 長石(少) 白色粒(少)	良	灰	灰	回転ナデ 回転ヘラケズ リ	回転ナデ	体部外面にへう記号有り 3/4以上残存 TK209並行期?
第40図	22	No.30、一括	6号基 前底部	須恵器	高坏?	口径(14.3) 残存高6.8+	細砂粒(多) 長石(少) 白色粒(少)	やや 良	淡黄緑	緑	回転ナデ カキ目後ナデ	回転ナデ ナデ	体部外面に下半に五条に沈線を送らせる 内外面に赤彩の痕跡有り
第40図	23	一括	6号基 前底部	須恵器	高坏	底径6.8 残存高4.3+	細砂粒(多) 長石(少) 小石粒(少) 白色粒(少)	やや 良	緑	緑	回転ナデ	回転ナデ	胴部のみ残存
第40図	24	No.29	6号基 前底部	土師器	高坏	底径8.0 残存高6.4+	細砂粒(多) 長石(多) 白色粒(多)	不良	淡黄緑	淡黄緑	ナデ ヨコナデ	シボリ磨有り	器面が荒れている 胴部のみ残存
第41図	25	No.28、一括	6号基 前底部	須恵器	鉢	口径(8.9) 底高12.6	細砂粒(少)	良	灰	灰	回転ナデ カキ目 ケズリ後ナデ	回転ナデ 胴部にシボリ痕	体部外面にへう記号有り 胴部に割文文を巡らせ同じ高さに ヶ所穿孔を施す 胴部に自然輪付着 ロクロ右回り 口縁部～胴部1/2欠損 穿孔した際の粘土が内部に残り、振る とカクカと音がする 鈴を連想させたものか?
第41図	26	一括	6号基 前底部 6号基 前底部	須恵器	壺	胴部径(17.0) 残存高4.9+	細砂粒(多) 小石粒(少) 白色粒(少)	良	褐灰	褐灰	カキ目	回転ナデ	胴部のみ残存 口縁部と底部欠損
第41図	27	一括	6号基 前底部	須恵器	壺	胴部径(15.4) 残存高9.7+	細砂粒(多) 小石粒(少)	良	黒褐	黄灰	カキ目	回転ナデ	胴部～胴部残存 口縁部と底部欠損 胴部約1/5残存
第41図	28	一括	6号基 前底部	土師器	坏?	底径(8.6) 残存高1.9+	細砂粒(多) 角閃石(多) 白色粒(多)	良	にぶい 黄	にぶい 黄	ヨコナデ	ナデ ヨコナデ	切り離し痕は回転糸切り 底部1/4程度残存 口縁部欠損 中世

第3表 鉄製品観察表

3号墓 鉄製品観察表

押図 番号	遺物 番号	取上番号	出土地点	種別	器種	全長	最大幅	厚み	備考
						(cm)	(cm)	(cm)	
第24図	110	No.134	3号墓 前庭部	武器	鉄鍔（方頭鍔）	(6.5)	(2.5)	(0.6)	基部下部欠損
第24図	111	No.122	3号墓 前庭部	武器	鉄鍔（圭頭鍔）	7.9	2.2	0.3	基部の一部欠損
第24図	112	一括	3号墓 前庭部	武器	鉄鍔（長頭鍔）	(6.9)	0.9	0.4	基部の一部欠損
第24図	113	一括	3号墓 前庭部	武器	鉄鍔	(5.5)	0.7	0.4	基部のみ残存 樹皮が残存？
第24図	114	No.143	3号墓 前庭部	馬具	轡	(6.1)	(0.8)	(0.8)	銜の連結部分か銜と引手の連結部分と思われる
第24図	115	No.135	3号墓 前庭部	馬具	轡	(10.6)	(2.3)	(1.2)	上部欠損 引手 振りが見られる
第24図	116	一括	3号墓 前庭部	馬具	鎧の舌状金具？	(5.2)	(1.7)	(0.1)	舌状金具の上部のみ残存？
第24図	117	一括	3号墓 前庭部	馬具	不明鉄製品	6.4	1.8	0.2	馬具か？
第24図	118	一括	3号墓 前庭部	馬具	轡？	径 (5.2)	0.8	0.4	1/2程度残存 素環状鍔板？
第24図	119	No.72	3号墓 前庭部	馬具	轡	引手 (15.5) 鍔板 (5.0) 銜 (6.7)	(0.9) (8.2) (0.8)	(0.9) (0.7) (0.8)	複連兵庫鎖連結小型矩形立間造り環状鍔板 鍔板に銜及び引手が付く 鍔板は偏円形 鍔板から離れた状態の引手が残る 岡安編年第二段階 TK43並行期？
第24図	120	No.143	3号墓 前庭部	馬具	轡	(4.5)	2.4	1.2	引手と銜の連結部分か？ No.121と同一個体か？
第24図	121	No.143	3号墓 前庭部	馬具	轡	(19.6) 鍔板 径 5.2	引手1.1	引手1.1	鍔板に立間は付かない 引手は縄状に振じられている 銜先に引手と鍔板が連結している No.120と同一個体か？
第25図	122	No.17	3号墓 羨門～玄門通路	武器	鉄鍔（方頭鍔）	(5.6)	2.5	0.5	基部の一部欠損
第25図	123	一括	3号墓 通路	武器	鉄鍔	(4.4)	(1.3)	(0.7)	先端部は錆が確認できる 鍔身部～頸部の上部残存
第25図	124	一括	3号墓 通路	武器	鉄鍔	(4.2)	(1.0)	(0.5)	鍔身部の一部と頸部の一部
第25図	125	一括	3号墓 通路	武器	鉄鍔	(4.0)	(1.2)	(0.5)	鍔身部～頸部の上部残存
第25図	126	No.16	3号墓 通路	武器	鉄鍔 基部分	(8.1)	(0.8)	0.8	鍔身部の一部と基部の一部を欠損
第25図	127	No.10	3号墓 通路	武器	鉄鍔 基部分	(5.6)	0.7	0.5	基部分残存 両端は欠損
第25図	128	No.20	3号墓 羨門～玄門通路	武器	鉄鍔 基部分	(5.3)	(1.0)	(0.4)	
第25図	129	一括	3号墓 通路	武器	鉄鍔	(3.8)	(1.0)	(0.8)	頸部の下部～基部上部残存
第25図	130	一括	3号墓 通路	武器	鉄鍔	(5.3)	(1.0)	(0.8)	頸部の下部～基部上部残存
第25図	131	一括	3号墓 通路中央付近	武器	鉄鍔	(2.8)	(0.6)	(0.8)	木質が残存 樹皮を巻く
第25図	132	一括	3号墓 通路中央付近	武器	鉄鍔 矢柄先端部分	(2.5)	1.0	0.8	木質に樹皮が巻かれている 石灰質の被膜に覆われている
第25図	133	一括	3号墓 通路中央	武器	鉄鍔 基部分	(1.8)	(0.6)	(0.6)	木質残存
第25図	134	No.11	3号墓 通路	工具	刀子	(6.1)	(0.7)	(0.4)	
第25図	135	No.25	3号墓 閉塞石掘方	工具	刀子	(9.5)	(2.2)	(0.5)	刃の一部 口金 柄の一部が残存 柄は木質が残存
第25図	136	No.23	3号墓 羨門～玄門通路	工具	刀子	13.0	1.9	(0.6)	完形
第25図	137	No.1	3号墓 通路	馬具	轡の引手？	(11.0)	(0.5)	(0.5)	引手と銜を欠損
第25図	138	No.2	3号墓 通路	馬具	轡	(13.2)	(1.2)	(1.2)	轡の引手と銜の一部？
第25図	139	No.3	3号墓 通路	馬具	轡	5.6	1.2	0.6	空連素環状鍔板 立間を持たない
第25図	140	No.4	3号墓 通路	馬具	轡	6.4	1.2	0.6	空連素環状鍔板 立間を持たない
第25図	141	No.18	3号墓 羨門～玄門通路	馬具	鎧の舌状金具	(4.8)	2.2	1.5	1/2程度残存
第25図	142	No.19	3号墓 羨門～玄門通路	馬具	鎧の舌状金具	(5.1)	(2.1)	(0.1)	舌状金具の一部
第26図	143	No.22	3号墓 羨門～玄門通路	馬具	鎧	絞具 7.7 兵庫鎖 8.0	5.3 2.9	0.6 0.9	絞具は完形 兵庫鎖も三連はほぼ完形 前庭部出土のNo.142とセット 兵庫鎖と絞具
第26図	144	No.142	3号墓 前庭部	馬具	鎧	絞具 (7.1) 兵庫鎖 (7.1) 舌状金具 (3.6)	(0.8) (0.7) (0.5)	(0.8～2.0)	No.22とセット 兵庫鎖と絞具と舌状金具
第26図	145	No.26	3号墓 閉塞石掘方	馬具		(2.7)	1.9	(0.7)	皮帯金具の可能性ある 留め具か？
第26図	146	一括	3号墓 通路		不明鉄製品	(3.7)	(1.6)	(0.2)	
第26図	147	一括	3号墓 玄室左屍床入口側	武器	鉄鍔	(7.6)	(0.7)	(0.6)	基部分残存 両端は欠損
第26図	148	No.24	3号墓 閉塞石掘方	馬具	鎧？	6.8	4.9	2.2	皮帯を留める鉤が付くか？
第26図	149	No.21	3号墓 羨門～玄門通路	馬具	鎧	絞具 6.9 兵庫鎖 11.0	5.0 3.2	0.7 0.7	兵庫鎖二本 絞具一つ 完形 前庭部出土のNo.150とセット
第26図	150	No.97	3号墓 前庭部	馬具	鎧 兵庫鎖と絞具	絞具 7.0 兵庫鎖 8.9	4.5 3.2	0.5 0.6	サビのため絞具と兵庫鎖の連結部は不明 羨門～玄門通路出土のNo.149とセット
第27図	151	No.51	3号墓 羨道部	武器	鉄鍔（圭頭鍔）	9.5	2.8	0.6	基部の下部欠損
第27図	152	一括	3号墓 羨道部	武器	鉄鍔（飛燕式鉄鍔）	(7.2)	(4.8)	(0.4)	鍔身部の一部と基部の一部を欠損
第27図	153	一括	3号墓 羨道部	武器	鉄鍔（長頭鍔）	(12.9)	(1.3)	0.6	基部の一部欠損
第27図	154	No.62	3号墓 羨道部	武器	鉄鍔（長頭鍔）	(8.1) (3.1)	(1.2) (0.3)	(0.2) (0.3)	二つに折れている
第27図	155	No.50	3号墓 羨道部	武器	鉄鍔	(11.8)	0.7	0.3	鍔身部の上部の一部欠損
第27図	156	No.60	3号墓 羨道部	武器	鉄鍔	(9.7) (3.9)	(0.7) (0.6)	(0.1～ 0.6)	木質の残存、樹皮が巻かれている 三つに折れている
第38図	157	No.28	3号墓 羨門～玄門通路	武器	鉄鍔 茎から矢柄	(3.2)	(0.9)	(0.9)	木質残存 鍔身部は欠損
第27図	158	一括	3号墓 羨道部	武器	鉄鍔 基部分	(2.6)	(0.9)	(0.7)	
第27図	159	No.48	3号墓 羨門～玄門通路	馬具	絞具	5.5	0.4	0.4	全体の1/8程度欠損か？
第27図	160	No.45	3号墓 閉塞石掘方近く	馬具	鎧の舌状金具	(7.9)	(1.7)	2.0	鉤が2本ある
第27図	161	No.46	3号墓 閉塞石掘方近く	馬具	鎧の舌状金具？	(5.4)	(1.7)	2.0	鉤が2本ある
第27図	162	No.47	3号墓 閉塞石掘方近く	馬具	鎧の舌状金具	(10.8)	1.4	2.0	鉤が二本ある 木質残存か？
第27図	163	No.52	3号墓 羨道部	馬具	鎧 兵庫鎖と絞具	絞具 (7.0) 兵庫鎖 (7.5)	4.3 3.0	0.6 0.6	サビのため絞具と兵庫鎖の連結部は不明 前庭部出土のNo.164とセット
第27図	164	No.120	3号墓 前庭部	馬具	鎧 兵庫鎖と絞具	絞具 8.3 兵庫鎖 8.0	4.5 2.8	0.8 0.7	兵庫鎖 絞具ともに完形 羨道部出土のNo.163とセット

4号墓 鉄製品観察表

押図 番号	遺物 番号	取上番号	出土地点	種別	器種	全長	最大幅	厚み	備考
						(cm)	(cm)	(cm)	
第36図	90	No.1	4号墓 羨門部	武器	鉄鍔（長頭鍔）	(10.5)	1.0	0.4	基部欠損

5号墓 鉄製品観察表

押図 番号	遺物 番号	取上番号	出土地点	種別	器種	全長	最大幅	厚み	備考
						(cm)	(cm)	(cm)	
第36図	91	No.53	5号墓 前庭部	武器	鉄鍔（方頭鍔）	13.5	3.7	0.5	完形
第36図	92	No.71	5号墓 前庭部	武器	鉄鍔（方頭鍔）	10.3	4.2	0.4	基部欠損
第36図	93	No.79	5号墓 前庭部	武器	鉄鍔（圭頭鍔）	(7.9)	5.8	0.5	基部の一部欠損

第3表 鉄製品観察表

5号墓 鉄製品観察表

押図 番号	遺物 番号	取上番号	出土地点	種別	器種	全長	最大幅	厚み	備考
						(cm)	(cm)	(cm)	
第36図	94	No.54	5号墓 前庭部	武器	鉄鏃（主頭鏃）	(6.9)	(2.5)	(0.7)	木質残存
第36図	95	No.86	5号墓 前庭部	武器	鉄鏃（主頭鏃）	(8.1)	2.9	(0.6)	基部の一部欠損
第36図	96	一括	5号墓 前庭部	武器	鉄鏃	(3.3)	(1.5)	(0.5)	別個体の鉄片が錆着している
第36図	97	一括	5号墓 前庭部	武器	鉄鏃	(6.4)	(1.2)	(1.0)	頭部～基部の上半部残存 木質残存
第36図	98	一括	5号墓 前庭部	武器	鉄鏃	(5.3)	(0.7)	(0.5)	頭部の下部～基部残存
第36図	99	一括	5号墓 前庭部	武器	鉄鏃 矢柄装着部分	(3.0)	0.8	0.8	木質及び樹皮の残存 内部に茎が残っている様である
第36図	100	一括	5号墓 前庭部	武器	鉄鏃	(2.0)	(0.6)	(0.5)	上部及び下部欠損 棒状を呈する
第36図	101	一括	5号墓 前庭部	武器	鉄鏃 茎部分	(2.3)	(0.6)	(0.5)	木質残存
第36図	102	一括	5号墓 前庭部		不明鉄製品	(5.1)	(0.9)	0.3	用途不明
第36図	103	一括	5号墓 前庭部		不明鉄製品	(2.4)	(0.6)	(0.4)	上部及び下部欠損 棒状を呈する
第36図	104	No.74	5号墓 前庭部		不明鉄製品	(1.6)	(0.9)	(0.3)	薄い板状の鉄製品
第36図	105	一括	5号墓 通路入口側	武器	鉄鏃	(11.4)	3.0	0.6	矢柄の木質及び樹皮の残存 基部の一部欠損
第36図	106	一括	5号墓 通路入口側	武器	鉄鏃（長頭鏃）	(7.6)	1.0	0.5	基部欠損
第36図	107	一括	5号墓 通路入口付近	武器	鉄鏃	(4.6)	(0.7)	(0.6)	基部のみ残存
第36図	108	一括	5号墓 通路入口付近	武器	鉄鏃	(2.8)	(1.6)	(0.4)	鏃身下半部のみ残存 基部に木質及び樹皮の残存
第36図	109	一括	5号墓 通路入口側		不明鉄器	(3.7)	(0.9)	0.5	鉄鏃の茎部分？断面は台形を呈する
第36図	110	一括	5号墓 通路入口付近		不明鉄器	(2.4)	(0.4)	(0.3)	上部及び下部欠損 木質残存 棒状を呈する
第36図	111	一括	5号墓 通路入口付近	武器	鉄鏃	(1.9)	(0.7)	(0.6)	基部のみ残存
第37図	112	No.16	5号墓 右屍床	武器	鉄鏃（長頭鏃）	(17.3)	1.2	1.3	基部に木質と樹皮が残存 基部下端欠損
第37図	113	No.13	5号墓 右屍床	武器	鉄鏃（長頭鏃）	(15.5)	1.0	0.9	矢柄との接合部に木質と樹皮が残存
第37図	114	No.6	5号墓 右屍床	武器	鉄鏃（長頭鏃）	(15.6)	1.1	0.4	基部下端欠損 木質及び樹皮の残存
第37図	115	No.19	5号墓 右屍床	武器	鉄鏃（長頭鏃）	(14.6)	1.2	0.8	矢柄との接合部に木質及び樹皮が残存 茎が見える
第37図	116	No.7	5号墓 右屍床	武器	鉄鏃（長頭鏃）	(14.2)	1.0	0.8	矢柄との接合部に樹皮が残存 矢柄内部に茎が見える
第37図	117	No.2	5号墓 右屍床	武器	鉄鏃（長頭鏃）	(13.4)	1.0	0.7	基部欠損 矢柄の木質残存
第37図	118	一括	5号墓 右屍床入口側	武器	鉄鏃（長頭鏃）	(13.8)	1.0	0.5	基部欠損 木質がわずかに残存
第37図	119	No.18	5号墓 右屍床	武器	鉄鏃（長頭鏃）	(12.3)	1	0.6	基部欠損
第37図	120	一括	5号墓 右屍床入口側	武器	鉄鏃（長頭鏃）	(12.1)	1.1	0.4	基部欠損
第37図	121	No.4	5号墓 右屍床	武器	鉄鏃（長頭鏃）	(11.5)	0.9	0.4	基部欠損
第37図	122	No.9	5号墓 右屍床	武器	鉄鏃（長頭鏃）	(10.4)	1.0	0.6	基部欠損
第37図	123	一括	5号墓 右屍床入口側	武器	鉄鏃（長頭鏃）	(5.5)	0.9	0.9	木質及び樹皮の残存 内部に茎が残っている様である
第37図	124	No.15	5号墓 右屍床	武器	鉄鏃	(9.0)	(1.0)	(1.0)	矢柄に木質と樹皮残存 植物繊維残存
第37図	125	No.14	5号墓 右屍床	武器	鉄鏃	(6.6)	1.2	1.1	基部に樹皮が残存 内部に茎が残存
第37図	126	No.12	5号墓 右屍床	武器	鉄鏃	(5.5)	(0.9)	(0.9)	鉄部分は僅かに残り空洞化する 矢柄に木質と樹皮残存
第37図	127	一括	5号墓 右屍床	武器	鉄鏃	(2.7)	0.8	0.6	木質の矢柄内部に茎の一部が残存
第37図	128	一括	5号墓 右屍床奥側	武器	鉄鏃	(7.2)	0.5	0.5	基部に樹皮が残存 鏃身部の一部と基部の一部は欠損
第37図	129	一括	5号墓 右屍床奥側	武器	鉄鏃	(2.0)	0.4	0.3	基部に樹皮が残存 鏃身部は欠損
第38図	130	No.20	5号墓 右屍床	馬具	轡？	径6.2～6.6	0.9	0.7	素環状鍍板の可能性が有る
第38図	131	No.21	5号墓 右屍床	馬具	轡？	9.1	0.7	0.7	銜か？両端は欠損したと思われる
第38図	132	No.1	5号墓 右屍床	工具	刀子	(12.5)	(1.7)	(0.3)	刃部・柄部ともに一部欠損
第38図	133	No.3	5号墓 右屍床	馬具	轡	(14.2)	(0.6)	(0.8)	銜と引手の共連結？ 銜先の一部欠損
第38図	134		5号墓 不明	武器	鉄鏃（長頭鏃）	(16.2)	1.4	0.4	基部に木質 植物繊維 樹皮が残存 基部下端欠損
第38図	135		5号墓 不明	武器	鉄鏃（長頭鏃）	(12.3)	1.1	0.5	基部欠損
第38図	136		5号墓 不明	武器	鉄鏃	(4.6)	(0.7)	(0.5)	基部のみ残存 木質残存

6号墓 鉄製品観察表

押図 番号	遺物 番号	取上番号	出土地点	種別	器種	全長	最大幅	厚み	備考
						(cm)	(cm)	(cm)	
第41図	29	No.33	6号墓 前庭部	工具	刀子	(3.9)	1.2	0.3	切先部分のみ残存
第41図	30	No.46	6号墓 前庭部	武器	鉄鏃（方頭鏃）	(5.5)	2.6	0.5	基部欠損

不明遺構 鉄製品観察表

押図 番号	遺物 番号	取上番号	出土地点	種別	器種	全長	最大幅	厚み	備考
						(cm)	(cm)	(cm)	
第41図	31		不明	武器	鉄鏃（飛燕式鉄鏃）	(6.9)	(4.2)	(0.3)	鏃身部の一部欠損
第41図	32		不明	武器	鉄鏃（飛燕式鉄鏃）	(7.6)	(3.4)	(0.5)	基部欠損
第41図	33		不明	武器	鉄鏃（飛燕式鉄鏃）	(10.1)	(5.2)	(0.2)	刃部の一部と基部下端欠損

第4表 耳環・石製品観察表

3号墓 耳環観察表

押図 番号	遺物 番号	取上番号	出土地点	メッキ の材質	縦幅	横幅	断面径	開口部幅	重さ	備考
					(mm)	(mm)	(mm)	(mm)	(g)	
第23図	182	No.58	3号墓 羨道部左壁面	金	19	20.0	6.0	1.0	6.0	No.182とNo.183は同じ大きさで対になる可能性が有る 完形
第23図	183	No.148	3号墓 羨道部左壁面	金	19	20.0	6.0	1.0	6.0	No.183とNo.182は同じ大きさで対になる可能性が有る 完形
第23図	184	一括	3号墓 通路中央付近	不明	(24.0)		5.5		2.0	1/2程度欠損
第23図	185	一括	3号墓 通路	銀	26	28.0	8.0	1.5	13.0	No.185とNo.186は同じ大きさで対になる可能性が有る 完形
第23図	186	一括	3号墓 通路	銀	26	28.0	8.0	1.5	15.0	No.186とNo.185は同じ大きさで対になる可能性が有る 完形

5号墓 耳環観察表

押図 番号	遺物 番号	取上番号	出土地点	メッキ の材質	縦幅	横幅	断面径	開口部幅	重さ	備考
					(mm)	(mm)	(mm)	(mm)	(g)	
第38図	145	No.83	5号墓 前庭部	銀	28.0	32.0	8.0	1.0	21.0	完形
第38図	146	No.84	5号墓 前庭部	不明	23.0	25.0	6.0	2.0	5.0	欠けている部分がある
第38図	147	No.85	5号墓 前庭部	銀	25.0	27.0	9.0	1.0	14.0	完形
第38図	148	No.11	5号墓 右屍床 床直面	銀	24.0	27.0	6.0	3.0	6.0	開口部のメッキが剥げ銅の芯が露出

5号墓 石製品観察表

押図 番号	遺物 番号	取上番号	出土地点	種類	材質	色調	径 (mm)	厚み (mm)	孔径 (mm)	備考
第38図	149	一括	5号墓 前庭部	石製紡錘車	不明	黒色	41.0	14.0	8.0	穿孔は上面一方より加工 ほぼ円形

第4表 耳環・石製品観察表

6号墓 耳環観察表

挿図 番号	遺物 番号	取上番号	出土地点	メッキ の材質	縦幅	横幅	断面径	開口部幅	重さ	備 考
					(mm)	(mm)	(mm)	(mm)	(g)	
第41図	86	No.1	6号墓 羨道部 閉塞石近く	銀	26.0	29.0	8.0	1.0	15.0	
第41図	87	No.2	6号墓 羨道部 閉塞石下	金	22.0	23.0	8.0	1.0	10.0	No.87とNo.88は同じ大きさで対になる可能性が有る
第41図	88	一括	6号墓 羨門部 閉塞石下	金	22.0	23.0	8.0	1.0	8.0	No.88とNo.87は同じ大きさで対になる可能性が有る
第41図	89	一括	6号墓 通路入口側	銀	21.0	22.0	8.0	0.3	8.0	開口部はかなり狭い
第41図	90	一括	6号墓 左屍床中央付近	金	20.0	21.0	7.0	1.0	8.0	No.90とNo.91は平面と断面が同じ大きさで対になる可能性が有る
第41図	91	一括	6号墓 左屍床奥側	金	20.0	21.0	7.0	1.0	9.0	No.91とNo.90は平面と断面が同じ大きさで対になる可能性が有る
第41図	92	一括	6号墓 左屍床奥側	不明	20.0	22.0	9.0	0.8	9.0	No.91と同じ大きさで同地点から出土 対になる可能性が有る

第5表 玉類観察表

3号墓 玉類観察表

挿図 番号	遺物 番号	取上番号	出土地点	種 類	材 質	色 調	径 (mm)	厚み (mm)	孔径 (mm)	備 考
第23図	165	一括	3号墓 羨道部	滑石製小玉	滑石		8.0	5.0	2.0	
第23図	166	一括	3号墓 通路中央付近	ガラス製小玉	ガラス	濃紺色	3.0	2.0	1.0	
第23図	167	一括	3号墓 通路中央付近	ガラス製小玉	ガラス	濃青色	6.0	3.0	1.5	
第23図	168	一括	3号墓 通路中央付近	ガラス製小玉	ガラス	青色	4.0	3.0	1.5	
第23図	169	一括	3号墓 通路中央付近	ガラス製小玉	ガラス	紺色	6.0	5.0	2.0	
第23図	170	一括	3号墓 通路中央付近	土製小玉	土	黒色	6.0	4.0	1.5	
第23図	171	一括	3号墓 通路中央付近	土製小玉	土	黒色	6.0	5.0	1.5	
第23図	172	一括	3号墓 通路中央付近	土製小玉	土	黒色	6.0	5.0	1.0	
第23図	173	一括	3号墓 通路中央付近	土製小玉	土	黒色	6.0	5.0	1.0	
第23図	174	一括	3号墓 通路中央付近	土製小玉	土	黒色	5.5	4.5	1.0	
第23図	175	一括	3号墓 通路中央付近	土製小玉	土	黒色	7.0	5.0	1.0	
第23図	176	一括	3号墓 通路中央付近	土製小玉	土	黒色	6.0	5.0	1.5	
第23図	177	一括	3号墓 通路奥側	土製小玉	土	黒色	6.0	5.0	1.5	
第23図	178	一括	3号墓 奥屍床右側	滑石製小玉	滑石		9.0	5.0	2.0	
第23図	179	一括	3号墓 奥屍床中央付近	土製小玉	土	黒色	6.0	4.0	1.0	
第23図	180	一括	3号墓 奥屍床左側	土製小玉	土	黒色	5.5	5.0	1.0	
第23図	181	一括	3号墓 奥屍床	ガラス製小玉	ガラス	紺色	4.0	3.0	1.5	

5号墓 玉類観察表

挿図 番号	遺物 番号	取上番号	出土地点	種 類	材 質	色 調	径 (mm)	厚み (mm)	孔径 (mm)	備考
第38図	137	一括	5号墓 前庭部	土製管玉	土	黒色	8.0	高さ19	1.0	
第38図	138	一括	5号墓 前庭部	土製丸玉	土	黒色	8.0	7.0	1.5	
第38図	139	一括	5号墓 前庭部	土製丸玉	土	黒色	10.0	6.0	2.0	
第38図	140	一括	5号墓 前庭部	土製丸玉	土	黒色	10.0	7.0	1.0	
第38図	141	一括	5号墓 前庭部	ガラス製小玉	ガラス	青色	4.0	3.5	1.0	
第38図	142	一括	5号墓 羨門部	ガラス製小玉	ガラス	緑青色	5.0	4.0	1.5	
第38図	143	一括	5号墓 左屍床入口側	土製丸玉	土	黒色	8.0	8.0	1.5	
第38図	144	一括	5号墓 右側屍床	滑石製小玉	滑石		7.0	6.0	2.0	

第5表 玉類観察表

6号墓 玉類観察表

挿図 番号	遺物 番号	取上番号	出 土 地 点	種 類	材 質	色 調	径	厚み	孔径	備 考
							(mm)	(mm)	(mm)	
第41図	34	一括	6号墓 羨門部閉塞石下	ガラス製丸玉	ガラス	緑色	10.0	9.0	3.0	風化で状態が悪化し一部が白色化
第41図	35	一括	6号墓 通路入口側付近	ガラス製丸玉	ガラス	濃緑色	9.0	7.0	3.0	
第41図	36	一括	6号墓 通路入口側付近	土製小玉	土	黒色	6.0	5.0	1.0	
第41図	37	一括	6号墓 通路入口側付近	土製小玉	土	黒色	4.0	4.0	1.0	
第41図	38	一括	6号墓 通路入口側付近	土製小玉	土	黒色	6.0	5.0	1.0	
第41図	39	一括	6号墓 通路入口側付近	ガラス製小玉	ガラス	黄白色	7.0	4.0	3.0	風化による劣化で白色化 元の色は不明
第41図	40	一括	6号墓 通路入口側付近	ガラス製丸玉	ガラス	白色	9.0	6.0	4.0	風化による劣化で白色化 元の色は不明
第41図	41	一括	6号墓 通路入口側付近	ガラス製小玉	ガラス	白色	7.0	4.0	1.5	風化による劣化で白色化 元の色は不明
第41図	42	一括	6号墓 通路中央付近	土製小玉	土	黒色	4.5	3.0	1.0	
第41図	43	一括	6号墓 通路奥側	土製小玉	土	黒色	7.0	4.0	1.0	
第41図	44	一括	6号墓 通路奥側	土製小玉	土	黒色	4.5	3.5	1.0	
第41図	45	一括	6号墓 通路奥側	土製小玉	土	黒色	4.0	3.0	1.0	
第41図	46	一括	6号墓 通路奥側	土製小玉	土	黒色	4.0	3.0	1.0	
第41図	47	一括	6号墓 通路奥側	土製小玉	土	黒色	4.0	3.0	1.0	
第41図	48	一括	6号墓 通路奥側	土製小玉	土	黒色	4.0	3.0	1.0	
第41図	49	一括	6号墓 通路奥側	土製小玉	土	黒色	4.0	3.0	1.0	
第41図	50	一括	6号墓 通路奥側	土製小玉	土	黒色	4.0	3.0	1.0	
第41図	51	一括	6号墓 通路奥側	土製小玉	土	黒色	5.0	3.0	1.0	
第41図	52	一括	6号墓 通路奥側	土製小玉	土	黒色	6.0	4.0	1.5	
第41図	53	一括	6号墓 通路奥側	土製小玉	土	黒色	4.0	3.0	1.0	
第41図	54	一括	6号墓 通路奥側	土製小玉	土	灰黒色	5.0	3.5	1.0	
第41図	55	一括	6号墓 通路奥側	土製小玉	土	黒色	4.0	3.0	1.0	
第41図	56	一括	6号墓 通路奥側	土製小玉	土	黒色	5.0	4.0	1.0	
第41図	57	一括	6号墓 通路奥側	土製小玉	土	黒色	4.0	4.0	1.0	
第41図	58	一括	6号墓 通路奥側	土製小玉	土	黒色	4.5	4.0	1.0	
第41図	59	一括	6号墓 通路奥側	土製小玉	土	黒色	6.0	4.0	1.0	
第41図	60	一括	6号墓 通路奥側	土製小玉	土	黒色	4.5	4.0	1.0	
第41図	61	一括	6号墓 通路奥側	土製小玉	土	黒色	4.0	3.0	1.0	
第41図	62	一括	6号墓 通路奥側	土製小玉	土	黒色	4.0	4.0	1.0	
第41図	63	一括	6号墓 通路奥側	土製小玉	土	黒色	4.5	4.0	1.0	
第41図	64	一括	6号墓 通路奥側	土製小玉	土	黒色	4.5	4.0	1.0	
第41図	65	一括	6号墓 通路奥側	土製小玉	土	黒色	6.0	4.5	1.5	
第41図	66	一括	6号墓 通路奥側	土製小玉	土	黒色	7.0	4.0	1.5	縁の一部が欠損
第41図	67	一括	6号墓 通路奥側	土製小玉	土	黒色	5.0	4.0	1.0	
第41図	68	一括	6号墓 通路奥側	土製小玉	土	黒色	6.0	4.0	1.0	
第41図	69	一括	6号墓 通路奥側	土製小玉	土	黒色	6.0	4.0	1.5	縁の一部が欠損
第41図	70	一括	6号墓 通路奥側	土製小玉	土	黒色	4.5	4.0	1.0	縁の一部が欠損
第41図	71	一括	6号墓 通路奥側	土製小玉	土	黒色	6.0	5.0	1.0	縁の一部が欠損
第41図	72	一括	6号墓 右屍床中央付近	土製小玉	土	黒色	6.0	4.0	1.0	
第41図	73	一括	6号墓 右屍床奥側	ガラス製丸玉	ガラス	緑色	8.0	7.0	2.0	
第41図	74	一括	6号墓 右屍床奥側	土製小玉	土	黒色	4.0	3.0	1.0	
第41図	75	一括	6号墓 左屍床中央付近	土製小玉	土	黒色	4.0	3.0	1.0	
第41図	76	一括	6号墓 左屍床中央付近	土製小玉	土	黒色	4.0	3.0	1.0	
第41図	77	一括	6号墓 左屍床中央付近	土製小玉	土	黒色	4.0	3.0	1.0	
第41図	78	一括	6号墓 左屍床中央付近	土製小玉	土	黒色	5.0	4.0	1.0	
第41図	79	一括	6号墓 通路中央付近	土製小玉	土	黒色	4.0	3.0	1.0	
第41図	80	一括	6号墓 通路中央付近	土製小玉	土	黒色	4.0	3.0	1.0	
第41図	81	一括	6号墓 通路中央付近	土製小玉	土	黒色	4.0	3.0	1.0	全体の約半分程度が欠損
第41図	82	一括	6号墓 左屍床奥側	土製小玉	土	黒色	4.0	4.0	1.0	
第41図	83	一括	6号墓 左屍床奥側	土製小玉	土	黒色	5.0	3.0	1.0	
第41図	84	一括	6号墓 左屍床奥側	ガラス製丸玉	ガラス	黄白色	9.0	6.0	2.0	
第41図	85	一括	6号墓 奥屍床左側	ガラス製丸玉	ガラス	緑色	9.0	6.0	3.0	

第Ⅳ章 まとめ

本横穴群の調査では、調査期間の制限により土層堆積の観察が行えなかったことから層位的な発掘調査ができなかった。しかし、前庭部から多量の遺物が出土しており、出土位置の記録から葬送儀礼を考察した。また、墓室の形態から変遷の時期について述べたい。

出土遺物は、土師器より須恵器が圧倒的に多く、八女産須恵器が目立つことが分かった。高坏は、有蓋高坏が無く、全て無蓋高坏であった。さらに、ヘラ記号のある須恵器が多いという特徴がある。^{註1)}

3号墓は、玄室から土器の出土が無く、羨道から前庭部に散在する状況で出土した。また、羨門～玄門通路及び玄室通路からの出土遺物は、鉄製品のみに限られ、羨道から前庭部との出土状況と明確な差異を確認できた。前庭部右棚状施設からは、珍しい器形である俵壺形の土師器（No. 152）が出土している。羨道下段の左壁面隅において坏身（No. 54）、提瓶（No. 55・57）、甕（No. 56）の出土状況は、「再配置」いわゆる片付けを行った可能性が高く、甕は逆位での出土であった。散在した状況は、荒らされたような出土であるが、大形容器が右壁面側で出土している状況や甕（No. 127）の口縁～頸部が逆位になっている点から意図的に置かれたと考えたい。さらに打ち欠き口縁の坏が多いことから破砕された可能性が高いと思われる。また、遺物の接合関係や馬具のセット関係の位置関係が離れており、意図的に破砕した土器を広範囲に撒く「破砕散布」の可能性も考えられるが、詳細な状況が分からないため不明である。3号墓出土遺物の主体は、TK43～209 並行期である。

5号墓の出土土器は、基本的に前庭部より出土した。前庭部左壁面に寄せてある状況であり、「再配置」であると考えられる。打ち欠き口縁の坏が少なながらも確認された。概して4つの群が認められ、器形の構成は、甕ないし壺の大形容器と高坏や甕そして坏から成ることが推測される。坏（No. 32）を中心とした一群は、TK43～209 並行期に相当する遺物が主である中、坏身（No. 94）のみがMT85 並行期であった。また、調査区側の前庭部左壁面にもMT85 並行期に相当する坏蓋（No. 28・51・56・82）が出土している。5号墓出土遺物の主体は、TK43 並行期である。

6号墓は玄室内からの出土は無く、土器類は、前庭部より出土した。前庭部左棚状施設と前庭部右壁面において埋納の痕跡が確認された。この埋納された前庭部右壁面の甕2点と前庭部左壁面側の甕（No. 11）は、破砕された可能性が考えられる。前庭部中央の調査区壁面側から出土した甕は、内部に穿孔した粘土塊が残る振るとカラカラと音がすることから鈴を連想させる。これと同様の甕は、3号墓のNo. 56がある。6号墓の出土遺物の主体は、TK43～209 並行期である。

以上のように、3・5・6号墓の出土遺物から「破砕」、「埋納」、「再配置」の可能性あることを推測した。1・2・4号墓からの出土遺物は、ほぼ皆無であったが、この出土状況の差は、時期差また階層差であるのか不明である。3・5・6号墓から出土した古代（9世紀後半）から中世の遺物は追善供養が行われていたことを示す。出土遺物の接合関係は、特に3号墓で多く認められた。その中でも3号墓と6号墓で接合していることは、「つつじヶ丘横穴群」報告書で指摘されている破砕後の破片に二次的な意義付けがあったものと同様であると考えられる。^{註2)}

3号墓出土の轡（No. 72）は、「複連兵庫鎖連結小型矩形立間造り環状鏡板」であり、熊本県山鹿市の湯ノ口横穴群179号墓と類似しており、岡安編年第2段階のTK43以前の時期と考えられる。鉄鏃では、出土地点が不明ながら飛燕式鉄鏃が3点出土した。

次に、墓室の構造から変遷の時期について述べたい。本横穴群の屍床部は、コ字形の「肥後型」が主体であった。玄室の主軸方向は、3・5・6号墓と1・2・4号墓が異なる。また3・5・6号墓は、羨道部が明瞭で、前庭部は、外側に開く形態であるのに対し、1・2・4号墓は、羨道部がない。さらに飾縁や羨門の形態において残存状況の差異はあるものの、1・2・6号墓が楕円に近い形状であるのに対し、3～5号墓は、縦長の楕円で、形状が異なる。

天井部の形態は、切妻の屋根型が主体であり、寄棟の屋根型が認められない。また、天井部断面はアーチ、ドーム形を呈しており、天井屋根型が省略化され、崩れている時期に相当する。^{註3)} 5号墓以外の玄室通路は、奥屍床に向かい傾斜が上がり、狭くなる。

出土遺物から想定される築造時期及び最終追葬時期について述べたい。3号墓の築造時期は、TK43 並行期、最終追葬時期は、7世紀後半と考えられる。5号墓の築造時期は、MT85 並行期の坏が2点のみであるため遅くとも

TK43 並行期で、本横穴群において最も古い。最終埋葬時期は、TK217 並行期と考えられる。6 号墓の築造時期は、TK43 並行期、最終埋葬時期は、TK209 並行期とみられる。玄室の主軸方向の差は時期差として捉え、3・5・6 号墓が古く、1・2・4 号墓が新しいと想定した。3・5・6 号墓の築造時期は、出土遺物から TK43 並行期であり、この 3 基で最も古いのは、玄室通路が平坦で通路が奥屍床側へ狭くならない点から 5 号墓と考えられる。1・2・4 号墓の築造時期は、TK43 並行期以降となるが、出土遺物が少なく、残存状況があまり良くないため分からない。4 号墓は、同じ塩浸川水系の源流にある豊岡宮本横穴群の 7 世紀前半に築造されたと推測される 12 号墓に類似することからその時期に近いものとしておきたい。^{註 4)}

最後に、本横穴群における墓室形態の変遷を示したい。玄室平面形は、台形から方形へ変化する。また、天井部中央において縦位方向の断面が平坦から湾曲へ、玄室の横断形は、直立から内傾ぎみに立ち上がる壁面から外側に開き、湾曲を呈する形に変化する。今回、前庭部から多くの遺物が出土したことから墓室の形態とも合わせることで築造時期まで考えることができた。しかし、墓室の形態については、天井形態の省略化が始まる 6 世紀後半以降、小地域や同一集団内においても差が大きい可能性も考えられる。今後の発掘調査に期したい。

註

註 1) 木村龍生氏（熊本県教育庁文化課）によりご教示頂いた。

註 2) 美濃口雅朗 2002 『つつじヶ丘横穴群』 熊本市教育委員会

註 3) 美濃口雅朗 2001 「地域の概要 - 肥後 -」『九州の横穴墓と地下式横穴墓 第 1 分冊』九州前方後円墳研究会

註 4) 米村大・杉井涼子 2006 「豊岡宮本横穴群」熊本県合志町文化財調査報告書第 2 集 合志町教育委員会

参考文献

岡安光彦 1984 「いわゆる「素環の轡」について—環状鏡板付轡の型式学的分析と編年」『日本古代文化研究』創刊号

高木正文 1985 『古城横穴群墓』熊本県文化財調査報告第 74 集 熊本県教育委員会

中村幸史郎 1990 『湯の口横穴群（Ⅲ）』山鹿市教育委員会

西住欣一郎 1991 「肥後における横穴墓について」『おおいた考古』第 4 集 大分県考古学会

中原幹彦 1996 「熊本宇城窯跡郡の古墳時代須恵器」『肥後考古』第 9 号 肥後考古学会

増田直人 2010 「粕道遺跡 鬼迫横穴群」『植木町文化財調査報告 第 22 集』植木町教育委員会

後藤克博 2013 「北岡横穴群」『熊本県文化財調査報告 第 290 集』熊本県教育委員会

木村龍生 2013 「須恵器から見た地域間交流の一様相—特に八女産須恵器・宇城産須恵器を中心に—」

『古墳時代の地域間交流 1』九州前方後円墳研究会